

# 育教の兒幼

號九・八第 號 月 九 卷九十三第



內校學範師等高子女京東  
會協園稚幼本曰

倉橋惣三編 (新刊)

# 新體幼稚園唱歌

四六倍判  
定價(送料共)

金七拾錢

目 日本国旗の丸の旗  
倉橋惣三 作曲  
小松耕輔 作詞  
倉橋惣三 作曲  
井上武士 作曲

いうびんやさん  
倉橋惣三 作曲  
弘田龍太郎 作詞  
渡し場の船頭さん  
倉橋惣三 作曲  
中山晋平 作詞  
火消しのなちさん  
倉橋惣三 作曲  
小林つや江 作詞

日本幼稚園協會編 (新刊)

# 幼稚園新唱歌

四六倍判  
定價(送料共)

金五拾錢

目 だか  
山村きよ 作曲  
小松耕輔 作詞  
小松耕輔 作曲  
小松耕輔 作曲

ほたる  
青山綾子 作曲  
小松耕輔 作詞  
青山綾子 作曲  
ふしん場  
小松耕輔 作曲  
氏原鍾 作詞

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。



東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

(再版)

# 觀察の實際

菊判二三〇頁

定價金壹圓

送東京金六錢  
料市内金九錢  
其他

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に何ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

## 幼稚園談話集 (四版)

菊版三五〇頁  
送東京金壹圓五拾錢  
料市内金六錢  
地方北海道滿洲  
樺太朝鮮

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

## 系統的保育案の實際 (四版)

定價金壹圓  
送料金六錢

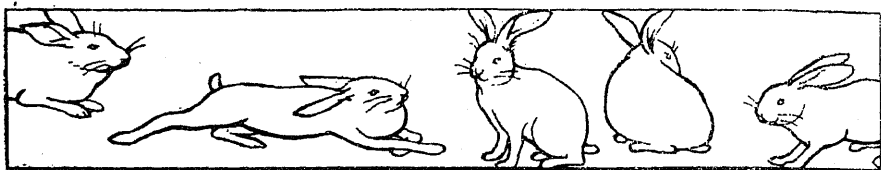
## 幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢  
一ケ年 金四圓貳拾錢 送料共

日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園  
小石川大塚五三  
石川大塚五三  
園附屬

振替東京一七二六六



第九卷 幼 兒 教 育 第 八 號

目 次

保姆の教養	會橋 惣三(一)
健全な精神は健康な身體に宿るか	牛島 義友(三)
夏日漫筆	曾 根 保(七)
森川先生の御退官	會澤 タガエ(三)
殘花聚園(八)	石 川 謙(二五)
正男さんの井戸	石 井 庄 司(二九)
戸外の自由遊び	及 川 ふ み(三三)
幼稚園と尋常小學校との連絡に關する資料調査	東京市保育會(三五)
わりがみ お月様ごたぬき	内 山 憲 尙(三九)
幼児に讀んで仲よし子兎さんのお話	武 田 雪 夫(四三)
聞かせるお話	久 米 京 子(四六)
子供達の幼稚園時代の健康状態	德 久 智 江 子(四八)
小さな試み	德 久 智 江 子(四八)
幼稚園の事局的注意事項の二點	( 穴 )
芝居 出征・戰場	菊 池 ふ じ の(五九)
人形 出居	( 穴 )
ハイデイ——ヨハンナ・スピリ原作	津 田 芳 雄 譯(七)

# 三版

日本幼稚園協會編

## 幼稚園談話集

菊版三五〇頁  
定價金壹圓五拾錢

郵 稅

市 內 金 六 錢  
地方・北海道  
朝鮮・滿洲 金 拾 五 錢

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編「系統的保育案の實際」は非常の歡迎を受け、既に多数の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まどめにした書物がなにかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと思ひます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたれば幸です。

# 四版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

## 系統的保育案の實際

定 價 金 壹 圓  
送 料 金 六 錢

代金引換は  
御斷り申上候

一保育案の實際は幼稚園必須の資料  
一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考  
一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

# 月刊

## 幼兒の教育

一ヶ月 金參拾五錢  
送料金一錢  
一ケ年 金四圓貳拾錢  
送 料 共

幼兒教育に關する忠實なる月刊雜誌として、眞に全國幼稚園、託兒所の方々のものたらんことを切望してゐます。

發 行 所

日本幼稚園協會

○定價及郵税を添へ本會宛直接御註文下さい。

東京市小石川區大塚町卅五番地  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內  
振替東京一七二六六番

# 幼 児 の 教 育

昭和四十八年九月



腹ばいになつてゐるところをみると、家の  
畳の上と思へる。汽罐車が黒煙をはいて  
ゐるのは、ほんとうに走るものと思へる。  
さて發車となつて、客車連結を一つ忘れた  
ことに気がついた。それは妹が気がついた  
ので、早くして笑れないと汽車が出て仕舞  
ふといふ。その顔も真剣なれば、それを大  
變大變といつて急いで繋ごうとしてゐる二  
人の顔も真剣である。

(倉橋生)

# 保姆の教養

倉橋 惣 三

時局に於て幼児保育の重要性は益々その大を加へる。之が爲に、施設の擴張充實、又研究の進歩、精深が必要になる。しかも教育は常に人にあり、保育に於て又特にそうである。幼稚園教育者の自己教養は、常に一刻の油断なく精進努力されてあるところであるが、この時局、保育充實の他の方面が著々として講ぜられんことを當つて、その第一根柢をなすものとして幼児教育者の教養が一層重要になるのである。そこで此のことに就いて幾つかの方面から考へて見なければならぬと思ふ。

教養を云へば、如何にも何か特別な生活行事の如くにも考へられたりするが、それが生活日常の間にあるものであることは云ふまでもない。殊に日々にその實際に従事する者が、その實際としての教養を擧げて行くに於て先づ、その實際の生活體驗を主としなければならぬ。魚は水中に於ていよく生き、鳥は空に於ていよく生きる。幼児教育者は、幼児の間に於て最も眞に己を生かす。若し教養の名に於てその日々の實際體驗を假りにも虚しうするが如きことがあつたならば、それは教養の邪道である。たゞ幼児教育者に於て、幼児教育者の實際は餘りに平生であり、従つて屢々特殊の新鮮感を缺くことが少しも云へない。新鮮感を缺くことが過言であることは、餘りに常のことに於て捕捉の機縁を逸するの傾が無いとも言へない。そこで、その平凡に空過せられるかも知れない日常に對して、これを眞に自己を生かすの道にする點に於て細心の留意が必要になる。但し斯く云ふことは、自己教養の爲に保育するに云ふのではないことにもよるのである。寧ろ一切の意味に於て自己を忘れたるところにのみ眞の保育が實現しうるのであつて見れ



ば、留意するに云ふも實は保育に専心することに他ならぬのであらう。たゞ専心は即ちその時のことであつて、そこに自ら眞に自己を生かす道があるのであるが、之れをほんまうに自己のものにし又自己の發展の力とするものは、反省にやらなければならぬ。即ち體驗及びその反省である。殊に幼児の保育に於てはその淡き接觸の裡に、又過ぎ去り行く些々たる生起の間に、人には知れない悦びと悲しみとが經驗せられるものである。人に云ふに足りないことであつても、そのこと吾れ云ひかへれば、その子に於ける我としては非常な悦びを感じるに過ぎない。人に語つても理解されない程のことであつても、その子に於ける我としては誠に悲しく誠に濟まないに云ふやうな感じもすることもある。之等の感じは經驗そのものについてゐるものではあるが、味はひかへすことなしにほんまうに自分のものにはならない。如何に多くの人々がたゞせはしなく、たゞあくせく経験から經驗へに移り、又追はれてこれを味はひして感ずることなき場合があることであらうか、これに反して何等の眞實なる専心の體驗なくして、たゞ感じにのみ己れを上ずらすることの價値なきはもとよりであるが、折角の體驗を味にまで噛みしめることなくやり過してしまふのも惜しいことである。ところでこの反省は必ずしも常に深刻なるものに云ふのではないが、恐らく經驗に於て己をへりくだらしむるものであらう。濟まないと思ふとき悲しいと思ふときさうであることはもとよりにして、むしろそれ以上に眞の嬉しさに、その子への眞の嬉しさに自己をへりくだらせるであらう。思ふに教養の第一義は、このへりくだりにある。へりくだりに於て自己の淨化がある。自己の淨化におそらくや發展の機會がある。しかも、己より優ぐれたるもの、殊に屢々教養の對象とせられる理想の前に自己をへりくだらすことは必ずしも難くない。その意味での、教養は謙遜なり。云ふことは改めて云ふ程のことでもないのである。幼児保育者は己より小さきもの己より劣れるもの、その前に、自己の謙虛を感ずるのである。しかもまた如何に多くの幼児教育者は幼児の前に或は傲然たり、或は傲然でもない程に平然たり、而うして自ら遂に發展せざるかを思ふ時、この經驗の正しき反省の價値を思はざるを得ない。

この反省は何時その人の心に起り來るに限りない。若し起り來ることがあつた場合には、それを粗末にすることなく、心に呼びかへさねばならない。しかもこの反省の最も好適なる場合は、幼稚園に於ける、幼児が歸つたあとの暫くの間

である。或人は幼稚園の玄関に立つて歸りゆく子の後姿を見送るであらう。その時、朝からの經驗のいろ／＼がつゞ湧き起るこゝを禁じ得ない。或人は自らの椅子に歸つて、獨り靜かに今歸つた子ぎもが、ぎの道をどう行きつゝあるかを追ふて見るでもあらう。その時に共に居た時の感じは別なる感じをもつて、その子を抱くこゝ云ふよりも追ひかけた氣持もするこゝもあらう。あの時の我ながらの適切な態度に、こゝ云ふよりも、その時に現はした子供の笑顔にほゝ笑ましさを獨り感ずるこゝもあらう。椅子に堪えない程立ち上つて、あの時の我が心なさを身に恥ぢ、子に詫びる思ひの抑へ難きこゝもあらう。忙しい用は長くこゝいふ時間を與へない。しかもこの種のひき時が、ぎの位その人を幼児教育者として日々高め深め、豊かにしてゆくこゝであらう。少くも折角の己が生活を、たゞ追はるゝ如き生活として、外にのみ出る生活として、内にこゝり入れる體驗をなし得たる場合も多大の差異があるであらう。兎に角、幼児教育者の自己教養の第一はその本務の裡にあり、これをよそにしてはカラ教養である。

以上は、保育の實際の上に於ける體驗をその反省であるが、次には子供等の持てる純真無我なる性情の感化による教養がある。この點は、子供より學べし云ふ意味に於て誰も知るこゝろであり、云ふこゝろである。又事實として久しく幼児の間にある者が、その點に於て吾知らず受けて居るこゝろの教育價値は少からざるものである。但しこの際に於ける感化の受け方は特にその美點長所を認識するだけで出来るものでない。それはむしろ兒童感そのものを養ふに足るだけのものであらう。それよりも、前にも述べたる如く吾知らず受くるこゝろに感化も大なるものがある。しかも受くるこゝ云ふこゝは、この際單なる受け身の生活にて終るべきものではない。こゝまで子供の中に同化し得るかをもつてその要諦とする。化せらるゝこゝをなしに同化するこゝは出来ない。同化するこゝをなしに化せられるこゝは出来ない。こゝに極めて六ヶ數き點がある如くであるが、このむづかしさを打破するものは吾知らずである。吾知らずはこの場合二つのこゝによつて起る。一つは子ぎもの持つ所謂可愛らしさに引きづられてゆくこゝによつて、一つは子ぎもの生活の必要に對する實際の世話によつて、この中所謂可愛らしさに惹かるゝこゝ云ふ言葉は、美しき肌の軟かなる幼兒を豫想するかに聞こへる。それも又可なりであらう。併しこゝに云ふ意味は所謂兒童の理想性に於ける美點の外に、極めて非理想的なる實際の動作實行

の裡に、どんな子きもにも子きもらしさ<sup>に</sup>惹きつけはあるものなのである。むしろ、餘りに理想美をもつて望む時に、子きもは案外に我がまゝであり、小憎らしくある。たゞその場合に於ても、何さなく子きもらしさは見出されざるを得ない。尊敬するこ云ふよりも、或はむしろ侮つて居る趣きかも知れないが、それでも惹きつけられないに勝るこ云ふ大であらう。

第二の實際の世話に至つては、その所謂實際に於て、いわゆるチャーミング云ふ如きこ云ふは大いに異なるのである。うるさくもあらう。面倒くさくもあらう。厄介ではもこよりあらう。しかもさういふ感じの如何に拘はらず世話の形に於てしばらくは自分がその子のものさなるのである。チャームは時に弄び心ならぬこも限らない。それよりもむしろ世話の方が堅實であり、眞面目である。兎に角この二つによつて、子きもに一步步惹きつけられてゆく、同化されてゆく、感化されてゆく。その際、必ずしも幼児の本性に關する理想的認識が明らかにされてゐるこは云へないのであるが、子きもと吾等の距離へ一步步近づけられてゐるのである。子きもの純性から感化を受くるこ云ふこ云ふは、時に極めてロマンチックなる或は理想主義的な意味に於て云はるゝこが稀ではないが、それよりもむしろ子きもこ云ふものゝ爲に傍に居る大人としての現實の關係に於て本當の感化を及ぼされざるにないのを一層尊しこするのである。子きもと共に遊ぶこ云ふこも、子きもに同化し子きもに感化せらるゝ極めて有效なる場合であるに相違はないが、たゞこの方面のみが多く擧げらるゝのに對して、むしろ、子きもに何ものかを見出すこ云ふ、子きもに何事かを盡すこ云ふによつて、吾も識らず子きものものさなるこ云ふをより眞實なるものを見たいのである。

## 二

前に述べたるこ云ふによつて、幼児教育者はその實際の職務と其の平生の對象たる子きもこ云ふによつて、幼児教育者として教養せらるゝのである、しかもこれ等の純實際的な方面に加へて必要なるものは、研究であり、讀書であらう。今日の幼児教育者は昔の幼児教育者に比べて、讀書によつて自己の専門者としての教養を備へてゆくの<sup>に</sup>極めて便利なる時勢にある。言ひ變へれば、讀むべき書、聞くべき話が決して少くない。殊に昔は幼児教育のこ云ふが極めて狭く、原典の幾種かに限らるゝの感さへもあつた。限らるゝこ云ふ意味は、それだけが幼児教育者を教へて他の一般教育學、一般心理學その

他關係ある一般精神科學が全く保育圏外にあるものであるかの如く見られた。その場合、その研究讀書の限定範圍なるものは教養に便であり勞が少いとも云へるのである。又それだけに教養の専門家的教育の入口が極めて狭いものであり、今日に於て幼兒教育は、あらゆる教育科學の全面的背景と關係と錯綜との中に置かれてゐる極めて廣い間口が、その研究に直接に資するのである。こゝに一面から言へば讀書的教育の範圍の極めて無限なるを思はしめるのもあるが、又如何なる方面の研究讀書と謂も皆以つて保育研究の資材であると言ひ得るのである。

さてこの讀書研究については、たゞそのこゝにのみ没頭して居られる學生の場合と異り、即ち幼兒教育者はその實務に於て激忙であり、極言すればいくらでも次々の仕事に寸暇を得難いのである。従つて、餘程特別な留意と工夫を用ふるこゝなくしては讀書の機會は得られないのである。こゝに於て、讀書計畫の必要が起る。之は如何なる方面の業に従事するものに於ても同様であるが、殊に幼兒教育の如き方面に於ては、その必要が一層大である。試みに多くの幼兒教育者に、讀書研究の必要を痛感して、而かも敢へて怠るま云ふにあらずして、殆んき書を手にするこゝなき週と月と年とを過すのではあるまいか、殊に、困るこゝと云ふもおかしい言ひ方であるが、それですんでゆくこゝろに幼兒教育の事業の特殊な點があるとも云へるのである。仕事によつては決して讀書研究なしに自己の業を充實させてゆくこゝが出来ないものが少くない。同じ教育の業に於ても、例へば小學校教育者は、日と共に進歩する教育方法上の研鑽に就てうつかりして居られない。中等學校殊にそれ以上に於ては、教材に於て自己に絶えず仕入を必要とする。幼兒教育に於てはその方法に於ても内容に於ても、極めて不用意に濟ませることが出来、繰り返すことが出来る。言換へれば讀書研究の有無が直接には何等の痛痒を自己に感ぜしめずして濟むのである。こゝに幼兒教育者が特に讀書計畫の必要なる所以が起る。この計畫に就ては、その人の學的程度と、現在の多忙の關係とによつて必ずしも同様の方式を強ひるこゝは出来ないが、若し一日何頁、一月何冊と云つたやうな多少機械的な方法でさへもが大いに役に立つであらう。而してその内容に就いては、幼兒保育、幼兒心理の直接なるものもさより、その大きな水源地帯と云ふてもよい如き教育思想、教育科學、一般人性研究等がその計畫の中に按配せられなければならない。元來讀書はそれが直ぐに自分の實際の生活の上にさう現れると云ふも

のではない。時にそれが何等關係を持たずして過ぎ居らるゝ如く見ゆることも少くない。併し、恐らくこれによつて、されだけ充されるかは目立たないにしても、これなくしてきだけ缺けてゆくか言ふことに至つては顯著なるものがあらう。世には相當の長い保育經驗を持ち又優れたる保育技能を持ち、殊に日々の熱心なる實際を有しながら、さここなく自信に缺け、自己の據り所に於て頼り無さを持つてゐるが如き人がある。これは、自分の經驗が自分の讀書經驗と並行しないからである。經驗が幼稚簡單であつた場合には僅かながらに持つところの讀書經驗がそれと並行し得たのである。爾來經驗の進むと共にその割合に進まない讀書研究が、その稀薄感を生じ來ることは免れ難いことであらう。

然らば今日の讀書計畫に於て、特に如何なる方面が必要とせらるゝか、之に答へて二つのことが言へる。一つは進んでゆく教育科學の各方面に於て、所謂日進月歩の新資料を提供し得る方面である。しかももう一つは、人類の眞に大きく歩み來つたところの教育的足跡、殊にそこに培はれたる根深き根據、こゝにいふ方面に於ての研究が一層必要なのであるが、少くも今日の一般幼児教育者に最も缺けてゐるのがこの點ではあるまいか、多少の新知識によつて却つてさここなき輕みと淺さこ小ささ様のものを感じしめる點がこの缺陷から起るものであるまいか、この爲に、先づ勵めたいのは相當に精しさを持つ教育史の研究である。教育學の研究によつて得ることも多いに相異なるが、時としてそこから得るものはさう考へるかの精しさ或は系統に過ぎなかつたりする。

それも大事なことであるが、それが何故に今日の吾等に必然であるかの事實を與へるものは教育史である。幼児教育者の中に例へばフレーベルを知つてゐる人は少くないであらう。又之を批判する人も少くないであらう。しかも教育史の中に於てのフレーベルを知らないが爲に教育の流れの上から見て屢々獨斷に終る。フレーベル以前にありしものをフレーベルに於て驚き、教育史上の訂正に過ぎざるものをフレーベルの獨創とし、遂にフレーベルを知つて教育を知らずと云ふやうなこともなる。フレーベルの大なるをもつて尙然りすすれば、他は言ふまでもない。但しこゝに一言することには、教育史の研究によつてたゞ史的事實を知ることの價値を言ふのではない。又、今の自分の立場を教育史上の關係に跡づけることに於ての價値を云ふのではない。それよりもむしろ史觀を養ふにあり、言ひ換へれば自分の一切の考を大きな教育の流

れの中に置くことを練習することにある。その結果は毎日して居ることが幼児の相手であり、お手々つないでの遊びであり、子どもの小さき手を洗つてやることであり、しかもそれが教育云ふ人類の總意の中に根を持つものであり感じ得ることである。稍々奇妙な例であるが、如何なる末梢に當る言へきも、根のつながりを持つ時に決して自己の頼りなさを感ずるものでなからう。今日幼児教育者の中に、時に最も新しき研究に優れた人も少くはない。たゞ史觀の上に自己の事業を立脚させて置くことが少くも力強い言へないのでなからうか。必ずしも、幼児教育に關する史傳のみ云ふのではない。教育の大きな總意の把握を勵めたいのである。但しかく言ひながら日々新しく考へられてゆくこの道の新研究を見落してゆかない用意の必要なことは言ふまでもない。

### 三

本務の忙しい中に於て専門の讀書研究をするだけでも時間は足りない。併し更に専門のこゝ以外にもその讀書の範圍を廣げてゆく必要がある。蓋し讀書は、滋養であり、滋味であつて、範圍の廣いところにその價值があるからである。殊に幼児教育者は専門家でありながら専門家でないことも云へるのであつて、廣い教養によつてのみ子どもを導くことが出来るからである。その廣い讀書の中で、先づ第一に擧げたいのは文學である。文學は小説又は詩等その種類を問はないが、人間のこゝ、自然のこゝ、社會のこゝに對して單なる知識としてではなく、その味はひを傳へるものとして大きな力を持つて居る。殊にその中には、子どもを主題させるものも少くない。この種文學に於ては、心理學或は教育學の學術的書物が與へてくれる子ども以上の子どもを、その生きた姿に於て示してくれる。幼児教育者は常に子どもの中にあつて今更子どもを文學者によつて示さるゝ必要はないやうでもあるが、教育者は二つの點から屢々子どもを見落して居る。一つは餘りに常に子どもの中にあるこゝによつて、その新鮮なる印象を失ふのである。恰もよき風景の間にある者がその風景の美を感じないのと同様である。勿論感ずる以上に味はつて居る云へば言へるのであるが、これを新鮮なる印象に於て潑刺たる表現に於て見直させて呉れるものは文學である。更にまた、實際教育者は、教育の目的に於て子どもを見るこゝの設なるが爲に、子どものあるまゝをそのまゝに於て見るこゝを失ふ危険も少くない。之に對して文學は敢へて特別な期待を

持つことなく、況んや勝手の注文を持つてすることなく、子ぎものあるがまゝをそのあるがまゝに於て見る。またそのまゝに卒直に表現する。之等のこころは、繪畫彫刻等の藝術に於ても同様であるが、それ等に於てはそれを見抜いてゆく特別な鑑賞眼を必要とする場合が少くない。文學に於ては、より容易にその示唆を受けうるであらう。かく云へば、幼児教育者に勸むべき文學が子ぎもを繪けるものをもつて中心とするかの如く聞えるが、決してそれに止らない。前に述べた如く、文學はものを正しく見るま共に味ははせるものである。人間そのものに關する味はひを持ち、味はひを求むることなくして一日も人間を導くこころは出来ない。蓋し教育者は人間に對する優れたる味覺の所有者である。殊に幼児教育の場合に於ては、その對象の示し來る人間味が極めて淡いのである。餘程優れたる人間味覺を有するものでない限りこれを味はひに於て觸れてゆくこころは難い。その人間味覺(必ずしも人間的のみに限らないが)を養つてくれるものが文學である。この意味に於て幼児教育者に人間を畫いた最も良き文學を勸めず居られない。

更に讀書研究の範圍を廣げ得るならば或は倫理、或は社會學、尙ほ進んでは人生哲學にまで及んで幼児教育者の人間研究を何處までも深くすること求めたい。前に教育史の研究を勸める場合に、往々にして幼児教育者の教育觀が、斷片的であり些末的であり淺薄であることを云つたが、人間觀に於てまた同様のこころが云へるであらう。但し、これ等の方面の書をよんで、その單なる究理的興味に深入りすることはこゝに期して居る點ではない。その書は理の考へ方であり、理の表現であるにしても極めて人間的なる幼児教育者にまつては渾然として理を離れたる生きたる社會であり人生であるやうに受け取らなければならぬ。書をよんでジレットタントになるこころは讀書人そのものさしても必ずしも正しい道でないが、教育實際家としての讀書に於て殊にそうである。以上各方面に互つて讀書研究を勸むるこころは時間に於ても努力に於てもまた之を解するの力に於ても極めて容易ならざるやうにも感ぜられる。書物を机の上に積み並べて茫然として眺むる習慣に落ち入つた場合には殆んぎ手の下し所がないやうにもなるものである。併し書は、讀書するこころに於てその道が開かれる。時間も出來てくる。勞も軽くなつてくる。解釋もまた必ずしも難くなくなつてくる。昔の人が云つたかき思ふが「書物は友人である」或はもつこ親しい關係であるかも知れぬ。こちらで接すること多きに從がつて本の方からも親しみ來

るが如き感を與へる。讀書しやうを考へるこころなく、著々として先づ一冊を讀むべきである。吾人は屢々何を讀まうか云ふ質問をうけるこころがある。一月經つて又同じ質問を受けるこころがある。勿論さうせ讀むならば充分選擇してもらつたものを讀んだ方が賢明であるではあらう。併し書物は兎に角も手當り次第云ふのも甚だしいが、先づ一冊を讀むこころによつて次の讀書が示されてくる。書物は友人の如し云つたが、同様に讀書は社交の如し云へやう。一冊の本は必ず幾冊かの本を紹介しまた誘ひ來るものである。即ち要は一刻も早く一冊の本、書を讀み初めるこころにある。

#### 四

今、繪畫彫刻のこころに觸れた。それは子をも主題とするものに就て言がそこに及んだのであつたが廣く藝術に觸れるこころは幼兒教育者としての最も大切なる教養法の一つである。一つには、情操を主として生きてゐる幼兒達を、その生活の特性に於て正しく導いてゆくには、さうしても幼兒教育が絶えざるうほひ心の軟かさを持ち續けねばならない。文學はこれを補つてくれるものであるがまだその意味が中心となる傾を持つ。文學そのものに於てさうでないにしても、之を讀む者の傾向に於て或は考へさせられたり、或は批判的になつたり、味はふ云ふも極めて意識的になつたり、さうゆう傾を免かれない。文學の純藝術性をその構成に文章に殊に言語のリズムに於て感じ得る云ふやうのこころは、必ずしも誰にでも容易に出来る云へない。之に對して藝術は意味よりもその藝術的なるこころに於て吾々を養つてくれる。殊にその中でも音樂はさうした意味に於て吾々の心に直接のうほひの軟かさを與へてくれるものである。若し幼兒の生活にその心の動き更に恐らくやその身體の動きさへも之を最もよく表現しうるものは音樂であらねばなるまい。幼兒は藝術的だ云ふこころを更に深めて云へば、音樂的だ云へるのである。従つて之に觸れてゆき得る前に、吾々が音樂的に教養せらるゝこころが好都合である云はねばならぬ。人は自分の心の波打ち方によつて物を觀るものである。幼兒教育者中の若き人々が、屢々極めて低俗なるリズムに心を鳴らすこころによつて、その心の騒がしさを以つて幼兒を觀るこころがあるのは最も遺憾とするこころである。吾々は良き本を讀まねばならぬ。良き繪を見なければならぬ。しかも最も嚴密に選ばねばならぬのは良き音樂である。それはたゞ所謂音樂趣味を高下せしむるに止らず、吾等の心の波打ち方の様式を高尙にし



或は卑俗にするからである。例へばジャズの俗樂に馴るゝものは、子ぎもの世界をジャズ的に感ずるに至る。或は低級なるメロデーに養はるゝものはその低級さに於て子ぎもを生活をうけこるに至る。この點は極めて微妙なる問題として教養上の注意點となつてくるのである。

## 五

最後に、こうした一般のおそらくや平時的なる教養の心掛の他に、今日の日本の幼児教育者として時局に關する認識を精しくすることは缺くべからざる教養の重要點である。時局の問題は單なる時事には止らない。又世界の動きの廣き興味を云つたやうのものには止らない。又一つ々々の戦の局面の變化に對する知識に止らない。一切を通じて國家的に精神を集注し昂揚し激動せしむるこゝである。これなくして眞に時局を認識する云へない。又これなくして眞に今日に於て日本の子ぎもを教育しつゝあり云へない。但しこの點については、この教養論の中に於て特に云ふを要しないであらう。しかも或は若き保姆諸君等の中には、その日の朝の新聞を讀むこゝなく、或は、その夕のラヂオのニュースを待ちかまへるこゝなく、單に教育の超然性から超然性へ動いてゐる如きこゝが無き限らないかも知れない。これは一面に於ては本務に忠にしてその他を顧り見ない云はるゝが如きでもあるかも知れないが、この緊張せる貴重なる時局下に於てそれは許せないのである。勿論そうした大人の時局認識がそのまゝ子ぎもに語り傳へらるべきものではない。或はその日の保育の實際に於ては必ずしも時局認識を何等關係なきが如き様を探らなければならぬこゝも少くはないであらう。併しその幼児教育者の中心に嚴肅なる時局認識があるこゝは、それがさういふ形で云ふこゝでなく、況んやさういふ觀念に於て云ふやうなこゝでもなく、その教育の實際に現はれないこゝはない。幼児教育に於て人間の教育の特質を擧げてゆくこゝは容易であり、國民的教育の特質を擧げてゆくこゝは或意味に於て必ずしも容易でない。少年青年の場合の通りのこゝは行つていゝのならばこゝに角、幼児の性情に於て之を養ふこゝは觀念的に養ふが如くに容易ではない。しかも今日は時局が凡ての幼児教育者の毎日の心を國家的に高調せしめて居る。その言ふ言葉がやさしく、その言葉の内容があざけなく、その節が軽いにしても、さゝかにかに洩れ來るその調子の高さは、平生以上の響きを子ぎも達に與へずにおかないであらう。或

る朝、子どもは先生の目にその調子の高い閃めきを見て驚くことであらう、その先生の言葉に調子の高い響きを聞いて驚くことであらう。先生はその時時局教育をやうこ必ずしも試みて居るのではない。たゞ、子どもと共に子どもの中に子どもが生活しやうこして居るのであるが、時局の認識は先生自體をそうした國家的高調の存在にして居るのである。幼児教育者が幼児教育者としての教養の爲に、時局の認識を必要とするこ云ふやうな言ひ方は、極めて意味をなさない。時局認識は子どもの教育の爲なごではない。もつこ云へば自分の教養の爲なごでもない。時局そのものゝ中に自ら熱せられて來、自らはげまされてくるだけのこごである。たゞ、それもまた用意の如何によつてその結果を異にするこごがないでもない。この意味に於てつごめて時局に對する理解を深くし精しくすることを教養の一内容ご心掛けてゆかなければならぬであらう。

## 六

今更改めて幼児教育者の教養を説くのも不要の言であるやうな氣もする。併しながら、最初に言へる如く、この幼児教育が尊重せられ來る時に於て、その中心たる幼児教育者の實質の向上は一段の力を加へられなければならないのである。今日、保姆養成の年限が一ヶ年に止るを不満とするは、萬人一致するこごである。又保姆養成の機關が、他の中等教員養成の機關以下にあるが如きを引き上げなければならんごするのも多くの人の一致するこごである。若しそれかくの如くして養成の道を高める急務がありごした時、現に既に幼児教育者たる人々にしてこれに相當するこごの價值充實、實力増進の途は、同様の切實さを以つて深思せられなければならない筈である。それだけの高さに於て幼児教育者の最低標準とするかの論に對して、ごごまでの高さが幼児教育の現在の従事者に於て繼續建設せらるべきかご云ふこごも、併行するこごの論でなければならぬ。後より來る者の爲にその養成の程度を高めるこごが必要である如く、今あるもの既にあるものが不斷の努力によつて自己を高め凡ての自己を高めるこごによつて、我が國の幼児教育者そのものゝ標準を高めるのでなければならぬ。今更らしく幼児教育者の教養に就いて贅言せる所以である。

# 健全な精神は健康な身體に宿るか

牛 島 義 友

今日體位向上のため健康教育が強調され、體育の問題が熱心に考へられて居る事は實に慶賀す可き事である。私は何も之に抗議を申込む意志はない。併し人は兎角極端に走り、今までは體育が輕視されてたかと思ふも、今度は體育に偏し、子供が健康でさへあれば問題が凡て無くなるかの如く考へる傾向はないであらうか。健全な精神は健康な身體に宿るこの古い金言を文字通りに解して、問題を簡單に考へてよいであらうか。一體身體と精神に如何なる關係があらうか。

先づ身體發育と智能との關係を考へてみる。多くの教育書には兩者の間に密接な關係があり、身體發育のよい者は、學科も亦優れて居ることを述べてある。それにはポーター等の古典的研究がよく引用される。彼は一八九〇年にセント・ルイス市三千五百の學童について身體發育と學業成績との關係をしらべた。同じ年齢であり乍ら學年の異なる者、即

ちよく出来る子供は上の學年に編入され、出来ない子供は下學年に停滯して居るが、是等の者の體重を見るに、學年の上の者程體重が重い。例へば九歳兒の例について見るに次の如く、學年の下の智力劣つた者は體重輕く、優秀な智力を示す高學年の者は重くなつて居る。其後の研究者にも

學	年	一年	二年	三年	四年
體重(ポンド)		五五・六七	五七・六四	五九・六六	六一・七五

同様の結果を得て、優秀兒の平均體重は劣等兒のそれよりも重いことを結論されてをる。是等の結果からして、智能と身體發育とは密接な關係があり、優秀な學力を養ふには、先づ體力から養はねばならぬことを結論して居る。

併し以上の數字からそう簡單に右の結論が引出されるものであらうか。少しく専門的に互るが、人は兎角數字のトリックにかゝり、數値を正しく讀む事が出来ない故に、批判的に此數字を吟味して見よう。素より全體的に見て智能

の優れた者は劣つたものよりも、少しく體重が重い云ふ事實を疑ふのではない。併し之から一々の子供を捉へて、體重が重い子供は其智能も優秀であり、體重の軽い子供は智能が劣つて居るを判断する事が出来るであらうか。身體發育状態から智能を推定してよいものであらうか。此點に疑問があるのである。例外がある云ふよりも、例外の方が遙かに多いのではなからうか。今前記の數字の原になる表を示さう。此表は九歳兒を各學年別に體重の分布状態を示したものである。之を見るに各學年には色々な體重の者が居り、智能劣等な一學年生の中にも八十ポンド臺に達す

體重 (ポンド)	一年	二年	三年	四年
86—90		2		
81—85	1	2	3	
76—80		10	8	2
71—75	8	24	15	4
66—70	17	93	36	6
61—65	99	236	90	13
56—60	155	334	91	10
51—55	169	343	81	6
46—50	86	122	21	3
41—45	29	25	5	
36—40	5	1	5	
31—35	1	3	2	
合計	570	1195	357	44
中數	55.87	57.64	59.66	61.75

る者もあり、反對に智能優秀で四學年に編入された者にも五十ポンドに達しないものが居る。今體重と學力との關係数を調べてみるに〇・〇六にしかならない。此關係数は體重一番の者が學力も一番であり、體重二番が學力も二番云ふ風に、両者が殆ど完全に一致する場合は〇・九九云ふ一に近い値が出る。之に反し兩者に殆ど關係が無い場合には〇・〇〇に近い値が出て来る數字である。故に〇・〇六云ふのは兩者の關係が極めて薄く、殆ど無關係である云ふ事を物語る値である。體重が重いから智力も優れて居るだらうと推定する事はさんでもない誤謬である事を示す數字である。一般に二つのものゝ間に眞に關係が在るか否かは關係數から調べなければならぬ、唯平均値だけから考へるのは誤である。

此關係數で調べた研究は其後實に澤山現れたが、きの研究に於ても高い數字の現れたものはない、二三例示するならば、

一九二三年にムルドックとサリバンがホノルルの六百名の生徒に就いて調べた結果は

智能と體重との相關 〇・一六

智能の身長との相關 〇・一四

一九二四年ゲーツが幼稚園児に就て調べたのでは

智能ミ體重

〇・一〇

智能ミ身長

〇・〇六

一九三五年藤本克巳氏が東京の千名の女生徒について調べたのでは

智能ミ身長

〇・〇四

智能ミ體重

〇・〇三

智能ミ胸圍

〇・〇一

以上は比較的大きな子供に就いてあるが、乳幼児ではさうであらうか。赤ちやんを持つ母親の第一に氣になるのは其體重である。健康相談に行き、體重が標準以上だ喜び、家の子供は何ヶ月児と同じ位の體重があるのだと喜ぶ。體重は榮養状態のパロメーターとして常に注意してをる必要があるが、之が標準以上ならば、精神の發育も同様に進んでをるに安心してよいものだらうか。筆者等が最近三百名の乳児に就いて調べた結果は次の如くなる。

五ヶ月 六十一 満一歳児  
未滿児 ヶ月児

精神發達と體重の相關

〇・三二 〇・二二 〇・一一

精神發達と身長の相關

〇・三八 〇・二二 〇・一九

即ち年齢によつて相違し、滿五ヶ月以下では少しく關係

はあるが、年と共に其關係は薄くなる。

以上の事實は智能ミ身體發育状態には直接の關係はなく、身體強健なれば精神も優秀に斷ずる事は非常に誤りである。又自分の周圍の人々を顧みても、體が小さくて賢い人も多く、體が大きくて鈍い者もあり、兩者無關係だと言ふ事に得心が行かう。

頭骨發育ミ智能 體重や身長ミ智能ミ關係がない事は或は最もかもしれないが、頭蓋骨の發達ミ智能ミなら深い關係がありさうである。ガルの骨相學では前額の發達したものは聰明であると言ふし、人種學者は各人種の頭の大きさを比較して居る。即ち次の如く歐洲人の智能が優秀なものには頭が大きく發達して居る。頭が大きく發達して居る言ふ生物學的根據があり、其中でもバリー市民が最優秀だと言ふ。

類直	人立	猿人	島土人	方
ヴァ	エ	(セ)	島	621
ア	ン	イ)	土	855
オ	ダ	ロン	人	1277
ネ	ス	島	島	1300
ア	ト	原	住	1340
ネ	ラ	民		1350
ア	リ			1462
パ	ヤ			1490
	ロ			1555
	ス			
	メ			
	シ			
	ア			
	ヤ			
	シ			
	バ			

又白痴の中には頭の非常に小さな者も居る。

斯る處から頭骨の發達ミ智能ミの間に密接な關係があると言信する様になつた。ゴールトンやビネー程の偉

大な學者でも此考を固執して、何さか實證し様さした。一八八八年ゴールトンには本の測定した一〇九五名のケンブリッジ大學生の頭蓋容積と學業成績との關係を引用して、優秀人と普通人との間には約五%の差がある云つて居る。

併し其表をよく調べるに次の如く、二十一歳、二十四歳、二十五歳の處では成績と平均容積とが一致してない。斯く平均値すらも完全に一致してはゐないのであるから、

年 齡	最優秀	優 秀	普 通
19	241.9	237.1	229.1
20	244.2	237.9	235.1
21	241.0	236.4	240.2
22	248.1	241.7	240.2
23	244.6	239.0	235.0
24	245.8	251.2	244.4
25以上	248.9	239.1	243.5

個々人の場合には一層一致しないに推定される。前の相關係數で調べるに非常に低い數値しか出ない。一九〇六年にピアソンが四千五百の十二歳兒及び一千名の大學生に就て調べた結果は

上表の如くなる。(註 數字は頭長、頭巾、頭高を掛け合せた數字である)

大學生 男生徒 女生徒

學業成績と頭長 ○・一 一 ○・一四 ○・〇八

學業成績と頭幅 ○・一〇 ○・一一 ○・一一

其他の研究者の結果も同様で、ムルドックとサリバンの

研究では〇・二二、リットミムリガンの研究では〇・〇八等になつて、頭の大さと頭の長さとの間には關係が無い云はねばならぬ。自分の頭が少し小さいから悲觀するに及ばず、大きいから自慢にならない。帝大醫學部には桂公の頭蓋骨が保存されており、公はずば抜けて大きな頭を持つてた云はれるが、之から彼の偉大性は其頭蓋骨に在るに考へるのは學問的にはナンセンスである。低能の中には頭の小さな小顛も居るが、大き過ぎる福助頭も居る。

最も精神薄弱者の中には體の虛弱な發育不完全な者も多く、其平均壽命も短い。ディトンの調査によるに輕患四六八年、痴愚三八四年、白痴二一三年になつて居る。併し之は體の弱い事が低能の原因ではなく、低能である爲に不衛生や、怪我等が多い爲だつたり、又低能と身體虛弱が雙方其他の原因による爲である。故に如何に身體を健康にしたからして精神薄弱が治るものではない。唯栄養障碍や内分沁不完全、微毒等から出た少數の精神薄弱の場合だけ體の方を治せば智能もよくなる。

以上は専ら統計的に考へたが、個人的に考へるに話はずみ複雑になり、身體發育が色々な形で精神に影響して来る。併し決して單純に身體が健康であれば精神も健全で

あるは云へない。

例へば體の大きな子供が同年齡の者と一緒に遊んで、何かいたずらをすれば代表して叱られるのは此子供である。彼は悪事をそゝのかしたと誤解される。だから云つて年長の者も遊んでも巧くゆかない、精神の方が體程に發育してないために一緒に遊べず兎角孤立する。又體のこなしも巧く行かず、動作が鈍かつたり不器用で低能視される事がある。斯る子供は精神の平衡を失ひ、非社會的になり困つた子供になる事すらある。

次に體が小さかつたり、病弱不具である場合は一般には健全な精神を缺く。併し子供による體が弱く、相撲や馳つこでは到底勝味がないと知るや頭でこい云つた態度をさり一心に勉強する事がある。チビの生徒に比較的學科のよく出来る者が多いのは此爲である。偉人學者の中には體の虛弱、短軀、不具等の者が割合に多いとロンブローズ等は云つてる。又健康な肉體に恵れ乍ら、輕薄な虚榮的、利己的な人間も多く、病弱であるが故に信仰に生き、美しき魂を持つて、人を教化する者も多い。

故に健全な精神は誰に宿るか云ふ事は一概には云へず、體の良否、發育如何に歸せしめる事は出来ない。健康

な子供の精神を健全にする爲には體育以外の精神的指導が必要であるし、又指導如何によつては不健康な者に健全な美しき精神を懐かせる事が出来る。精神の問題は精神教育にある。

御民吾生ける驗あり天地の榮ゆる時にあへらく  
念へば

千萬の軍なりとも言擧せず取りて來ぬべき男と  
ぞ念ふ

今日よりは顧みなくて大君の醜の御楯と出で立  
つ吾は

# 夏日漫筆

曾 根 保

## 山牛蒡のその後

復<sup>また</sup>しても、山牛蒡の花が咲く。何もない地面の、去年と同じところから、また山牛蒡が出て来た。七月の初頃、田舎に奉職してゐる友人からの音信の端に、「もう去年の山牛蒡が伸びて、今頃は必ずや君の神経を焦立たせてゐるこゝだらう」と揶揄するやうな言葉が書き添へてあつた。然り、山牛蒡はすすくすく伸びてゐた。めちやな伸び方、野生的な擴がりに對しては、去年ほどの珍らしさも、興味も感じなくなつたが、「あゝ、丁度一年になるのか」と、感じを新にした。また、七月中旬の集團勤務作業中に、幼稚園の先生から、「山牛蒡は如何です」ときかれて、私は、「お蔭様で、うちの山牛蒡も女學校の一年生になりました。月日の經つのは速いものです」と答へようとしたが、「速いものですね」とだけ返事をした。今年も賢明な女中は早くも、氣むづかし屋の私の神経を亂すまいと慮つてか、山牛

蒡に何か呪文でも附けて置いたらしい。去年は、日中や夕方、何もすることも無し、また、出来もしないから、平生餘り口をきかない女中を捕へて、家主の悪口を竝べたりしたものだが、今年も、うるさ型の家主も、呪文に僻易してか、去年のやうに度々は越境して來なくなつた。従つてそれだけ話題も減つたわけであつた。それで、山牛蒡も極めて順調に伸び、生籬よりもすつゝ高くなつて、今にも蕾が綻び、柄にもない白い小粒の花が夕べの景色を添へようとしてゐた。それに今年も生籬の裏表に一本づつ、都合二本も出て來て、更に威勢のいゝこゝであつた。さきに「賢明な女中」と云つたが、これは必ずしも皮肉ではない。この女中が長い間家に勤めてゐた間に語つた言葉の中で、私の忘れられないものが一つある。私が、しなければならぬ仕事に手がつかず、書かねばならぬ原稿が書けないで、いらいらして立つたり、坐つたり、溜息を吐いたりしてゐるのを



見て、女中がかう言つたことがある——「わたくしも、お掃除をすませて、本當に落ちついた氣持で、お裁縫に坐れる時、さうしてもぢつと坐つてゐられず、たまへ坐つても、手が氣持よく運ばない日がよくありますが、困つてしまひます。よく考へてみます、そんな時は女として氣高い氣持の時ではないやうです。女もやはり、坐つたら夕方まで、本當に落ちついた、澄んだ、満ち足りた氣持で仕事を續けることが出来なければ値打が無いのではありませうまいか」。これは男の場合にも眞理のやうに思はれる。

さて、話を元にかへして、この女中も、時熟し、愈々良縁が纏つて、七月の十六日に、恐らく山牛蒡にも名残を惜しみつゝ拙宅に暇乞ひをしたが、その數日後、可成り烈しい、雷をも交へた風雨が帝都を襲つた。人間は、いや、私は、蟲のやうに小さくなつて兩戸を閉め切つた家の中でちとこまつてゐた。翌朝果して、庭の人氣者、七尺豊かな山牛蒡が無慘や、根こそぎ吹き倒されてゐた。あかざのやうな肌をした根元が眞白な肉を露はし、ばたりと大きくうつ向に倒され、無念の形相で息絶えたさういふ恰好である。圖體が大きいだけに、多少滑稽味もあるにはあるが、やはり哀れな姿であつた。私は庭に降りて、抱きかゝるやう

にして、無駄きは知りつゝも、一先づそのまゝ起して、もこの姿勢に立てゝみた。しかし、しやちこばつてさうにもならない。ごみ箱に入れようにも入れやうがない。暫らく日向に出して置けば、元來が草なのだから、この暑さに枯れ萎んで、ごみ箱のお棺におさまるかもしれない。かう考へて、そのまゝにして置いた、片づけてくれる女中も最早居ないので。

その日の午後のことだつた。何かの拍子に裏木戸が開いたものか、例の家主がはいつて来て、にこにこしながら、倒れてゐる山牛蒡を片手でひつ掴み、極めて無雜作に大骨小骨をボキン・ボキンと折つて、瞬く内に片付けてしまつた。憐みを知らぬ人のやうだつた。私は、「惜しいことに、大風にやられましたよ」と云ふ、見向きもしないで、「へえ、こいつ、木ぢやござんせんからね、草のでつけない奴ですから、弱いでさ」と言つた。山牛蒡の端に何かくつゝいてゐるさみえて、絲でもほしく手つきをしてゐるが、椽側に突立つてゐる私の方へつかつかみやつて来て、雨風に打たれた、木綿絲のついた荷札のやうなものを足許に置いた。そして山牛蒡の死骸を抱へて黙つて出て行つてしまつた。足許の紙片を手にとつてみる、インクが滲んでゐる

が、まぎれもない女中の手で「さうかお願ひですから、この山牛蒡を剪らないで下さい」とあつた。あゝ、これが賢明な女中の呪文だつたのか。私は嵐の後の静かな午後之光を浴びて、去つて行つた優しい心根の女中ミ、相も變らず黙りこくつた皮肉な家主の顔ミを思ひ浮べて微笑したのだつた。

來年も亦山牛蒡は出て來るだらう。家の山牛蒡さんは女學校の二年生ミなり、かつての女中も、もし國策に添ふ決心なら、その頃は生れたばかりの山牛蒡を抱いて訪ねて來てくれるかもしれない。

### 想ひ出しては笑つてゐる

今宵も私は想ひ出して獨り笑つてゐる。その時はびつくりもし、餘りの無禮に憤るのも當然だつたであらうが、私は今も嬉しくて獨りで笑つてゐる。家の者にも話さず、他人にも語らないでゐる。眞晝に路を歩いてゐても、あの日のやうなことが、も一度位起らないものかしらミ、きよろきよろ見廻すことさへある。電車の中でも時々想ひ出して獨りで笑つてゐる。近頃私に珍らしい事件である。

雑司谷の假寓から二三軒出るミ前の同僚、今の教學官水野敏雄さんのお宅がある。學校では修身、教育の受持であ

つた關係からか、人その人は勿論、そのお住ひのあたりにさへも何かしら嚴かなものが漂つてゐるやうに思はれてならない。ミころが、その嚴かなお住ひの前を、先日暑い日盛りに私は、カンカン帽を被つて、着流しで通り過ぎやうとした。その時、何か考へごミをして歩いてゐたミ見えて私は水野さんのお宅の前ミいふことさへも實は知らずに歩いてゐた。するミ、急に目の前にバラ・バラミ雨のやうな白い光が落ちて來た。「變だな、こんな青空に、また聚雨かな」ミ思つて空を見上げ、ミ同時に、びつくりして立止つた。見るミ、右側の水野さんのお宅の板塀の上に五六歳の男の子が二人、お腹を突出して、例の西洋の小僧小僧の銅像よろしく、しかもこれは念入りにも二基相並んで、私の頭を目がけて放尿してゐるではないか。「あつ、これはしまつた」ミ思つて、慌てゝ前へ飛び出した。二人の子供が云ふことがふるつてゐる。「たしかに、ひつかけてやつたよ。面白いね。ほんまうにかゝつたよ。」「うん、うまくいつたね」ミ。私は振返つて、「何處の小坊主だか知らないが、いや二人の内一人はきつミあの修身の先生の倅に違ひないが、ひさい目に遭はしをつた。うまくやられた。いまいい限りだ」ミ心の中で不平を言つたが、急におかしくなり、思はず

聲を出して笑つた。その笑ひがさうしても止らない。電車に乗つても想ひ出して愉快なのである。自分の幼い頃、あんなことをしたかしら、また幼友達の中にあんなのがるたかしら考へてみた。さうも想ひ出せない。たゞ、私が中學生の頃のこゝ、親戚の腕白小僧と一緒に風呂にはいつたこゝがあつたが、その子が風呂の中でジャー・ジャー面白さうに放尿してゐたこゝを想ひ出すだけである。その時から私はその家の風呂にはいるこゝは願ひ下げにして貰つた。

大川へ行つて水をあびる方がまださ思つた。また、それをその子の父親にも母親にも訴へてみたが、二人とも笑つて、「あの子はよくお風呂でするのでね」さ平氣の平左衛門だつた。呆れたものだ。その腕白小僧も今は中學の教師をしてゐる。子供も四五人持つてゐるが、その中の一人位は親譲りの癖を受けついであるかもしれない。私も少年期には手のつけやうのない暴れん坊だつたさいふ話であるが、一體さの位の限度だつたか、臆氣な記憶の隅々を探つて、出来るだけ率直に自分の幼い頃の姿を掴んでみたい氣がする。また、もし許されるなら、この誌上に寫し出してみたい。しかし「幼児の教育」の讀者諸姉は恐らく男の兒の腕白日記には興味はお感じにならないかもしれない。早い話

が、この水野さんの小便小僧の話でも私が面白がる理由がお分りにならないのではないかと思ふ。風呂の中の放尿は言語道斷で、これは馬鹿者さいふより外名つけやうもないが、青空を背景にして、大人の手の届かない高い高い處で、無邪氣な子供が二人、自分等の新計畫を試みるものさ、白いお腹を突出して、息をこらし、待伏せしてゐるうちに、やつこそその目的を達成したので、鬼の首を取つたやうに、萬歳々々を唱へてゐる子供の姿を、一寸想像して御覽なさい。私は嬉しくなつて、もつミカンカン帽の上にバリバリ落してもいゝよ、さ言ひたい。

愛する子供よ。この二人は何處の子供でもいゝが、本當にお前達は我々のものだ、愛する子供だ。お前達の知慧のある限りを絞り出して、嶄新奇抜な遊びを發見してくれ。塀の上から時ならぬ雨を降らすのは感心しないが、男の兒なら、そんなこゝもあり得るだらう。意氣地なしのお父さんが敢てなし得なかつたこゝをするのは偉い子供だよ。高い塀に登るこゝさへ、お前達には素晴らしいこゝに違ひない。まして、よその大きなおぢさんのカンカン帽に爆彈の雨を降らせるこゝは、ノモンハンの大空でわが荒鷲がロスケの青蠅を撃ち落すよりも痛快に違ひない。大人の出来な

いごころをしたお前達には勲章をあげよう。大人はいつても、お前達に通用しない大人の考を強ひたり、禮儀作法を教へようご努力してゐる。いつの世にも通じなければならぬ禮儀もあり、作法もあり、風習もあるにはあるが、それにて時代と共に變化してゐるごころを、大人は考へるほど寛容な氣持を持つてゐない。大人も子供と同様お山の大将が好きなのだ。十や二十の少青年が四十や五十の老人の氣に入るやうではこの世は進歩しない。男の子なら、うんご暴れて、家の柱の二本や三本へし折るほどの元氣があつていゝ。この怖い顔のおぢさんの頭に小便をひつかけて、しかも翌日はケロンミして、前日の大成功さへも忘れてゐるのがお前達だ。偉大な英雄だ。大人になるご、善事にしろ、悪事にしろ、頭の中はハキダメになつてしまふ。いゝ智慧なんかはいり込みやうもない。お前達こそ「日に日に新にして又日に新なり」なのだ。

私は愉快なこの日、永年の宿望が叶へられて、端溪の水巖「水歸洞」を手に入れた。明の時代の古硯の由であるが、形さいひ、色さいひ、申分が無い。眞理は、美は、喜はまごころに限りない。求める心に與へられないでもないものだご、つくづく感じた。懐に名硯を抱きながら歸つて來た

が、勿論、もう水野さんの塚の上には何もゐない。二人の英雄はお晝寝でもしてゐたのか、それとも墓地の方へ蟬取りに大きい子供のお伴をして行つてしまつたのだつたか。蟬の聲だけかまびすしい午後だつた。

### 事變句抄

突撃を露草に待つ眞暗がり	一仙
監視小屋たゞ空瓶に野菜與挿す	三猿子
背を向けて母泣き給ふ秋の蚊帳	虛白
引鐵握りもうごころ切れし鼻の汗	行人
身に入むや泣く母叱る父老いたり	洪水

# 森川先生の御退官

奈良女高師幼稚園 會澤 夕ガエ

は、決して決してかゝる事は無いもの之信じきつて居りました私は、新聞にて初めて知りまして實に驚いた事で御座いまして何ぞ申上げてよろしう御座いませう。たゞたゞ暗夜に燈火を失つた様な心持でいつばいで御座います。

五年十年私の如く年を重ねて居ります者は、二十五年間先生の御傍で公私共に、色々御教示御指導に預りました。二十五年間、日々大多忙に打過して居ります私共は、決して長い感じは致しませんが、しかし一年一年數へて見ますと決して短かい年月では御座いません。其の間先生には、蔭になり日向になつて我が子善かれに御庇ひ下さいました。

何ぞ御禮を申し上げてよろしう御座いませう。この拙筆拙文では、却て先生の御高德を傷ける事になるかも知れませんが、御名残りを惜しみます、こゝに一筆認めさせて頂きます。

一、先生の御人格。温厚篤實、其のもので入らせられま

奈良女高師附屬幼稚園主事森川正雄先生はこの度御退官になりました。先生は我が國幼稚園界の元老として、長い間、御著書に、御論說に、又御講演に私共保育に携はるものをお導き下さいましたことは誰一人知らぬ者が無い筈でございます。本誌にも屢々御執筆下さいまして保育の向かふところを御示し下さいました。先生に長い間御親みあそばしていらした會澤先生に、森川先生の御身邊のことを御執筆いたゞきました。先生はこの後は悠々自適の御生活には入られること、承つて居りますが、斯界の爲に私共を相變らず御導き下さいますやうに御願申上げます。終りに森川先生の御健康をお祈り申上げる次第でございます。

(編輯部)

我園の森川主事が本學期をもつて御退官になりました。

先生には早くより其の御心組もあらせられました様で御座いました、如何様の事が御座いまして、こゝ二三年

した。大人、子供、傭人に至ります迄先生を御したひ申し上げ我園の慈父として御仕へいたして居りました。たゞに在園いたしてゐる者計りでは御座いせん。四千になん／＼ご致して居ります終了園児、五百を算します保婦科の人々、卒業後も常に先生を、御慕ひ申上げ時につけ折にふれて先生を御尋ね申上げ、御教へをお受けした事でした。

二、寡言實行。の先生として常に私共は、御教へを受けて居りました。

三、敵を造らない。先生は常に敵を造る事を戒めて下さいました。不徳の私共は、さもいたしますと、不要の事をなし、人の喜ばざる言を發し等致します事が多いので御座いますが、人格の上から又特に女子として敵を造るの不可なる事を實行をもつて御示下さいました。

四、讀書の先生。隨分に事務の多い當園では御座いますが、先生には時間を巧みに御利用になりました、二十五年間實によく讀書を遊ばしました。英書に、獨書に、私共はいつもお羨ましく存じて居りました。

五、先生の躰け方。先生は多くを申されません不言の中に、子供を心から先生の御心のまに／＼お躰けになります。田舎の亂暴者はしかたのない者で御座いまして、さうして

も私共の手に合はぬ子供が時々御座います。かゝる時には、いつも先生の御側に連行致しますが先生は、御やさしき中に一點の嚴肅味を持つて居られます爲、半時間一時間ご先生の御側に居ります間に、子供は自らやさしい、自由な子供らしい氣持になりましたして歸つて参ります。隨分以前の事で御座いましたが、實に亂暴な男兒が御座いまして、お若い先生方をものごもせず、隨分園内の美しい長閑な氣分を亂しますので一度何ぞかしたいものだぞ存じて居ります際、小さい子供をひさく痛めましたので、自分は無言で其の男兒を主事室に連行しやうと致しましたが、力強き男兒は、鬼婆の一言を残して逃げ去りました。私にて憎くて其の男兒を虐げるのではありません。將來國家有爲の人材としたさの行爲で御座いますので、追つて漸くにして其の男兒を我手に入れ主事先生のお側に連れしました。先生は其の男兒を擬視なさいまして「お座り」に實に威嚴のある聲で申されました。あゝ三十分間不言のまゝ其の子供ご席を同じうせられましたが、後其言行の子供ごしてあるまじき事を、實にやさしく且強く、子供の腦裡に一言一言刻まれる様に、お話になりましたが、稍々暫くして、子供は自ら其の非を悟り、先生にも謝し、私にも「先生カンニンシテ下サ

「の一語を残して我組に歸り行きましたが、其の事がありまして以來、前こは打つて變つての善良なる男兒となり亂暴性が代つて勇敢義侠心となり實に快男兒となつて出て参りました。其の子供が徴兵適齡になりました時皆人が羨望する近衛兵となり、立派な軍服姿を見ました時は、實に感慨無量で御座いました。これは唯の一例に過ぎませんが、先生の御躰け方は、私共の學ばせて頂きます點が多々で御座いました。

六、先生の大量。先生は又大量で入らせられました。不束な私共で御座いますが、傭人に至る迄二十五年間一度もお叱りを受けませんでした、其の人として不足を御覽遊ばしました時は、人知れず靜かに御注意下さいました。長年の間には、随分お腹の立つ事も御座いましたでせう、しかし腹立たしき御容姿を遊ばしたり、大衆の前でお叱りになつた事は一回も拜しませんでした。私共は此點に於きましても大に學ばせて頂きました。

七、陰徳の先生。先生は實に人知れず恩徳を施されました。尙常に書に親まれますので學問も深く識見も高くすべてに明るく、蘊蓄されてゐるので御座いますが進んで外に現はさうごはなさいません。お尋ねしますと、さういふ迄

も御教へ頂くので御座いますが進んで多くを發表なさいません。實に學者肌の先生で入らせられました、一方又温情におあつく入らせられました事は、卒業生等が良成績を擧げました事を御見聞になりますと、誠に愉快にうれしく思召、不結果の報を耳になさいます時は實に斷腸の思ひを遊ばします。其の弟子を念させられます情掬すべきものがあるので御座います。

八、高潔無垢。ミ申上げませうか、純潔ミ申上げませうか、全く私利私慾ばなれ遊ばした先生で入らせられました。兎角淺薄卑俗に流れ易いのを、範を示して清き心持で御導き下さいました。

かくペンをこりまして二十有五年間受けし御恩を思ひます時、次から次へミひつきりもなく先生の御徳のみが走馬燈の如く目前を去來するので御座いますが、淺學申し上げます言葉を存じませぬ私、胸いつばいになつてゐる認められませぬ心苦しき、一筆認めまして却つて先生の御高德を損する憂なきを保せずで御座います。

# 殘花聚園 (八)

(日本幼兒教育史資料)

東京女子高等師範學校教授

石川 謙

## 六、福富草子(一)

遠い昔に於いて、子供を如何にみてゐたか、如何に取扱つてゐたかを調べる爲の一つの資料として、子供の讀物、子供に讀み聞かせる爲のお話を調べる事は、意味なきわざではない。そこで今度はお伽草子的一篇『福富草子』を紹介してみよう。お伽草子はいふまでもなく、室町時代中期から、徳川初期にかけて發達した獨特の文學である。之を作つた動機も、之を讀んだ者も、こもに恐らく「子供」の爲ではなかつたであらう。然し尠くも近世期に入るに、お伽草子が童話又は寓話として、幼い子供に讀み聞かせ話し聞かせたものであつた事は疑はれない。つまり子供の精神上の糧として、非常に大きな役立ちをしたものである。『福富草子』は後世段々に姿を變へ、筋を改めて、今日の小學讀本に見えてゐる『花咲爺』になつたものである。

「人は身に應ぜぬ果報を羨むまじき事になん侍る。昔福富の織部おひべにて、長者一人侍りけり。如何なる過去の宿縁にや、身に生れ付きたる藝一つ侍ひけるが、習はざるに奇特を現し、測らざるに名を發して、世の人、神の如くにぞ思ひける。その藝あさましく驚ければ、上中下の人までもよく聞き知りて笑を催す事なりければ、自ら公おほやけかた方にも聞召し、もて興きようじ在おほしましたしける事斜めならず。然れば富めるが上に富み、樂しきが上に樂しみて、棟に棟を争ひ、藏に藏を建て、五いっの穀物たなつもの耕さずして、庭に充ちくたり」。

「人は身に應ぜぬ果報を羨むまじき事になん侍る。」といふ教訓の一句が『福富草子』一篇の眼目である。之を最初に掲げた所からみても、必しも子供の讀物として作られたの



でないかもしれぬ。恐らく、幸福の上にも幸福を望む青年女子への教訓を、直接の目的としたものであらう。それにしても、分を超へて、尊い地位富める地位を望む者の出て来た戦國時代の世相を背景とした、教訓でもあり、物語でもあるミ考へられる。福富の織部は、不思議な才能に恵まれた宿命的な幸福者であるが、この物語では彼がまだ善人であるといふ色彩は殆んど全く見えてゐない。さうからか言へば、彼も亦、いんごうなそして幸せな老人に過ぎなかつたやうである。

## 二

「それが鄰にほくせうの藤太さて、いさ貧しき者侍り。こは織部に引き代へて、朝夕の煙も竈に絶え、三つの路草茂りつゝ、築地にあらぬ柴垣や、幔幕ならぬ簾垂れに、夜寒の床を明しかねつゝ、軒も垣をも、この爲に毀ら取りて、餘り寒さの風を入れける。夏はあさましき麻の衣古びて、破れ團扇にて蚊を拂ひ、軒の夕顔の華やかなるを慰めて、明し暮すめる。幼かりしより契りし人あり、藤太には十餘の姉にや侍りつらんかし。丈立すくよかに、顔つき荒まじく、口廣ければ、人、鬼姥ごぞ申しける。鬼姥或日夫のほくせうに向ひて申しけるは、士農

工商の遊民は、一つ故づける藝の侍りてこそ、名を四方に耀かし、世渡るものにて候へ。あなあさまし、其許は如何なる昔の戒行の拙き、高身になす能の在せぬ事よ。いさ口惜しきも口惜しや。打讀み走り書き、吹き囃し給ふ事こそならずとも、あの鄰の福富が一藝ばかりの事は、習はば何か習はざらん。然らば彼處に行きて、如何にも打歎きて、心を盡し師匠に仰ぎ、弟子こそなり給ひて習へよ。神變ある世ならば、あれ程にこそ在せずとも、世渡るばかりの方便、なきかならざるべき。勝れて興に物し給はば、鄰の寶は此方に充ち侍るべけれ。假令生れ付きたりいふさも、なきざる藝の長じ侍るはあらし。玉は研くに光あり、兎にも角にも習ひ給へ。それを承引き給はずば、御名残は惜しく候へきも、姥には御暇出されば、顔の艶やかなる程に、如何なる縁も定め侍らん」ミ急かする。ほくせう理に折れて、鄰に行き懇勉に畏まり、云々の事言ふ。福富出で合ひて、「ようぞ宣ふものかな。我等も其許の朝夕の友なり。侍らまじかりしかぎ、道は行いて教ふる事なければ、下り立ちて勧め参らせずして、斯う月日過ぎし」なき、いさ情々しう言添へ懇に持囃すべし。ほくせう畏り、「扱もく有り難の

御好にぞものし給へ。日頃月頃鬼姥が責め侍りつれど、斯かる大事の御能を左右なつた他家には傳へ給はじき、推量り思ひ侍りしかば、鬼姥が諫めをも用ゐずして、過ぎこし年月の悔しさよ。斯う憐み申しけるを、姥に語り喜ばせ侍らん」を、手を束ねて居る。織部の心の中には、今更追従やこ、憎きものから、可笑しき念じつゝ、「抑もこの一藝は、大事の藝の侍りて、服し、扱勤むる事に侍り。これが家の秘密なり。あな畏、人に語り給ふな」にて、何かあらん古りたる巻物取出で、薬のちやうさ様を細々語る。ほくせう、「さも侍らは、こても御好にその御薬、先づ一度の藝勤むる程賜はれよ。鬼姥が餘りに、せはしく申し侍るも煩ければ、近き程に一度振り出で先づ手柄を仕う奉り侍るべし」を頻りに乞ひる。福富然らばこて内に入りつゝ、黒く丸めたる薬三つ取り出で、「これ構へて、空腹にすかせ給ふな。少しお腹をつくらひて、その藝をなさんと思ふ二時許り此方に、鹽湯ぬるぬるこして用ゐる給へ。必ず不思議侍るべし。若し遅くとも、さのみ苛ら給ふな。餘りに藝の遅なはり侍らば、鹽に水汲み入れて髯所を浸し、息を吹き給へ。止めたくば、息を呑み給へ」を教ふ。ほくせう喜びて、彼の薬を額に捧

げ、暇乞して歸る。鬼姥侍ちかねて、「如何に、習ひ給へりや。教へ給へりや」を言ふ。ほくせう微笑みして、云々語りければ、姥喜ぶ事限り無し。「今日の内に、さも有るべき上つ方へ行きて、宣ふべきやうは、『福富の織部が師匠に、藤太の某、何こやうにも御好み候へ。御好みに随ひて出し侍らん』を高らかに案内し給ふべし。試みにこれにて聞きたう侍れど、僅か一粒の薬なれば惜しう侍るぞかし。早々出立ち給へ」をせがむ。

ほくせうの藤太も、彼の妻であつた鬼姥も、共に感心しない性格の持主である。福富の織部に縋つて不思議な薬を貰ひ受けて、それで一攫千金の大成金にならうを考へてゐながら、それでゐて「福富の織部の師匠、藤太の某」を宣傳めいた吹聴する等さいふ事は、甚だ感心の出来ない事に相違ない。其の上一刻も早く金持になりたいあせりから、落着きのない振舞をしてゐる姿は、いよく醜い。然し福富の織部が、うはべに妙薬を與へるが如く粧つて、怪しげな薬を與へて、欺むいた事等も感心出来ない仕打である。

### 三

「斯くて妻戸の隅の皮籠より舊りたる烏帽子、柿の帷子、絹の袴取出して、ほくせうに著せつゝ、「露も臆し給ふな。こしうし首さし仰ぎて言ひ入れ給へ」烏帽子の塵拂

ひ、鬢撫でつけ、前に立ち、後に廻りて言ふやう、「烏帽子著給ひたれば、初めて姥が親の許へ婿入し給ふやうに覺えて侍るぞや、なうく、良い殿や、こほくせうは教への儘に二粒の薬を服して、道すがら腹筋張り引きつりて神鳴の如く鳴りけるを、念じつゝ、醫所を据えて急ぐ。鬼姥から急立てられたほくせうの藤太が、あらんかぎりの

衣裳を着飾つて、例の怪しげな薬を飲むが早いか飛び出していつた焦燥ぶりは、如何にも醜體である。彼に如何なる福の神も、味方しそうにも思へない。富乞貧乞の別々な烙印を捺された宿命的な二人が、唯欲の一方から宿命を踏みじつて金持にならうと焦る姿は、戦國亂離の世なればこそ、見る事の出来る荒んだ人の氣持であつた。

### 夏やすみ後

夏やすみが残して行つて呉れた雑草が園一ばいに蔓つて居る。お山の上にも、砂場のまはりにも、花壇の後ろにも、人跡まれなる大原野の眺め茫々と茂つて居る。おひしは、めひしは、あれちのぎく、おおはこ、とほしがら、のびゑ、かたばみ、むらさきかたばみ、其の間をこうるぎが飛ぶ、ばつたが飛ぶ、こゝ暫くは雑草主義遊園の理想の時。煉瓦敷の遊園にも、アスファルト敷の遊園にも、季は此の雑草を惠まうとして居る。併し上から重たく抑へつけられて、ほこりつぼく、がさついで居る人工遊園に、此の純自然の深いおもしろ味は得られない。なにがしの茶の宗匠が設計にかゝるといふ。庭師を入れて何百圓がゝつたといふ。珍葉奇石、山のとすまい、泉水の眺め、ハハア結構ですと茶の十徳なんか賞鑑する様な御庭に、此の雑草がはえたらどうであらう。殿様の御聲がゝりて一本あつてもならぬ。刈れ々々一日も早く刈つて仕舞へといふことになるだらう。その刈つたあとは何とする。竹垣なぞうちめぐらして、いとみやびやかに、風情おかしく打ち建てられたる立札には、墨のあと美しくも、子供禁制とかげつたるを。兎に角くに子供は大喜びである。半ズボンの膝を没する雑草の間を馳け廻つて、きやつきやつと云つてはつたるを追ふて居る。みづひきの赤いのをしいて来て、小さな紙きれに包んだり、あなぎりの實をむしつて葉に盛つたり、おまゝここの御馳走はいくらでもある。お庭でも、公園でも、幼稚園でも、草は見るもの、花は眺めるもの、その見て眺めて而して觸るべからずとままつて居る草が、こゝでは遠慮なくふんだんにむしつてよいのである。草と一しよになつて遊んでよいのである。當分は別に玩具も何もしらない。此の雑草こそ、自由自在の玩具である。恩物である。可愛がらうな都會の子供達は、此の雑草を特別の賜物のように喜んで居る。自分達の生活に必然の世界としていくらも自然が與へて居て呉れる野も知らず、山も知らず、そこで遊んだ先祖達の幸福も知らず、たまぐの夏やすみを利用して、自然が辛じて與へて呉れた此の雑草に、渴けるものが水を得た様に喜んで居る。そして年に一度づゝの此の雑草に、眞に面白い遊園の樂しさも享けて居る。年にたつた一度でも、此の雑草のある幼稚園は幸な幼稚園である。一日でも多く此の雑草を刈らずに置いて下さる先生は感謝すべき先生である。

# 正男さんの井戸

東京女子高等師範學校教諭兼教授

石井庄司

## 一

今年の夏は仲々の日照つゞきである。關西から西の地方が殊に甚だしいさいふこまである。中國地方の或る町では水道は減水、電燈も薄暗がりさいふ心細い有様ださいふこを聞いた。かういふ早魃の年には水のこまが思はれる。わけても美しい清水の湧く田舎のこまなご、昔のこまが思ひ出される。

自分の生れた隣村に、如何なる旱天にも水の涸れたこまのないさいふ清水の湧く井戸があつた。小さい丘の麓で、あまり水の湧きさうでない場所であるが、非常によい水が滾々湧く。それは大昔、村では水がなくて困つてゐたら、そこへ弘法大師様がお出になり、杖をお突きになるまじゅーつま水が湧いてきて、そこを掘つたのであるまじ。今でもお圍子を作るに、此の井戸の水を用ひるま大變きれいに出來上るまのこまである。

かういふ昔のこまをなつかしく思ひ起しながら、例の風土記を繰りひろげてゐるま、播磨風土記の中に「又以杖刺地即從杖處寒泉湧出遂通南北、北寒南暖」さいふ記事が見付かつた。餘りよく似た話なので全く驚かされた。假名交りに書き下してみるま左の通りまなる。

また杖もて地つちに刺さしかば、やがて杖の處より寒泉しみづ湧き出でて遂に南北かまに通へり。北は寒く南は温し。

話の要點は、杖を以て地面に突きさしたら、そこから清水が湧いた。そして南北に流れた。北に流れる水は寒く南側のは温いさいふのである。原文に「又」まあるのは、實は此の條は、外來人である天の日槍ひばこの命に關するこまで、此の前に揖保いひほの丘の所謂があり、それに續いてゐるのである。それで杖もて地に刺すさいふのは、天の日槍の命に關するこまのやうである。風土記では次に出水いづみの里の記事があり、なほ水無川の水争ひの事なまが出てゐる。

一體に風土記には、泉、清水、井に關する記述が多い。それは飲料水といふものが人間の生活に最も密接な關係を持つてゐたからであらう。なほ井戸を中心とする社會的事件も多かつたやうであり、かたゞ上代人にまつては泉は生活に親しみ深いものであつたであらう。

同じ播磨風土記の中で「酒の泉」ひこといふのがある。大帯おほたて日子天皇(景行天皇)の御世に酒の泉が湧き出でた。それで酒山ひこといふ。一般の人々で飲む者は、すぐに酔うて相闘ひ相亂れた。それで埋め塞がしめられた。後、庚午の年に或る人が掘り出したといふ。今なほ酒の氣があるといふ。

——かういふ記事で、かの養老の灌のやうな興味あるものではないが、酒の泉といふものがあつたことがわかる。民衆は爲めに亂闘を演じた。因つて之を埋めさせられたといふあたりは一種の親しみもあつて、面白い記事と思ふ。最も子供向の話には不似合であることは、申すまでもない。

さて、都會生活をしてゐる子供、井戸いといふものゝ難有味を知らず、水の重寶さを知らず、水道の栓さへひねれば水は出るものゝ心得てゐるものに、かういふ昔の話はさうしたら聽かせ得るであらうか。

正男さんは、今年の夏休に、お父様ちちと一所にお父様のお國へ連れて行つて戴きました。特急ツバメ號に乗つて、朝九時に東京を出發しましたが、お父様のお國へ着いたのは、もう夕方でした。

「正男さん、ようく來ましたね。さあ、さあ、おいしい西瓜が冷してありますから」ちちとお爺様やお婆様に迎へられて、正男さんは、眼をバチクリさせてゐます。

薄暗い電燈の下で、正男さんはお父様ちちと一所においしい西瓜を戴きました。電燈は暗いし、蚊はブンブンうなつて來るし、いやでしたが、西瓜は本當においしく、顎あごが落ちさうでした。

「田舎の電燈つて暗いんですね」

とお父様にきいてみた。するこ

「いや、いつもは東京と同じに明るいのだが、今年は雨が降らなくて、水が無いので、電力がなくて、こんなに暗いのだよ」

と教へて下さつた。

その晩は汽車で疲れたので早くおやすみました。

翌くる朝起きて、正男さんは顔を洗はうと思ひましたちちが、何處にも洗ふところがありません。

「お父様、水道はきこにあるの」

さき々ましたので、お父様は大笑をなさいました。

「正男さん、それでは田舎の水道を教へてやらう」

「お父様にいはれて、下駄をはいて行きますさ、御門を出て、坂を上つて、すつこ向ふの杉の森まで来ました。

「これが田舎の水道さ」

「さ笑ひながら、お父様は正男さんに井戸をお示しになりました。山の麓の岩の崖に、石で圍んであつて、木の葉が落ち込まぬやう蓋が造つてあります。のぞいてみますさ、中に澄んだ水がたまつてゐます。

「いつもなら、もつこ澤山水があつて、この出口からチロ／＼流れるくらゐなのだ、今年は雨が降らないから、もう水が無くなりさうだ」

「さいつて、お父様は大事に一杯の水をお汲みになりました。それを二人でわけて顔を洗ひました。それからお父様は

「お家で御飯を炊く水も、お茶を飲む水もみなこゝまで汲みに来るのですよ」

「さ教へて下さいました。正男さんは、はじめて水さいふものがこんな大事なものかと思ひました。

正男さんは、お父様と一所に此の田舎の家で楽しく暮してゐましたが、幾日たつても雨が降りません。あちらでも

こちらでも雨がほしい、雨が降つてくれればさいふ聲がします。田圃の水はもうすつかりなくなつて、稲の葉はよれ

／＼に萎なえてゐます。畠の土も眞白に乾いてゐます。川の水もなくなりました。いまに村の人の飲む井戸の水もなく

なつてしまふだらうさみな心配してゐます。村の人は、毎晩鎮守様を集つて、お祈りをいたしました。正男さんもお父様と一所に行つてみました。

村の人々は多勢集つて、神様の前にお燈明をあげ、一生懸命に、「さうか雨を降らせて下さい」さおがんでゐます。

正男さんも小さい手を合はせておがみました。さうかして雨が降りますやうにさ心に念じました。

お父様と一所に、鎮守の森の薄暗い道を戻つてきますさ、向ふの方に何かぼうつさ明るいものが見えます。何だらうさ思つてお父様と一所に近づいて行きますさ、髭の白

いお爺さんでした。着てゐるものも眞白なもので、手には長い杖を持つてゐます。髭のお爺さんは正男さんの顔を見るとき、ニコ／＼さ笑ひながら長い杖で、コツ、コツ、コツと三度地面を突きました。何だらうさ驚いてゐる中に、そ

のお爺さんはすうきこかへ姿を消してしまひました。

翌くる朝早く、正男さんはお父様と一所に鎮守様へお詣りいたしました。そしてゆふべお爺さんに出逢つたことなごを話してゐます。今まで何もなかつた道のわきにきれいな清水が湧いてゐるではありませんか。よく見る。杖で突いた跡があります。

「これはきつこ、あのお爺さんが教へてくれた清水だ」  
と大よろこび。水はいくらでもぎんぐと湧いてきます。

そこで村の人を呼び集めて、大勢で掘りひろげました。

「もうこれで御飯を炊く水は心配ない。正男さんありがたう」

と村の人はみんな御禮をいひました。それからその井戸を「正男さんの井戸」といふやうになりました。

## 今夏保育講習會

今夏に於ける本會主催の保育講習會は、豫期以上の盛會裡に終りました。北は北海道より、臺灣、朝鮮、滿洲よりも多数參會せられ、實に全國的な會合でありました。(參會者五百六十餘名)講習會員の方方は汗したたる炎熱をものもせず皆熱心に聽講せられました態度は、係員一同感激の他ございませんでした。

本會主催のまほし時日を同じうして東京に於て開かれた保育講習會に、佛教保育協會主催の講習會、帝都保姆傳習所主催の講習會、保育問題研究會主催の講習會などあり、これより多少の時日をおくれて開催せられたものに、東京昭和保姆養成所主催の講習會などありましたが、何れの講習會も超滿員の盛況でありました由に聞いて居ります。

今年は文部省よりの通牒もあり、集團勤務作業は全國の學校に於て實施致されて居りますので、全國からの皆様が多数一堂に會されることは六ヶ數からうご考へて居りましたのに、かくも盛會であつたこと云ふことは畢竟するに保育實際家の熱心を示すものだと思ひました。この時局にじつとして居られない。多少なりとも勉強して御奉公致さんものごの御心構へのあらはれださ感じた次第でした。

(講習會係り)

# 戸外の自由遊び

及川 ふみ

酷暑の夏もすぎ、戸外遊びが充分に出来る秋のよい保育期も近づいてきた。物的資源の大切な當今わけでもそれ以上に大切な人的資源である幼児たちの健康について、今更いふまでもない事ながらこのよき保育期にあつて最善の道をさらなくてはならない。

太陽の直射する廣い園庭で、或は砂場に、或はブランコにスベリ臺に嬉々として遊んでゐる幼児たちの姿を見る事は實にありがたい事である。幼稚園はきこでも日當りの好い園庭を持つところばかりではないのである。人家周密の大都會地なきでは、いろ／＼の事情で園庭は勿論のこき保育室さへも日當りの悪いところも相當にある様である。

こんな幼稚園では、先生方は如何にして幼児たちに、より多く日光を浴びさせやうかき苦心されるまか伺つて御同情的の外はない。

しかし太陽のありがたさに馴れてゐるものは、案外に戸

外保育の大切である事をおろそかにはしてはいないであらうか。

ある理解ある幼稚園の經營者が、この頃の幼稚園の先生方は、幼児たちを屋内で保育される事は大層上手で、例へば唱歌遊戯でも上手に歌はせてゐる。又お話なきも巧にしてゐるし、手技なきもいろ／＼に新工夫をこらして室内の集團保育には充分の技倆をおもちの様であるが、一つ遺憾の點は、戸外の自由遊びの指導である。室内の保育はまさまつてゐて、やり易くてよいのでせうがね。さいふ事であつた。

この經營者の御話を聞いて全く同感であつた。そして幼児たちにかはつてありがたいお考への方だき感謝した。

保育時間中の大部分を占めてゐる自由遊び、戸外保育の最も多いところの自由遊び、この自由遊びが幼児の幼稚園生活中の中心となるものではなからうか。この點に留意し



て保育の力點も考へなくてはならない。

一般の幼児の父兄たちの間にもおひくゝに幼稚園における幼児たちの生活狀態も理解されて來た時であり、いたづらに外見のよき保育にさらはれなくてよい時である。

たゞ自由遊びはその名の通り、幼児が一人或は數人で、あちらこちらに散り散りに自由に遊んでゐるので、その指導は各組、各様にして、指導者は樂の様で決して樂なものではない。身體的にも、精神的にもよほぎ活動の分量が多いのである。それに對して外見は、集團的にする室内なごの保育に較べて、比較的に地味なものである。

華かな保育は幼児たちの上にくゝご無理がごもなつて來る。教育さいふ仕事はもごより誠に地味なものである。その地味な仕事のうちでも、幼児相手の保育は殊更に地味でなくてはならない。幼児たちの樂しく生活するまゝに生活させて、その長をまじり短をすてる事に指導する事が各幼児たちにまつて一番親切な保育の方法ではなからうか。

人の力には限度がある様である。二頭をおふものは一頭を得ずまか。先づ秋の好時節に幼児の健康保育の一つとして、戸外の自由遊びの指導に、保育の力點を置いて幼児た

ちご遊んで見たいものである。

新聞紙の報道で皆様既にご存じのこととせうと思ひますが、この度の事變で、尊き護國の英靈となられた方の未亡人の方々は、御希望により、教壇の人となられる制度が出来まして、去る八月中旬に、小學校教員、幼稚園保母、中等教員とそれらの志望によつて入學試験が行はれました。小學校教員となられる方々は東京府の女子師範學校に於て、又保母志望の方は奈良の女子高等師範學校に於て、中等教員となられる方々は、東京女子高等師範學校に於て、それら入學試験がございまして、どれももう決定になつた筈でございます。

受験者の方々には御子持ちの方が多いと云ふことを伺つても居り、又學校のお指圖にもよりました、私共當園の保母は試験當日幼稚園へまゐり、學校へお連れになつた御子さんを受けとつて幼稚園でお相手いたしました。大抵五歳以下二歳までの御子さま九人程が幼稚園で、八時から五時位までお遊びになつて歸られました。北海道から、九州から、茨城からといろ／＼の地方からいらつしやいましたのに、間もなくおなじみ深くなり、お別れする時は、僅か一二日のおなじみとはとても思へない程の親密さになりました。(編輯部)

# 幼稚園と尋常小學校との連絡に

## 關する資料調査(上)

東京市保育會

### 目次

- (一)學習態度に關する調査事項(調査表一)
  - (1)注意力
  - (2)著眼點
  - (3)實行力
  - (4)創作力
  - (5)想像力
  - (6)學習上の興味
- (二)訓練方面に關する調査事項(調査表二)
  - (1)後始末
  - (2)物を大切にす
  - (3)自分の事は自分でする
  - (4)友達との調和性
  - (5)衛生上の習慣
- (三)體力方面に關する調査事項(調査表三)
  - (1)體力
- (四)小學校に於ける幼稚園兒の取扱
  - (1)學習指導上
  - (2)訓練上
  - (3)環境上
- (五)學級編成及取扱上の注意
  - (1)混合組編成理由
  - (2)混合組取扱上の注意
  - (3)幼稚園組編成の理由
  - (4)幼稚園組取扱上の注意
- (六)個性觀察簿
  - (1)利用せし理由
  - (2)利用せぬ理由
- (七)尋常小學校より幼稚園に對する希望
  - (1)保育に關して
  - (2)保育内容に關して
  - (3)躰方に關して

(4) 養護に關して

(5) 其の他

(八) 幼稚園より小學校に對する希望

(1) 幼稚園と合同して兒童に關する研究會及懇談會開催の件

(2) 低學年擔任訓導並に保母の參觀交換會開催の件

(3) 一學年の學習に關する件

(九) 批判及反省

幼稚園と小學校の聯絡問題研究調査用紙

區 小學校

學	事項	幼稚園から行きました子供の一年の終り頃を。學當初に比較してどうなつたでせうか。お氣付きになつた點を御記入下さい		小學校	
		集注は 持續は	○印	○印	實例及御意見
一、注意力	著眼點は	一、注意力がよい	○	○	一、に對して
二、著眼點は		二、著眼點がよい	○	○	二、に對して
		三、實行力がある	○	○	三、に對して
		四、創作的である	○	○	四、に對して
		五、想像力がある	○	○	五、に對して
		六、學習に興味がある	○	○	六、に對して
		一、後始末をよくする	○	○	七、に對して
		二、物を大事にする	○	○	八、に對して
		三、自分のことは自分でする	○	○	九、に對して
		四、友達との調和性がある	○	○	十、に對して
		一、體力は強い	○	○	十一、に對して
		二、衛生上よい習慣がついてゐる	○	○	十二、に對して
			○	○	十三、に對して
			○	○	十四、に對して
			○	○	十五、に對して
			○	○	十六、に對して
			○	○	十七、に對して
			○	○	十八、に對して
			○	○	十九、に對して
			○	○	二十、に對して
			○	○	二十一、に對して
			○	○	二十二、に對して
			○	○	二十三、に對して
			○	○	二十四、に對して
			○	○	二十五、に對して
			○	○	二十六、に對して
			○	○	二十七、に對して
			○	○	二十八、に對して
			○	○	二十九、に對して
			○	○	三十、に對して
			○	○	三十一、に對して
			○	○	三十二、に對して
			○	○	三十三、に對して
			○	○	三十四、に對して
			○	○	三十五、に對して
			○	○	三十六、に對して
			○	○	三十七、に對して
			○	○	三十八、に對して
			○	○	三十九、に對して
			○	○	四十、に對して
			○	○	四十一、に對して
			○	○	四十二、に對して
			○	○	四十三、に對して
			○	○	四十四、に對して
			○	○	四十五、に對して
			○	○	四十六、に對して
			○	○	四十七、に對して
			○	○	四十八、に對して
			○	○	四十九、に對して
			○	○	五十、に對して
			○	○	五十一、に對して
			○	○	五十二、に對して
			○	○	五十三、に對して
			○	○	五十四、に對して
			○	○	五十五、に對して
			○	○	五十六、に對して
			○	○	五十七、に對して
			○	○	五十八、に對して
			○	○	五十九、に對して
			○	○	六十、に對して
			○	○	六十一、に對して
			○	○	六十二、に對して
			○	○	六十三、に對して
			○	○	六十四、に對して
			○	○	六十五、に對して
			○	○	六十六、に對して
			○	○	六十七、に對して
			○	○	六十八、に對して
			○	○	六十九、に對して
			○	○	七十、に對して
			○	○	七十一、に對して
			○	○	七十二、に對して
			○	○	七十三、に對して
			○	○	七十四、に對して
			○	○	七十五、に對して
			○	○	七十六、に對して
			○	○	七十七、に對して
			○	○	七十八、に對して
			○	○	七十九、に對して
			○	○	八十、に對して
			○	○	八十一、に對して
			○	○	八十二、に對して
			○	○	八十三、に對して
			○	○	八十四、に對して
			○	○	八十五、に對して
			○	○	八十六、に對して
			○	○	八十七、に對して
			○	○	八十八、に對して
			○	○	八十九、に對して
			○	○	九十、に對して
			○	○	九十一、に對して
			○	○	九十二、に對して
			○	○	九十三、に對して
			○	○	九十四、に對して
			○	○	九十五、に對して
			○	○	九十六、に對して
			○	○	九十七、に對して
			○	○	九十八、に對して
			○	○	九十九、に對して
			○	○	百、に對して



(一) 學習態度に關する調査事項(調査表一)

事項	入學當初		一年級	
	解答校數	百分比	解答校數	百分比
(1) 注意力 集注する あきやすい	三	五・七四	三	四・五
普通	四〇	五・三六	九二	三・四〇
同答なし	七	八・九九	三五	三・二〇
(2) 著眼點よるし	五	七・九五	七	七・四〇
變りなし	二〇	二五・六四	五	三・五
發達せず	五	六・四一	二	二・四〇
同答なし	七〇	四七・四四	三〇	三六・六
(3) 實行力がある 途中で飽きる	三	四・〇〇	三	四・〇〇
普通	一	一・二八	三	四・〇〇
同答なし	八	一〇・三六	八	一〇・三六
(4) 創作的である 模倣的である	三	四・〇〇	三	四・〇〇
普通	二	二・五六	二	二・五六
發達せず	六	七・六九	七	八・七
同答なし	六	七・六九	六	七・六九
(5) 想像力がある 乏し	四	五・三	五	六・四一
普通	四	五・三	二	二・七〇
發達せず	七	八・七七	八	一〇・三六
同答なし	四	五・三	三	三・七四
(6) 學習に興味がある	三	三・七四	三	三・七四
普通	三	三・七四	三	三・七四
發達せず	七	八・七七	三〇	三六・四六
同答なし	七	八・七七	一〇	一二・八二
同答なし	七	八・七七	七	八・七七

(一) 學習態度に關する調査事項

(1) 注意力(下に示す數字は同答校數)

事項	入學當初		一年級	
	同答校數	百分比	同答校數	百分比
注意力 集注する あきやすい	三	五・七四	三	四・五
普通	四〇	五・三六	九	二・四〇
同答なし	七	八・九九	二	二・四〇
同答なし	七	八・九九	八	一〇・三六

入學當初の實例及び意見

- 1、團體生活 教室に於ける作業になれてゐる爲か集注持續せず。(否一四)
- 2、既習事項が多い爲あき易い。(否一一)
- 3、教室内に於て教師の語に耳を傾ける熱心な態度の多いのは團體的教育を受けた賜であらう。(良七)
- 4、興味本意のものに對してはよく注意が集注する。(七)
- 5、授業時間中私語多く勝手に坐席をはなれる。(否四)
- 6、一般に世話やきである。(否二)

7、室外に於ける整列整頓室内に於ける學習等に注意力永續せず。  
(否 一)

8、幼稚園時代の刺戟になれその諸感覺が正しく練磨されてるればよいが、自由な性質を伸した爲よくない、學習中他の事を云ひ出したりあくびをしたり一般兒が緊張してゐる時もうあきる。  
(否 一)

一年後の實例及び意見

1、一般兒ミかわりなくなつた。  
(普 一五)

2、學校生活になれてきてよくなつた。  
(良 一二)

3、集注性持續性共に順調なる發達をなしつつあり。  
(良 一〇)

4、入學當初程他の兒童より目立たず。  
(八)

5、一般兒は上昇して來るが幼稚園兒は割合のびない。  
(否 五)

6、相變らず私語多く手いたずらをしたりわき見をする。  
(否 三)

批判及び反省

注意力についての回答の結果は集注持續するものが三九・七四パーセントあき易いものが五二・二八パーセントとなつてゐる。一年後は良いものが四六・一五パーセント

普通のが三二・〇五パーセントとなつた、故に入學當初注意力が一時的に集注しても、すぐあき易く持續する事の不可能なあらはれをみる事が出来る。中には實例の示す様に既習事項の多い爲注意力旺盛、聴くミか話すミかの態度の出來てゐるミころもある。一般的にあき易いミ云ふ事は團體生活ミ教師になれてゐる爲でもあらうが、一面小學校教育の方法ミ幼稚園保育の方法ミの差異が甚しい爲めに生じた結果ではあるまいか。小學校側に於ても入學當初の學習方法には充分考慮して頂く餘地が絶無ではなからうと思はれる。

(2) 着眼點

事項	入學當初	
	回答校數	百分比
着眼點よろし	五	六七・九五
變りなし	／	二七
發達せず	二〇	三五・六四
同 答 不 良	五	六・四一
同 答 不 良	五	六・四一
同 答 不 良	二	二・四一〇

1、入學當初の實例及び意見

幼稚園に入る者は多くは良い家庭であり指導になれてゐるので着眼點はよい。  
(良 六)

- 2、着眼點がよいといふことはやつたところがあるので目がつきやすいのではないか。(良 七)
- 3、特によいとも思はれない。之は幼稚園に來なかつたものも同じで要するに素質にあると思ふ。(四)
- 4、圖畫手工等にすぐれてゐる。(良一八)
- 5、學校になれすぎてる爲か他人のおせつかいが多い。(否 二)
- 6、目的を指示すれば直に學習にのりうつる。(良 四)
- 7、園兒同志の環境琢磨のおかげと思ふ。(良 四)
- 8、一般兒に大差なし。(三)
- 9、明敏である。(良 二)
- 10、保姆の方針が反映するところが多い。體裁より目のつけ處に留意して保育された組は着眼點がよろしい。(良 一)
- 11、積極的なり、要點の把握をなし漫然としてゐるものが多いが然し他の學級より優位にみられるのは三年位までである。(三)
- 12、一般に常識が発達してゐる。(良 二)
- 一年後の實例及び意見
- 1、讀書が教科書以外に廣範圍に渡り常識の發達につれて文章を正確に然も容易にさる様になつた。(良 八)
- 2、具體的に吟味的に物の見方をおぼえてきた。(良 六)
- 3、要を得て良好なり。(良一八)
- 4、ますます進歩しつゝあり。(良 五)
- 5、他の兒童と見分がつかなくなるこれは一つに個性の問題に歸着するのではないかと思ふ。(六)
- 6、特異なものが少くなつた。(九)
- 7、かはりなし。(二)
- 8、亂れやすい様なり。(否 二)
- 批判及び反省
- 着眼點につきてのパーセンテージを見るにそのよろしきもの六七・九五%變りなきもの三二・〇五%發達せず認めむもの二五・六四%となつてゐる他解答なきもの六・四一%なり、これをみるに入學當初に比し一年後はやはり低下してゐるがまづ着眼點はよろしき方なり。實例の示す如く入學當初の良好なる状態はよいへばこれは幼稚園時代に於ける觀察作業の賜ではなからうか、小學校側にお

かれては此の上益々誘導せられんことを望む。一方一年後を経ては依然として進歩せずまた變りなしと認むる者につきては幼稚園側に於てなほ研究考慮の餘地ありと思はるゝも學校側においてもその原因が何にあるか御研究の上誘導されてやゝもすれば秀才教育に全力を掲ぐるが如きことなき様御考慮を願ひ度い。

(3) 實行力

事項	入學當初		一年後	
	同答校數	百分比	同答校數	百分比
實行力がある	七	四七・四四	三〇	六三・四六
途中で飽きる	三三	四一・〇三	／	／
普通	一	一・二六	三三	四一・〇三
發達せず	／	／	八	二〇・三六
同答なし	八	二〇・三六	八	二〇・三六

入學當初の實例及び意見

1、種々の訓練を経てゐる爲實行の目標が明瞭であり、自信を持つて先にたつて實行せんとする。そして途中であきない。  
(良 一〇)

2、自主的に目的を認定して學習するが自發的學習(手技圖書等)でないが早くあきる。  
(三 二)

3、家庭にもよるであらうが坊ちやん孳ちやんの取扱ひの爲かほめないが満足せず長續きせず。(否 五)

4、途中であきるのは學校が一所で馴れてゐる事及び小學校の方がやる仕事の程度が低いからではあるまいか。  
(否 五)

5、仕事に飛びつきがよく指導工夫によつてその實行力は十二分に發揮する手技方面で特に著しい。(良 一)

6、保育に於て自發的にこの指導に基いて啓發されて来ただけに自立自營の力はよく育まれてゐるに感心する。  
(良 一)

7、幼稚園生活が多く子供の好む仕事(作業)を主にやつて行くのに反し嫌な仕事もやらねばならない關係上から途中で飽きるこいふ結果になるものと思はれる。  
(否 一)

8、仕事をするに手傳ひを豫期してゐる傾きがある。  
(否 一)

9、發表的で實行力はあるが内省が伴はぬ爲空活動に終る事が多い。  
(否 一)

10、もう知つてますこいつた風で次の何かを期待して之がないと飽きる。  
(否 一)



一年後の實例及び意見

1、一般に變りなくなる。

(一九)

2、更によくなりつゝある。

(良二三)

3、修身教育等よく徹底して恐ろしい位である。(八)

4、時間いっぱい努力する仕事に於ては更に時間を要求し

満足出来る作品になるまで続ける。

(良三三)

5、確實になつた。

(良三三)

6、依然として途中で飽きる。

(否六)

7、悪くなつた。

(否一)

8、不熱心にて禁止せられた行爲を平氣で破り諸注意を大

切に守らない。

(否一)

批判及び反省

入學當初に於て良さいふ答は約半數三七校、途中で飽きるさいふもの三三校なり一年後に於ては良さいふのが三〇校途中で飽きるものがなくなり、普通まで發達したものが三三校を示してゐる。その他一向の進歩を見ないものが八校もある。一年後に於てこの様な成績をみる事の出来るのは學校の御指導を得た賜に感謝に堪えない。實例4の示す缺點は幼ない子の取扱ひ上自然行はれる傾向で、又現在の幼稚園(私立をも含む)經營上陥り易い缺點

と思はれる。又例5については保育時代その方面に於て多く經驗をした爲の結果をみられる。例89は回答中唯一つの例ではあるがいかゞかでもこの傾向のみられるのは保育者の注意すべき點である。保育に當つては廣く種々の經驗を與へるに共に、その上慎重綿密な反省を與へ、自覺に導き、沈思熟慮の上實行に移る様、實際指導に充分力を用ふべきである。その他47の御意見については、幼稚園時代に、誘導保育を受けた爲で決して程度の問題ではないと思はれる。この様な場合、又は例10の場合こそ小學校としては、指導方法を研究し、自力を發揚さすべきであらう。保育に於ても智的方面に深入りしない様、作業は完成させる事に留意せねばならない。入學當初に123の如き例を多數にみる事は保育の努力の表れにして、誠に喜ばしき事である。保母としては先に擧げた點に留意し一層改善努力に盡したい。尙一年後に於て567の例を見るのはさういふわけか7の一年前の様子は一般兒に於ても幼稚園兒に於ても良きもあり、悪きもあり、子供の素質によるにあつた。又入學當初に於ては、良さいふ校數が三七を示してゐるのにこれが、一年後に於ては三〇になつてゐる。是等の事は何を示して

るるのであらうか、或る幼稚園組を作つて居る學校に於て、入學當初に於ても、相當によく一年後に於ても一時間の學習時間中は勿論興味あるものに對しては、一日乃至一週間も續けて、學習を行ふ様になつたことがある。幼稚園組を特設させるからにはその御指導方法に於ても特別な法を以てなされてゐるのは當然であらうと思はれる。以上の事柄は指導に當られる方に於て特に留意、一考を要して頂きたい。又得た材料の事であるが、表に於ては一年後に於て途中で飽きるこいふのはなく、現はれてゐるのに實例の所に於ては先に擧げた實例567があつたり、又入學當初の状態はよく記されてあつても一年後の様子の全く記してゐないものもあり、この材料によつてのみ斷定を下す事は出来ないわけである。

(4) 創作力

事項	入學當初		一年後	
	回答校數	百分比	回答校數	百分比
創作的である	三	四・七二	三	四・〇〇
模倣的である	二	二・三五	二	二・六

發達せず	六	七・九	七	八・七
回答なし	／	／	／	／

入學當初の實例及び意見

1、圖畫手工等に於て特に創作的な點を認める。

(良一六)

2、手技に最もよく現れる。一同に一定の材料を與へて考案させるこよく考へて独自の案をねり他を模倣するなごの事がない。

(良一一)

3、満了兒が創作的であるこは、手工圖畫直觀科でもよく見られるし算術讀方でも到る處にみられてよい。

(良一一)

4、幼兒の自發活動は創作慾をも煽り立て、完全に他の兒童を引具する力がある。

(良一一)

5、物を創作する力は持つてゐる。

(良一一)

6、圖畫手工等に型にはまつた模倣的な傾向がある。

(否四)

7、幼稚園に於て多くの經驗を経て來てゐる故か創作的なところがある。

(良一一)

8、男兒は創作的であり女兒は模倣的である。

(一一)

四三

9、豊富な経験内容を持つてゐるが作業に入るに追隨的模倣的である。  
(良 一)

10、創作的に優れてゐるが模倣が習慣となり創作に努力しないものもある。  
(否 一)

一年後の實例及び意見

1、工夫考察をしてゐる態度は著しく發達した。特に手工圖畫の作業は創作的な能力が益々向上した。

(良 五)

2、創作力はかなり強くなつた。

(良 三)

3、模倣は創作の母である。幼児教育により訓練を経て來た爲内容も豊富である。之を創作力伸展の糧として進むから良好と思ふ。

(良 一)

4、一般に兒童は模倣生活が多い様であるが此の頃では自分でよく見、よく考へ何事も案出する態度が出来て來た。

(良 一)

5、小さな文集を作つて歌、作文等樂しむ者も出來た。

(良 一)

6、本人は伸びつゝあるが入學當初程目立たない。

7、稍、創作的な傾もあるが模倣が見受けられる。(一)

8、他の兒童が追付いたやうに見受ける。(一)

9、兒童の天性によりてのみ差をみこめ幼稚園の影響を認めず。  
(一)

批判及び反省

入學當初は一般兒童に比して創作力の豊かな者が多い。回答を得た七十八校の中三十八校で四八・七二パーセントを示してゐる。

實例2にも見られるやうに幼稚園生活に於ける自發的活動や、創作性の多い作業經驗から創作的能力が勝れてゐるやうに思はれる。模倣的な傾向が多いといふ實例では10の如くで三十二校の四一・〇三パーセントでかなり多くゐるが、一般的にも模倣を好む時代であるから思ふ。12の實例を見るに、幼稚園生活によつては、幼兒の自發的活動を押へるやうに考へられる向もあるが偏見ではなからうか、これ等も一年後には模倣から創作へに進んだ者又創作力がますます伸展したもの等四一・〇三パーセントで模倣する者がなくなつてゐる。兒童の發達程度にもよるがよき指導によつて芽生えかけた創作力が充發揮されたのであらう、幼稚園にあつては特に指導に注意してゆかなければならないと思ふ。

(5) 想像力

事項	入學當初		一年後	
	回答校數	百分比	回答校數	百分比
想像力がある	六二	六・三	六六	六・二五
乏しい	六	七・六九	／	／
普通	四	五・三	二元	三七・一八
發達せず	／	／	五	六・四二
解答なし	七	八・七	八	一〇・三六

入學當初の實例及び意見

1、色々な生活内容をもつてゐる爲に思想が豊富で想像力に富む、特に圖畫、手工等に於て其實を見る。

(良一九)

2、讀方修身等の内容をさらへて想像發表すること、物語中から多方面に想像力を發展させてよき精神生活をする。

(良一三)

3、社會的常識が發達してゐる。又其方面の想像力は大有る。

(良三二)

4、一般兒に比して想像力は優つてゐる。

(良三三)

5、これは正しく抑壓、放任、干渉さ云ふ文字から開放された幼稚園教育の自發的活動の恩恵であらう。

(良一)

6、一般的問題ではないと思ふが幾年かの幼稚園生活をした者は正に想像力がある。

(良二)

7、智能の優秀なる者の多い爲かも知れないが想像力は豊かである。

(良一)

8、構成の上のみでなく修身科でも掛圖による想像性は十分に見られる情操の發動に於ても幼稚園で相當陶冶されてゐるを認め得る。

(良一)

9、常識の發達と訓練がきちらか云へば想像力を豊かにしてゐると思はれる。しかし個性による點があつて一概には言ひきれないやうなところもある。獨自のものである。

(良三)

一年後の實例及び意見

1、國語内容の探究、文の内容把握等他の兒童より勝れてゐる。

(良五)

2、繪畫觀察による想像は、大體に於てよい。兒童自身重話を行ふ場合の想像力旺盛。

(良四)

3、この時代の子供の想像力はかなり大きいので漸次統一ある方向に向つて來たやうである。

(良一)

4、他の兒童が追付いたやうに見受けられる。

(三)

5、一般兒に變りない。

批判及び反省

想像力が豊富で良いといふのは、六十一校の七八・二二%で學習態度中最も良い率を示してゐる。實例の1、2にも言はれてゐる様に、幼稚園生活に於てこの方面が養はれる機會が多い爲であらう。乏しいと云ふのは六校七・六九%の少數である。これ等の一年後を見るに想像力が益々伸びて一段深い内容を持つてきてゐる。この實例には1、3の如くであるが一年間には一般兒童も想像力が伸びてくるので大差はなくなるといふものもある。今後も心意の養成に一層努力しなければならぬと思ふ。

(6) 學習上の興味

事項	入學當初		一年後	
	同答校數	百分比	同答校數	百分比
學習に興味がある	四一	五・七	三三	三・七
少い	三三	二・九	／	／
普通	七	八・七	三〇	三・六
發達せず	／	／	二〇	二・三
解答なし	七	八・七	七	八・七

(一)

入學當初の實例及び意見

1、幼稚園に於ける保育が稍々違つた學習、これは新小學校に進んだ喜び、よき保育を受けたもの程學習に憧れてゐるのに違ひない學習なれば興味を持つのは當然であらう。

(良 四)

2、直觀的に、共同的に教育されて來た習慣上、學習時にも憶せず進歩發展する事は、非常に氣持のよい事で級の中心を歩む兒童も少くない。

(良 二)

3、比較的に學習態度が出来てゐる爲に、自分で學習内容を思考選擇して獨自學習に向ふ傾向がある。そして自分のみならず他の兒童に對しても指導的態度が濃厚である。

(良 一)

4、理解力が發達してゐる爲か學習に對する興味は他の兒童より多く持つてゐる。

(良 一)

5、興味ある題材に對しては他の兒童より興味を持つが題材によつては「もう知つてゐる」と云ふ感じが學習の興味を殺ぐ事がある。

(否 七)

6、學習に興味があり這入り易い點があるが飽き易く油斷する恐れがある。

(否 一)

7、既習事項が多い爲に知的に進んで居り心から覺え込む

意慾に乏しく之に對する興味も少ない。(否 一)  
一年後の實例及び意見

1、入學當初は餘りに教材が單純過ぎる爲に殆ど興味がなかつたが進むにつれ知識慾が増して學習に興味を覺えてきた。(良 四)

2、算術、讀方に興味をもつことから、或は新しく學ぶ毛筆の書方等に興味を持つことから、學科全體に、學校生活全體に新しい興味を持つ如くみうけられる。

3、二學期の中頃より特に旺盛なる。新しい事相當困難な事を理解し得たに云ふ其の氣持の喜びを感じてゐるらしい。(良 一)

4、自發的學習態度にまで誘導された。(良 一)

5、學習に對して興味を覺え教室内の活氣を促す原動力になつてゐる場合が多い。(良 一)

6、文字がすらく讀めるやうになつた爲か讀書力が旺盛になつた。(良 一)

#### 批判及び反省

保育より學習への變化から緊張するに共に物を覺えない、習ひ度の意慾が出て來て學習に對する興味を持つてゐる。七十八校の中四十一校で五二・五七%は學習の

興味あり實例にもある通りである。又興味は持つが持續しないとか、題材によつては「もう知つてゐる」などの態度を現はすものがあつたり興味のないもの、二十三校で二九・四九%ある。

これは幼稚園保育を受けたものと否とに關らず兒童の個性にのみよると思はれてゐる例もある。現在小學校の學級編成は大部分が混合組である。この場合幼稚園児と一般児との指導方法は自ら異なるべきでありこの點考慮されてゐる事と思ふが、指導法の如何による事の大を感じる。一年後の實例を見て、學習興味の少ない者の少いのは自然の心身の發達と、先生方によりよき御指導の賜であると思ふ。保育に携はる者として、よき學習態度の基礎をつくるやう努めねばならない。「もう知つてゐる」等のことは幼稚園時代にも見る事で兎角あり勝な事かもしれないが多くの實例あるを見ては大いに心せねばならぬ事である。

(二) 訓練方面に関する調査事項(調査表二)

事項	入學當初		一年後	
	回答 校数	百分比	回答 校数	百分比
(1) 後始末をよくする	五	六五・六	五	四四・八七
やりつばなし	一六	二〇・五二	七	八・九七
普通	二	二・五六	一九	二四・四三
回答なし	九	一一・四三	一七	二二・九
(2) 物を大切に 粗末にする	三	三九・七四	二八	三五・八九
普通	二四	三〇・七七	七	八・九七
回答なし	一〇	一二・八二	二四	三〇・七七
(3) 自分の事は自分でする 依頼心が強い	三三	一六・六六	一九	二四・三三
普通	三	四・七二	三	四・〇七
回答なし	二	二・五五	／	／
(4) 友達との調和 性あるもの	七	九・三二	五	七・九
少	二	二・五六	六	七・九
普通	二	二・五六	三	三・八五
回答なし	二	二・五六	三	三・八五

(5)			
衛生上よい習慣	がついてゐる	がついてゐない	普通
七二	九・〇三	四三	五・三
／	／	／	／
三	三・八五	七	八・九七

(二) 訓練方面に関する調査事項

(一) 後仕末

事項	入學當初		一年後	
	回答校数	百分比	回答校数	百分比
後始末をよくする	五	六五・六	五	四四・八七
やりつばなし	一六	二〇・五二	七	八・九七
普通	二	二・五六	一九	二四・四三
回答なし	九	一一・四三	一七	二二・九

入學當初の實例及び意見

- 1、幼稚園生活さいふ経験より得たる作業、其の他の訓練保育上の良習慣よりの賜によりて。(良三四)
- 2、家庭及び幼稚園にて手が届き過ぎ誰かしてくれたいふ心持があつて。(否二二)
- 3、社交性に富み自分の始末もせず他人の世話をやくも

の。 (否 三)

4、凡てに慣れすぎて最後の始末まで真面目にせぬ態度あり。 (否 一)

5、賞の有無私利の如何によりて行動する傾向あり。 (否 一)

一年後の實例及び意見

1、圖畫、書方、手工等の後始末、机上机中よく整頓し、依然よろし、腰掛の出入れ、ランドセルのボタン等よろし。 (良一八)

2、机中の整頓を缺く者多し。 (否 一)

3、常に注意を與へ賞めてやらねば出来ない兒童あり、それで居て相變らず他の世話をやく。 (否 一)

批判及び反省

良い實例は前記の理由に盡きて居る事は喜ばしい、大いに自重一層奮勵を要す。

悪い實例に對しては大いに考へさせられる、誤れる干渉、たゞ社交性に富めるため、人の世話やきをする事のみ先走る子供、又ルーズな幼稚園生活等によつて却つて子供を幼稚園保育を授けたために害つては居はせぬか、否の實例等は恐ろしい傾向で大いに反省を要する。幼

稚園日毎の生活、躰方に誤れる事なきや、勿論家庭の影響も甚大なれども。

(2)物を大切にす

事項	入學當初		一年後	
	回答校數	百分比	回答校數	百分比
物を大切にす	三	三〇・七	二六	三三・九
粗末にする	二四	三〇・七	七	八・九
普通	一〇	一二・三	二四	三〇・七
回答なし	三	一・六	一	一・三

入學當初の實例及び意見

1、幼稚園にて物の取扱ひに慣れて居るから、例へば色紙キビガラ等無駄をせず、利用する習慣より來ると思はれる。クレオン等小さくなつても大切に取扱ふ。

(良一九)

2、成績等大なる帖面に貼り保存す。 (良 六)

3、一般兒ミ變りなく特に顯著なるものなし。 (普 一)

(普 一)

4、個人の差に依りて特記出來ず。 (普 七)

5、比較的良家庭の兒童多ければ、豊富なる物質に恵ぐま



れる爲物を粗末にする。

(否 六)

一年後の實例及び意見

1、殊に事變下に於ける資源愛護から物を大切にすることを徹底させる關係上大いによろし。(良 九)

2、家庭の影響により變化なし。(普 五)

3、まだ〜距離あり。(否 一)

批判及び反省

平時に於ても子供ながら物を大切にす、無駄をしない  
さいふ事は、躰の上から特に注意して育てたい。まして  
事變下に於ける現今、廢物を如何に活用するかを知らず  
知らずの中に子供の心に培つて行く事が、就學してよ  
り、一般兒童と比較して、良好である云ふ事は、非常  
に喜ばしい。

家庭の環境に依り豊富なる物質に恵ぐまるるため、無駄  
を平氣でするさいふ事は大いに、誤れる事で幼稚園に於  
ても、一層又小學校に於ても家庭と連絡を密にして、訓  
練、矯正しなければならぬ事である。

(3)自分の事は自分でする

事項	入學當初		一年後	
	回答校數	百分比	回答校數	百分比
自分の事は自分でする	三	四・七	三	八・七
依頼心が強い	三	四・七	七	八・七
普通	三	二・六	／	／
回答なし	二	三・三	八	一〇・六

入學當初の實例及び意見

1、學用品の出し入れ、レインコート等の取り片づけの  
際、自分でする。(良 一七)

2、總ての方面に依頼心が強いが一つは幼稚園生活をして  
來て居るために、先生に慣れ過ぎて居る點もあると思  
ふ。(否 一〇)

3、家庭教育の一大缺陷であつて、幼稚園は、これを、た  
ゞき破る事が出來ぬらしい。又保姆も突張れない。強  
い大國民を作る爲には、三つ子の魂からたゞきなほす  
事を痛感する。(否 一)

4、眞の教育に、理解薄き父兄が、兒童の環境を非教育的  
ならしめる例へば送り迎へ、下駄箱の履きかへ等。

(否 一)

一年後の實例及び意見

1、創作的、發展的、自律的、全科學習に依つて、自律的  
に行動する様になつた。  
(良三九)

2、入學當初は、大部分の者が保護者に送り迎へせられ  
て、通學して居たのに對し、現在は特別の一、二の者  
を除いては、殆んど一人で通ふ。身の廻りの事に付い  
ても人に手傳つて貰ふ事を恥しがる。(良六)

3、依頼心は徐々になくなりつゝあり、進んで他人の世話  
までする様になつた。  
(良五)

4、机中の整理は尙留意する餘地あり。(否一)

5、三學期になつても、送り迎へをなす家庭あり、又教師  
への進言を他兒にして貰ふ兒重あり。(否一)

6、未だに依頼心強し。(否一)

批判及び反省

幼稚園では此問題に就いては、相當の注意を拂つて、保  
育した筈であるのに解答の結果は、自治心の養はれて居  
るものゝ、反對の依頼心の強いものゝが殆ど同様な數字  
に現はれたり。回答校數七十八の中、良い回答は三十八  
校(四八・七二%)で、悪いのが三十五(四四・八七%)なり、  
而も揚げられた實例に於てよい實例はほんの僅かで、悪

い實例が澤山に明記されたのは依頼心の強いと言ふ事が  
顯著な事實らしい。これは、幼稚園に入る者は餘裕の有  
る家庭、又其幼稚園のある場所によつては有産階級に屬  
する家庭、従つて召使ひ等も多數居る家の子供もあるの  
で、確かに家庭の影響もあらうが、幼稚園で保育した以  
上は、保育者の責任として、吾々大いに、考へなければ  
ならない。これからの日本を脊負つて立つ大國民を作る  
爲には、三つ子の魂即ち幼稚園時代から立派な自治心を  
養つて行かなければならない。此點に就いての實例3の  
如く保育者は繰り返して讀み且味ふ必要ありと思ふ。然し  
一年後に於ても尙依頼心の強いものは僅かな數になり、  
非常な進歩をして居るのは、小學校の先生方の並々なら  
ぬ御指導の賜ミ感謝す。

(4) 友達との調和性

事項	入學當初		一年後	
	回答校數	百分比	回答校數	百分比
友達との調和性あるもの	七	六・三	五	七・九
少ない	二	二・五	六	七・六
普通	二	二・五	三	三・八
回答なし	二	二・五	三	三・八

入學當初の實例及び意見

1、友達に對する調和性は餘程優れて居る所謂社交性にたけて居る。  
(良六六)

2、友達に對し調和性は豊である。殊に男女の性別に就いての不調和がないのは嬉しい。この親しみが小學校の何年位迄續くか興味ある問題である。  
(良一一)

3、社交性は相當訓練されて居るが、言ひつけ口おせつかい等の傾向あり。  
(否五)

4、幼稚園出身のみ黨派をつくり優越感獨りよがりの處も見える。  
(否三)

5、初は親切であるが人の前を飾る様な風が見える。  
(否一一)

一年後の實例及び意見

1、兒童にもよるが大體に於て社交性に富み仲よく他の兒童と調和してゐる。  
(良五二)

2、個人的より一層團體的となり一般兒童と共に進境を見せてゐる。  
(良四)

3、調和性あるが世話やき、つげ口をするものあり。  
(良三)

4、喧嘩が多くなつた、但し其半面に友達の世話をしすぎ

る傾向あり。

5、稍々横暴になるが如き傾あり。  
(否一一)

6、同級兒童の調和を缺くやうになつた感あり。さちらか云へば幼稚園へ行かなかつた子供で、學習其他が衆に抜出て居る様に思はれ特に女兒の學級に於て多し。  
(否一一)

7、往々にして意地悪者あり、排他性は餘程強い。  
(否一一)

批判及び反省

この問題は回答數七十八の中七十二(九二・三二%)まで調和性があつてよいと言ふのであるが、實例を讀むと調和性があつてよいが其の半面にはおせつかい、言ひつけ口、等々保育者をして考へさせられる様な事が相當に有る。そして前の問題(自分の事は自分でする)の一年後の成績が非常な進歩を見せて居るのに反して、此の問題の一年後の回答に喧嘩が多くなつた。排他性が強い。顯しい實例としては6の回答の如く「幼稚園を経ない兒童で學習其の他の成績がよくなつたが爲に調和性を缺く」云ふ様な事は自分が幼稚園を経た云ふ事に優越感を持ち過ぎて居た爲ではあるまいか又一方から云へばだん

だん競争心も出て来るし、友達同志の個性もはつきり自覚して来るのでこう云ふ事もあるかも知れない。喧嘩が多くなる云ふ事はだん／＼學校に馴れて来る遊びの範圍が廣くなるのに反して、先生の視野がせまい（云ひかへれば先生の看護がさぶかない）其他種々の點で喧嘩も多くなるのであらう。此の點は幼稚園の保育者も反省し考へなくてはならないがそう云ふ結果を見た學校の先生方も御研究を願ふ次第である。

(5) 衛生上の習慣

事項	入學當初		一年後	
	回答校數	百分比	回答校數	百分比
衛生上よい習慣がついてゐる	七	九・〇二	四三	五五・二三
よい習慣がついてゐない	四	五・二三	四	五・二三
普通	／	／	二四	三〇・七七
どちらとも判別つけがたし	三	三・八五	七	八・六七

入學當初の實例及び意見

1、食事の時手を洗ふ習慣、鼻をかむ習慣がよく出来て居るので他兒童の模範ミなる事が多かつた。傷をした場合等にもそのまゝにして置かず直に衛生室へ行つて治

療を受ける云ふ様に幼稚園時代の良習慣が他兒に及ぼす如き指導的役目もしてゐる。  
(良一三)

2、幼稚園に於て充分訓練されて居る爲常に頭髮の手入れも行届いて居る齒を磨く、手拭鼻紙は忘れない便所の手洗等も話をせずとも出来る位習慣づけられて大變よろしい事と思ふ。  
(良一七)

3、お辨當の御飯菜等は全部残さず食べ食事前後の手洗ひ含嗽をする等よい習慣のつけられて居る事は如何なる秩序にも早くなじみ感化より實行へし樂に進む事が出来るので大變幸福である。  
(良二二)

4、(一)齒をよく磨く。(二)しもやけにかゝる者が少い。(三)偏食者が少い。(四)間食をしない。(五)早寝早起である。  
(良一一)

5、割合に手足もきれい、手拭鼻紙等も持つて来る。幼稚園へ入れる位の親の生活状態がかくあらしめたのであらう。  
(良一一)

6、目立つて良い方です、幼稚園から來た兒童は清潔な感じの兒童多し。  
(良一一)

7、衛生上よい習慣がついてゐるのは敬服して居る誠によい。  
(良一一)

8、齒を磨く手を洗ふ等の事や自分の體力を自覺し得る等の長所がある併し一度注意された事を守る點では保育しない兒童の方が純真正直である。(良 普一)

9、衛生上よい習慣がついて居る點は確に幼稚園の努力を認める。却つて小學校の方が放漫になるのではあるまいか。(良 二)

一年後の實例及び意見

1、手を洗ふ事、口をすゝぐ事、ハンカチを持つ事自分から行ふ。(良 一)

2、辨當の日になつて食前食後に手洗ひなす等各種の習慣が現在もよく持續してゐる。(良 一)

3、向上しつゝあり。(良 一)

4、衛生に對する習慣より見て幼少の頃より習慣づけられた良い諸注意は如何に有がたいものであるかをしじみ感じさせられる。(良 一)

5、全體的に智情意の發達と並行して順調に進歩の跡が窺はれる。(良 一)

6、衛生上の良習慣は一般には亂れて参りますが、夫でも家庭出身者に比して極めて良好である。(良 一)

7、一般兒も習慣が出来たから同じ。(普 二)

8、かへつて一年生になつてから今から考へて見るに壞れ

はしないかを心配してゐます衛生検査や齒の清掃手洗等は出来るだけ注意してゐます。(否 一)

9、訓導の指導に關する點が多いので一年後の今日では特に差別は認められない。(普 一)

10、一年擔任の態度にもよるが幼稚園程手が届かないで習慣が崩れるのも認める。(否 一)

批判及び反省

右の如く幼稚園を経たる兒童の入學當初に於ける衛生上の良習慣がついて居る者は特種な者を除く他は一般に良好にて回答數七十八中七十一を示して居る。數々の實例に依つても知られる如く、幼稚園時代についた、良習慣が一年後まで崩れる事なく、他兒の模範になつて居る事は實に喜ばしい。たゞ入學後擔任訓導の注意の届かぬ處から次第に崩れたさいふ實例もかなりある様だが又一面他兒が幼稚園兒を見習つて習慣づけられ、幼稚園兒も他兒の差を生じなくなる事も考へられる。又或る學校で言はれる如く幼稚園生活中の良習慣を取り入れられる學校が多い事も感じられ、保育者の立場にある者は心して、此方面の躰方、保健衛生等に對して、尙一層の考慮を拂ひ、心身共に健全なる第二國民の芽を培ふ様、心掛けねばならぬと思ふ。(以下次號)

をりがみ  
童話

# お月様とたぬき

内山 憲 尙

折紙童話と申しますのは、折紙を利用いたしましてお話をするのであります。保育室で是非お試し下さい、幼児たちがどんなによろこぶか、わかりません。

## 出るもの

たぬき 折紙のたぬき大小色もさりざり七つばかり。小さいのは一寸位から大きいのは七、八寸位のもの。

お月様 畫用紙を丸く切つて、目鼻口を描く。  
用意 ボール紙の三角形のもの、上を少し平らにして置く。保育室の中央に、このお山を立て置く。

(一番小さいたぬきを取り出して左側から、山へ登りながら)  
「今晚は、お月夜だ、お山の上で、腹鼓でも打つて遊びませう。(山の上へ登る)まだお月様はお出まじにならないのかな、腹鼓でも打つて待つてるませうさ、ボンポコボン、ボンポコボン(左右にリズムに合はせて動かす)

(山の右側から次に大きい②の狸を出して)

「今晚は、お月夜だ、お山の上で遊びませう」

(登つて来る小狸を見て)

「何んだい、君みたいなお山の上で遊びませう。こゝは僕の遊ぶさ

こだよ、お歸りヨウ」

「そう、それじゃ、さようなら」(元來た左側の方へ下りてしまふ)

しまふ)

「ごんなもんだいボンポコボン、ボンポコボン」(左右に動かす)(次に大きい狸の③左側から出て来る)

「今晚はお月夜だ、お山の上で遊びませう」

(登つて来る、狸②を見て)

「何んだい、君みたいなお山の上で遊びませう。こゝは僕の遊ぶさ

こだよ、お歸りヨウ」

「そう、それじゃ、さようなら」(元來た右側の方へ下りて行

つて仕舞ふ)

つて仕舞ふ)

「へん、ごんなもんだい、ボンポコボン、ボンポコボン」(次に大きい狸の④右から出て来る)

(次に大きい狸の④右から出て来る)

「今晚は、お月夜だ、お山の上で遊びませう」

(登つて来る狸③を見て)

「なんだい、君みたいな小さいのは、こゝは僕の遊ぶところだよ、お歸りヨウー」

「そう、それじゃ、さようなら」(元來た左側の方へ歸つて行く)

「みんなもんじや、ボンボコボン、ボンボコボン」

(次に大きい狸⑤左の方から出て来る)

「今晚は、お月夜だ、お山の上で遊びませう」

(登つて来る狸④を見て)

「なんだい、君みたいな小さいのは、こゝは僕の遊ぶところだよ、お歸りヨウー」

「そう、それじゃ、さようなら」(元來た右の方へ歸つて行く)

「へへん、みんなもんだい、ボンボコボン、ボンボコボン」

(右の方から狸⑥出て来る)

「今晚はお月夜だ、お山の上で遊びませう」

(登つて来る、狸⑤を見て)

「なんだい、君みたいな小さいのは、こゝは僕の遊ぶところだよ、お歸りヨウー」

「そう、それじゃ、さようなら」(元來た左の方へ入つて行く)

「へん、みんなもんじや、ボンボコボン、ボンボコボン」

(左の方から狸⑦が出て来る)

「今晚は、お月夜だ、お山の上で遊びませう」  
(登つて来る狸⑥を見て)

「なんだい、君みたいな小さいのは、こゝは僕の遊ぶところだよ、お歸りヨウー」

「そう、それじゃ、さようなら」(元來た右の方へ歸つて行く)

「へへん、みんなもんだい、ボンボコボンのボン、ボンボコボンのボン」

一番大きい狸が、大るばりで腹鼓をたたいてるますま、お月様がニコニコしながら上つておいでになりました。

(靜かに月を出す)

「あ、お月様だ、お月様、今晚は……」

「あゝ今晚は……」

「今晚は、私を遊んで下さいませんか」

「お前の様な大きいのは誰にでも遊べるが小さいのは、可憐さうだ、小さいものを可愛がつてやらなければならぬいよ、今晚は、私は一番小さいのを遊んであげることにしませう」

「云つて、お月様は、黒い雲の中へスーッと入つてお仕舞ひになりました。(後の方へかくして)」

(右の方から狸⑥が出て来る)

「お月様が、小さい子を遊ぶつておつしやつただらう」

「さうだ、君の方が小さいね、ではさようなら」(左の方へ入る)

「お月様ご遊ばし、ボンボコボン」

(左の方から狸⑤が出て来る)

「君、お月さまが、小さい子ご遊ばつておつしやつただらう」

「さうだ、君の方が小さいね、では、さようなら」(右の方へ入る)

「お月様ご遊ばし、ボンボコボン」

(右の方から狸④が出て来る)

「お月様が、小さい子ご遊ばつておつしやつただらう」

「ア、君の方が小さいネ、では、さようなら」(左の方へ入る)

「お月様ご遊ばし、ボンボコボンのボン」

(左の方から狸③が出て来る)

「君、お月様が、小さい子ご遊ばつて、おつしやつただらう」

「ア、君の方が小さいネ、では、さようなら」(右の方へ入る)

「お月様ご遊ばし、ア、ボンボコボン」

(右から狸②登つて来る)

「お月様が、小さい子ご遊ばつておつしやつただらう」

「ア、さうだ、君の方が小さいネ、では、さようなら」(左の方へ入る)

「お月様ご遊ばし、ボンボコボン」

(一番小さい。左から登つて来る)

「お月様が、小さい子ご遊ばつておつしやつただせう」

「ア、君は一番小さいネ、では、さようなら」(右の方へ下りて行く)

(お月様、靜かに登る)

「さあ、今晩は、一緒に遊んであげませう」

「お月様、ありがたう、うれしいな、僕、おごりますよ、  
ボン ボン ボン ボン ボン ボン

(證城寺の狸囃の節で)

夜通しお月様ご踊つて遊びました。

◇狸は十正位にしてやるのが一番面白いです。形、色等に特色を持たせること。

◇反覆だけに興味があるのですから、リズム、反覆は丹念に正確にやつて下さいます様願ひます。

◇小さい狸の聲は可愛らしく、次第に大きくして、大きい狸の聲は太い聲を使用していたとくと効果がよほぢぢがつて來ます。



幼児に読んで  
聞かせるお話

## 仲よし子兔さんのお話

武 田 雪 夫

さあ、これは、仲よし子兔さんのお話ですよ。

あるところに、お母さん兔さ、子兔さんがいました。子

兔さんは、一ぴき、二ひき、三ひき、四ひき、五ひき、みんなで五ひきおりました。みんな赤いお目々をした、まつ白な、かはいかはい子兔さんです。

まあまあ、今日は、よいお天気です。母さん兔はお出かけです。

お母さんは、五ひきの子兔さんを、大きな乳母車の中へ、一しよに入れました。

さあさあ、町の市場へお買物に行きませう。

町へ行くには、ひろいく野原を通るのです。

野原には、きれいなお花が咲いてをりました。赤いお花が、一めんに咲いてをりました。

一ぴきの子兔さんは、その赤いお花を見るさ、すぐに大きな聲で言ひました。

「お母さん、あの赤いお花を、さつて。」  
するさ、ほかの小兔さんも、みんな、

「あのお花をさつて。」あのお花をさつて。  
さ大さわぎです。

まあまあ、仲よし子兔さん。

お母さんは、すぐに赤いお花をさりました。一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、みんなでも五つ、赤いお花をさりました。

子兔さんは、一つづつ、赤いお花を持つてにここに、ここに。まあまあ、ほんさに仲よし子兔さん。

兔のお母さんは、乳母車をガラガラおして、町の中へ入つて行きますさ、むかふの力で、誰かゴム風船を賣つてをりました。

一ぴきの子兔さんは、それを見つけるさ、すぐに、大きな聲で言ひました。

「お母さん、ゴム風船を買つてよ。」

さつするさ、ほかの子兔さんも、みんな

「風船を買つて。」風船を買つて。さ大さわぎです。  
まあまあ、仲よし子兔さん。

風船を賣つてゐたのは、豚の小母さんでした。お母さん  
兎は、

「豚の小母さん、風船を下さいな。」と言ひました。  
するさ豚の小母さんは、

「はいはい、おいくつ上げませうか。」と言ひました。

お母さん兎は、

「あの、五つ下さいな。」

さう言つて、風船を五つ買ひました。子兎さんは一つづ  
つ風船を持つてにここに、ここに。

まあまあ、ほんまに仲よし子兎さん。

お母さん兎は、犬のお店へ行つて、お買物をしました。

「まあまあ、それを十銭下さいな。それから、これも十銭  
下さいな。」

それから、あちらこちらのお店へ行つて、色々なお買物  
を、さつさりしました。

さあ、それではお家へ歸りませう。

お母さん兎は、大いそぎです。五ひきの子兎さんさ、お  
買物で一ぱいになつた乳母車を、きんさんおして行きまし  
た。

道のまん中に、大きな石がありました。でもお母さん兎  
は、少しも氣が付きません。

あれ、乳母車の輪が、その石の上に、のり上げました。

ゴットン!

乳母車が、ゆれた拍子に、子兎さんたちは、手に持つて  
ゐた風船を、ぱっぴしよに、はなしてしまひました。

そして、みんなしよに、

「やあ、風船が、ごんだあ。」風船が、ごんだあ。」と、大  
きな聲で泣き出してしまひました。

するさ、その聲を聞いて、そこへ飛んで來たのは、ちや  
うご五羽の鳩さんたちでありました。

鳩さんたちは、

「ごうしたのです。ああ、さうですか。大丈夫ですよ。

すぐに、さつて來て上げますよ。」

さう言つて、バタバタバタと、大いそぎでさび立つて行  
きました。

風船は、風に吹かれて、ごんごん高く高く、空へ上つて  
行きます。

さあ、鳩さんたちは、うまく風船に追ひつけるでせう  
か。バタバタ、バタバタ、風船を追ひかけて、ずんずん飛  
んで行きます。

しばらくするさ、バタバタバタと、鳩さんたちは、元氣  
な羽ばたきをさせながら、かへつて來ました。

ああ、鳩さんたちは、みんな一つづつ、風船の糸を、お  
口にくはへてゐます。

そして、鳩さんたちは、

「はい、こんどは、しつかり持つていらつしやいよ。」

「お手手を、はなしてはだめですよ。」

さう言つて、風船を一つづつ、小兎さんの手に持たせてくれました。

お母さん兎は、

「鳩さん、さうも、ほんごにありがたう。」と、お禮を言ひました。

すると、小兎さんたちは、一つづつのお手々に風船を持つて、にこにこしながら、

「鳩さん、さうも、ありがたう。」

「さうも、鳩さん、ありがたう。」

さう言つて、お禮を言ひました。

まあまあ、ほんごに仲よし子兎さん。そして、ほんごにお利口な子兎さんです。

では、仲よし子兎さんのお話は、これでおしまひです。

× × ×

(六七頁より)

そして糊の乾かない中に、卵の殻の適當な色のついたのを其の上のせ、指でつぶして付けます。卵の殻がかけるので餘分なのが出來ますから、それは箱をはたいてはらひ落します。糊の付いた所にだけ、卵の殻で繪が出來ます。箱の上に紐をつけて下げます。卵の殻の艶ミ、モザイク式の面白さがあつて、中々興味ある物になります。

(八六頁より)

この人形の整列する有様を見せたかつたので無理にこの場面をつけ加へた形なのです。無くともいゝと思ひます。

#### 第五場

戦場の場面を音で現はして見ました。悽絶な場面を見せることなく、見てゐていゝものさうでした。

#### 第六場

こゝはしんみりした場面です。子供の様子によつては、しんみりとして貰へない場合もあります。情味豊かな懐古話をよく聞いて貰ひ度いと思ひます。それには、この場面が冗漫に過ぎぬやうに注意することが大事です。

# 子供達の幼稚園時代の健康状態

久 米 京 子

子供の體重が、一二週間續けて減つて來る様な時は、其の儘で置き、病氣になる事が多い様です。常に子供と生活と共にしてゐる母親には、體重の減る原因が、氣候不順の爲ださか、或ひは食物が不適當だつた爲ださか、又は精神的な疲労の爲ださか、大抵見當がつく様です。ですから、まめに體重を測つてみますと、體重の減つて來る傾向が早く判つて、事前に事を防ぐ事も出來る様に思ひます。

以前はそれ程頻繁にも測つて居ませんでした。最近では、週末には必ず子供達の體重を測つてみて、これをグラフに記入する事にしてゐます。子供はまる二歳違ひの兄妹でして、以前に測つたものや、最近のを合せた體重表と、日記に記入された罹病の記録とを併せて見渡して見ると、何かと思ひ當る節がある様ですから、二三の感想を書いて見たいと思ひます。

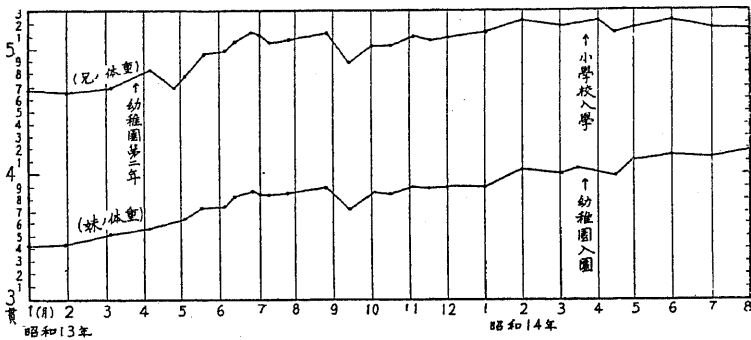
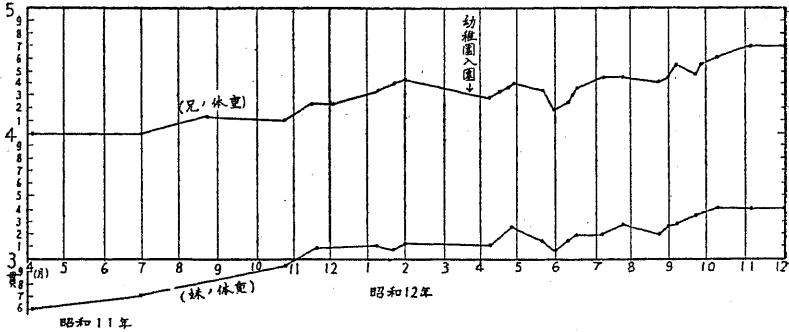
第一表は、兄の方の幼稚園時代を中心にして、その前後三年餘りの、兄妹の體重表です。

上の線は兄の方で、下の方は妹のを現はしてゐます。

尙此の曲線のうち、太い實線になつてゐる部分が、それぞれ幼稚園と小學校に在る時代を示してゐます。此の表を見て第一に氣付く事は、二人共例外なく、晩夏の候に體重が減つてゐるさいふ事です。よく云はれてゐる様に夏のむしろ暑さは、食慾をにぶらせ、よほご體にこたへるものらしく思はれます。昭和十一年の夏は東京で過し、翌十二年の夏は新潟方面の海に三週間程遊び、十三年には一月程、三崎に近い海で暮しましたが、體重の減少は何の夏にも避ける事は出来ませんでした。最初の海岸生活は、滞在日數も少く、土地も餘り適當で無かつたので、轉地中の體重は却つて減つて居ります。翌年は土地も良く、滞在期間も一ヶ月にしましたせいか、二人とも此の期間に體重は増したのです。併し、歸京後早速食慾の不振を起し、殆んど病氣もしないのに、僅かの間につきり瘦せてしまひました。此の時程はつきり、都會生活の慘めさを感じた事はありませんでした。

次に目立つ事は、幼稚園や小學校に初めて入つた折や、

第一表



第二表

		體重增加	罹病種目	回数	病臥日數
昭和十一年	兄	450匁	消化不良 風邪	1 1	1 5 } 6
	妹	510匁	0	0	0
昭和十二年 (兄幼稚園 第一年)	兄	260匁	麻疹 風邪	1 1 3	12 10 41 } 63
	妹	420匁	麻疹 風邪	1 1 4	6 10 39 } 55
昭和十三年 (兄幼稚園 第二年)	兄	510匁	百日咳 消化不良 日射 風邪	1 2 2 2	9 2 2 23 } 36
	妹	500匁	百日咳 消化不良 風邪	1 1 3	15 1 16 } 32

又は新學年の始めの様な時期には、何時も幾分體重が減つてゐるさいふ事です。兄の方は全く急に幼稚園に入る様になつたので、順應する迄に骨が折れた様なので、妹の場合には、約一ヶ年程兄の送り迎へに同伴して居りました。それで規則的に外出する事にも馴れ、幼稚園にもなじんで居りましたのに、矢張り、體重の減少は避ける事が出来ませんでした。一段階上の生活に入るのは、子供

乍らに、餘程精神の緊張を必要とするものらしく見へます。家の者達は、此の時期には、子供の心や身體を、大切にいたはり、保護してやらなければならぬ痛感いたしました。

第二表は、過去三年間に於ける、毎年の體重増加率、罹つた病氣の種類と回数及び床に就いた日數を示した表です。これを見ますと、兄がはじめて入園した年、即ち、昭和十二年の體重増加率は目立つて少く、前年の四百五十匁に比べて、僅かに二百六十匁であります。病臥日數も多く、前年の六日に對して、六十三日も寢て居ます。就中、風邪で寢た日が殊に多く、風邪は大抵の場合、氣管枝喘息にまで進んで居ります。嚴冬にも規則的に外出する様になつて、今までの呼吸器の鍛鍊不足が、曝露されて、こんなことになつたのだと思はれます。もつと小さい時から、呼吸器の鍛鍊をしたらばよかつたのかとも思ひ、又此の體質の子供では、身體の事はかりから考へたら、或ひは、幼稚園に通はず事が無理だつたのかしらんとも、考へて居ります。

最後に考へられます事は、幼稚園に於ける病氣の傳染の問題です。第二表を見れば判る様に、兄が入園してから、ハシカ、水痘、百日咳を、順次に經過して居ります。交友の範圍が急に廣くなり、外部との接觸が急に激しくなつた

事にて、傳染の経路は勿論はつきり致しませんが、其の都度これを妹にも傳染して居ります。風邪等もうつるものごみへ、兄の始めて入園した年は、妹の方も病臥日數が、前年の零日から、一躍五十五日に上つて居ます。そして此の年には體重の増加率も思はしくありません。第一表のグラフを見ますと、兄が始めて入園した學年始めには、妹の生活状態は少しも變つてゐないのに、兄と同様體重の低下を示して居ります。これはハシカに罹つた爲であります。さうせかゝる病氣なら、小學校に上る前にかゝつた方がよい等と考へる母親もある様ですが、さうもこれは、少々亂暴に思はれますので、母親達の、お互ひの注意深さ遠慮深さによつて、お互ひの子供の幸福を増進させてゆき度いものだと思ひます。望蜀の感があるかも知れませんが、何と云つても母親は素人であり、且は又、親の慾目といふ事も有勝ちなものですから、せめて傳染病の最も繁しい幼稚園時代だけでも、毎朝毎朝登園する子供に對して専門醫が診断を下すといふ様な事に依つて、傳染病を幼稚園から遮斷する方法でもつけばよいが等とも考へられます。

# 小さな試み

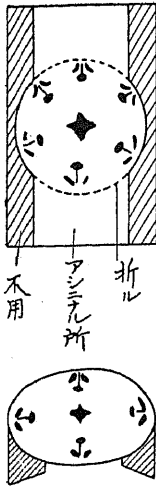
麴町區番町幼稚園 徳久智江子

國を擧げて聖戰の今日、物資も統制され、したがつて保育用品、手技材料等も、品不足をつげて参りましたのも亦必然の事と存じます。

然し、それかと言つて、日々の保育まで制限されて品不足を來す様の事あつては、銃後の國民として誠に申わけないに存じます。

そこで制限された品物で、然もより以上立派な充實した保育を致しますにつきましては、私共も大いに研究致さねばならないと存じます。

## ◎お客様遊びのセット

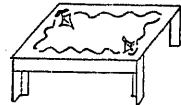
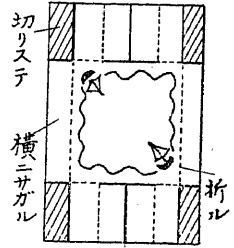
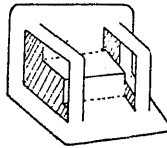
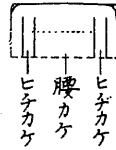
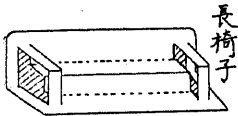
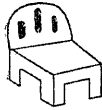
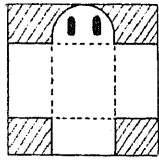


テーブル(端書一枚、なるべく厚い物)  
A丸テーブル

クレオンを比較的濃く塗らせたり、又は適當に模様を書かせます。

手技材料の中での大きな役割を持つて居ります畫用紙、これの代用として古端書を用ひて見ましたので其の中の一、二をこゝに記してみました。ごこの家庭にも澤山たまり、却つて始末に困る品ですから、幼児に二三枚づゝ持つて來て貰ひます事も出來ますし、相當豊富に使ふ事が出來ます。

○なるべく簡單で、幼児一人で先生の手を借りずに出來る物。  
こいふ事を第一の條件として作つた簡単な物で御座います。



足ハニ重ニシテ  
ノリヲツケテモ  
ヨロシイ

B 角テーブル

これも丸のと同様に唯折り曲げるだけでもよろしいが、少し足の所を變へて左の様にして見ました。

A ひぢ掛椅子

椅子(端書半分始にクレオンで色を塗る)

端書を半分に切り、更にそれを半分に折つて圖の様に缺を入れ、開きます。一番外側の兩端二本は、下の支へになりますから其のまま。中の二本はヒヂカケになりますから切目一ばいに折りをつけて、中側の方に折り、腰掛の部分は點線の折目の所で曲げて圖の様にします。

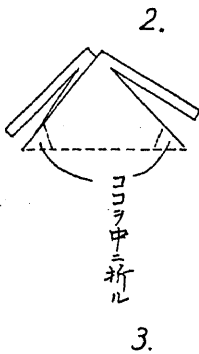
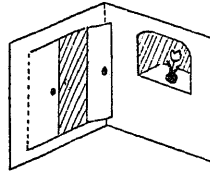
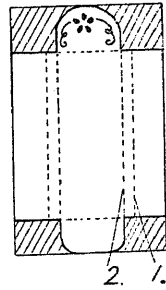
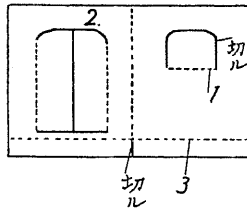
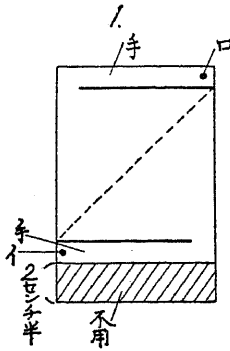
B 腰掛け(端書2(3)位)

足の所に切込みを入れてもよろしい。背の部分は二つに折つて飾り穴を開けます。

C 長椅子(端書一枚)

Aのひぢ掛椅子と同様の要領で作ります。



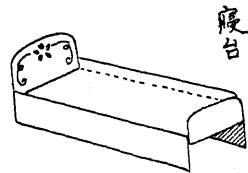


◎ 手提げ(端書一枚)

端書一枚の端を二握半程切り落し、両端に手になる部分を互ひ違に缺を入れ後を三角に折ります。  
そして2の様になりましたら両端の角を少しづつ中に折り

入口(端書一枚)

- 1、は窓になるので切目を入れたら外に折つて花の臺にし
- 2、はドアになるので両方へ開いて折ります。
- 3、の線は真中の切目を界にして左右の後に折り、支へにします。

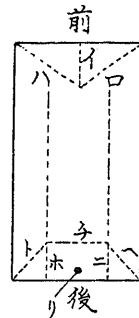


寝臺(端書一枚)

- 1、の點線を外に折り、2、の點線を中側に折つて、寝臺の線にします。
- これでセットが大體出来上りましたので端書の白い部分を用ひて人を切り、色紙でクッションや御布團を作つたりして遊びます。尙其の時に、お人形のお家の片隅に、左の様な入口をつけましたら、「コンニチワ」と言ひながらドアを開けて這入つたりして、一層遊びに興味が出た様です。

込み、糸又はセロハンの紐(買物を結んで来る)で留めます。

手はねじる様にしてイ、ミロ、を糊でつけるか、又は同様に紐で止めます。手をつけ合せる前に、クレオンで適當に模様をつける可可愛いくなります。



◎お舟(端書2/3位)

一枚の端書の縦を二種位切り落し、全體に濃く、白い所の残らない様に、クレオンを塗ります。

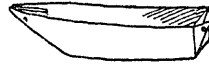
それから圖の様に折り、糸で留めて水に浮せます。クレオンの爲に水が浸み込みます。スー／＼と氣持よく流れて、幼児を喜ばせます。

イ、は中側に折る。

ロ、ハ、は外側に折り、兩角を合せて糸で留めます。

ニ、ホ、は中側に。

へ、ト、チ、は外側に折り、へ、ミト、の角をり、の外側に合せて糸で留めます。



◎卵モザイクの壁掛け

卵の殻を手技に應用致します事は、いつか此の紙上で一寸申上げましたが、それを唯紙に貼るのではなく壁掛に致しました所、大變立派に出来ました。幼児も大變喜びますから、一度お試し下さい。

材料 卵の殻少々、繪の具(安い物で結構)、ボールの空箱の蓋。

先づ初めに、卵の殻を赤や黄、緑、茶等、色々の色に幼児と一緒に染めます。直ぐに乾きます。

其の間にボールの空箱の蓋の中側へ墨を塗ります(墨でなく繪の具でもよろしいが墨が一番引立ちます)。墨が乾きましたら糊でそこへ好きな物を書きます。つまり指で糊をなすりながら、何かの形を作ります。(六〇頁へ)

# 幼稚園の事局的注意事項の二點

紙 上 回 答

(順序不同)

園を舉げて、體位と、物資との問題の再認識を要望せられてゐる今日、全國各幼稚園に於かれても、きつこの二點に深甚の御注意がなされて居ることゝ存じます。そこで、今夏本會主催保育講習會にお出での全國の幼稚園の先生方に、次の二つに就いて、如何に、如何なる方法で御實行になつて居られるかを伺ひました。これは、この時御回答いただいたものでございます。お忙しい中をお暑さにもかゝはらず御執筆下さいました諸先生方に深く感謝申し上げます。次第でございます。(編輯部)

(一) 幼児の健康の保全及び増進のためどういふことを御實行になつてゐませうか。  
貴園の實際について御明示下さい。

(二) 時局対策の上から幼稚園保育材料の節約につき貴園で實際行つていらつしやる處をお知らせ下さい。  
出来ればその方法についても御示し下さい。

○ 京 都 平 安 幼 稚 園 副 島 ハ マ

(一) 特別申し上げられる様な事も無く、又平常時からなして居る事ですが、

1、天氣のよい時は園庭で、雨天の際は遊戯室でラヂオ體操又は朝會體操(大阪市保育會編)を致します。

2、園庭が狭いので極く近い御所等に散歩に出懸け、思ひ切り

園児の自由遊びをさせる様、努力して居ます。

3、夏季は、母の會の際指導してお母様方手製のサンスーツの着用を奨励して居ます。園児は幼稚園に來たら直ぐ、上着をぬいで、サンスーツ一枚になり、水遊びでもはしりつこでも云ふ楽しい生活が初まります。

4、一年を通じて一日の中に休息の時間と云ふのはいりません。家から小さな薄い蒲團を持つて來させ、潑刺とした自由

遊びの後カーテンをひいた薄暗い部屋で、静かなレコードと共に休息するのは、又尤も大切な健康教育と思つて居ます。

(二)これも、平常から行つて居る事で、又特別珍らしい事でも無いと思ひますが、私共の方ではよく空箱を應用した自由製作を致します。各自の家庭より持つて参る者もあり又學校の購買部より空箱を頂いて置き、其の外の場合にも、色々と用ひて重寶して居ります。こうした材料は、一率に揃つた新らしい材料よりも却つて興味の深い製作品と、子供の製作慾を、刺戟し有效である事を信じます。

○

### 秋田縣女子師範附屬幼稚園 石澤ふみ 櫻庭咲子

(一)年に春、秋の二度園醫が来て身體検査を致します。

一ヶ月に一度主に月の始めに體格検査(身長、體重)を行ひ、保護者に通知致します。

眼の悪い子供に(結膜炎、トラホーム)は、一日に一時間、時間を決めて眼科の看護婦が来て洗眼してくれまます。

日常生活では、一週一度お天氣の具合を見て、必ず附近の緑樹の茂る公園へ参る事にして居ります。お辨當と水筒を持つて戶外保育を致します。

これは昨年四月からずつと續けましたが、はつきりした事は申上げられませんが風邪を引く兒が少くなり、足が丈夫になつた事を感じて居ります。

(二)子供等が不自由なしないやうにはして居りますが、紙類の値

の上りましたのに就き工夫して居ります。

どんな紙でも餘白のあるもの、畫用紙のきれつげし等、一つのひき出しに入れて、何かある都度出して丁度間に合ふものでしたら、用ひるやうにさせます。「ヒカウキとはし」は雨の日には良くやりますので、廣告等用意して置きます。「古はがきの利用」につき、いろ／＼考へ、これを利用したものを工夫して、車、舟等致しました。キャラメル、タバコの空箱も時々集め、ためて置き時々出して使つてます。電車(パット)、汽車、動物人形、時計等致しました。今も致して居ります。立體的な良いものが出来るやうです。

「封筒の利用」を今考へて居りますが、小さな飛行船、袋(模様をつけて)、「切紙」の臺紙等にして使つて居ります。

大型のハトロン紙では、色がきたないのであまり多く使はれませんが、何か良い方法が御座いましたらお教へ下さいませ。

お菓子の箱、ボール箱等も時々集め、ボール紙の代用として用ひたり或ひはそのまゝ用ひるやうにして居りますが、仲々思ふ所まで参りません。

糊等は、作つて用ひて居りますが、防腐劑を入れなくても持ちが悪く困つて居ります。これもお教へ下さいませ。

○

大連市白金町二二 南沙河口幼稚園 大河原春子

(一)幼兒の健康の爲に、お畫のお辨當がすみましたら出来るだけ箇みがきを奨めております。

其の結果、随分と、保護者の方から、感謝おの言葉をいたゞいております。

### 多摩幼稚園 關 球 子

- (一)特別に取り立て、申上る程のことはなく、どちらでも實行なさつて居ることゝ思ひますが、
- 1、四季を通じて、必ずラヂオ體操をやつて居る。
  - 2、雨天、冬季を除いた以外の日、午前中、一回運動場の芝生を洗足で「かけ足」をさせる(三分位)
  - 3、晝食に榮養食給食(東京府衛生課の指導に依る)(特殊の幼児を除いた外の児は體重も増し、筋肉しまつてきつゝあり)
- (二)材料の節約も程度を越しては保育に影響を及ぼしてはと、種々考へてごく平凡ではあるが
- 1、摺紙―折つたり、切つたりの練習用として、包装紙、廣告ビラ(新聞雜誌等の折込み其の他)、印刷物の餘分の紙等を摺紙大に切り使用、出來上つた物へは、クレオン、色鉛筆などで、彩色させる。
  - 2、ボール紙代用品としては、煙草屋さん、藥屋さん、文房具屋さん等よりボールの空箱を頂戴してきて整理して厚紙細工其他に使用する(此の邊の商店ではボールの空箱は全部焼きすてますので思ひ付いたのです)

### 千葉縣女子師範學校附屬幼稚園

(一)

#### 一、健康相談所の設置

イ、健康相談カードの使用  
家庭と連絡をとりまして、其週に健康相談を受けたい者はカード(規定)に組名と幼児名を記入の上、症状を簡単に記載して水曜日の正午迄に幼稚園に申出る事にして居ります。

ロ、毎週一回學校醫の來校

毎週金曜日午後二時から三時迄の間、學校醫が出張されて相談をうけ診察をされます。

#### 二、戶外遊び

イ、出來る限り戶外遊びをする。

ロ、園庭遊具の外にも、小學校低學年用運動具、攀登棒、鐵棒、雲梯など、幼児自身自由に工夫して遊ぶ。

ハ、毎週一回田園又は郊外に遊ぶ。

(二)

#### 一、人形の再生

古くなつて汚れた人形(布製)は洗濯も出來ず、かといつて棄てしまふのをなく、其まゝしまひ込まれて居りましたが、時局柄思ひたつて再生をしてみました。

手足、顔などの布を取替へブルマー、スリッパなど縫ひつけてみました所、店から求めました物とは違つた親しい味が出る様

に思はれましたので、思ひきつてそれを着替へに致してみました。服はホック、ボタンでとめられる様、エプロンは紐で結ぶ様にし、帽子は頭の工夫がうまく出来ませんので固定的に致しました。服、エプロンなどの型はもとより、顔なども一人一人違つて居るのが子供には却つて嬉しいらしく、人形が保育室に取残されて居る事は殆ど御座いませぬ。エプロンの小さいポケットには誰かど必ずちり紙をいれてくれますし、ハンケチをさげ様などいふ相談も御座いました。エプロン洋服は汚れましたら皆でお洗濯することに致して居ります。

費用は新しく整へますと相當かゝる様に思はれますが、ながくもちますし、なほ面倒でも洋服の裁ち屑などを利用致しますと極僅かです。

一、人形——六十糎位の古い文化人形。

二、用布——手足、顔用の白布。

洋服、帽子、エプロン用の布。

三、其他の材料——飾ボタン、バイヤステープ、ホック、糸、レース。

四、費用——ベンベルグ様の布 五十錢—七十錢位。

五、製作に要する時間——約八時間から十時間位。

○

静岡市 市立静岡幼稚園 金原のぶ  
園児の栄養給食實施につき

(一)幼稚園に居る私共は常に、「小さいものを育てる大きい使命」

を感じます。特に非常時局下保育の任に當り一層其の使命の尊さを感ずります。この使命を達成するために、保育の留意點は種々ありますが、最も大切なことは保健問題で、幼児の體位を向上し健康を増進することでありませぬ。

當園としては、保健の根本問題たる採光通風、運動、殊に大氣の中に自然の籠兒となるやうに努め、尙家庭と連絡して睡眠、食事等にも注意して居ることは勿論であります。眞に幼児の心身の發達を助長し、健康の増進を圖るためには、どうしても給食施設にまで及ばなければ徹底いたしません。然しこれは容易ならぬことで、どこでも思ひながらも實施までには到らずに居る次第であります。

當園も永い間計畫いたして居りましたが、愈々機が熟して給食に着手いたしました。永い間の念願がかなつた譯で誠に喜ばしい次第で御座います。

例年新入園児の調査によると偏食兒が非常に多いこと、又幼児のお辨當状況を調査しますと、主食物の量の少ないものが多く、副食物も二三種に偏してゐて毎日同じ物を持つて来るなど、一般に保健營養の考慮されたお辨當が少ないことを痛感しますが、身體の發育に必要な各種の要素を適當に攝取することが必要である點から見ても、是等は非常に遺憾なことでありませぬ。

由來虚弱兒に偏食は附きもので、偏食は大抵家庭の不注意乃至注意が不足から來り、而も一度習慣となつた偏食の矯正は家庭では殆ど不可能であります。どうしても團體訓練に俟たなければなりません。當園の給食は茲に着眼したもので、偏食を矯正

して合理的な榮養食を攝つて幼児の健全な發達を圖ると共に、園兒の心情を陶冶して親愛と信頼の念を深めて、精神上からも保育の効果を全からしめようと期し、尙家庭との連絡を緊密にし、兼ねて榮養に關する智識の普及をも計りたいと希望して居る次第であります。本施設は昨年二月より實施し始めて未だ日も淺いので的確な効果については發表出来ませんが、絶えざる研究と根氣よい實行と親愛の念とによつて初期の効果を上げたと思つて居ります。園兒や家庭の喜ぶ様子が目に見えて判然するだけでもほんどうに報いられる思ひがいたします。全くこれまで嫌いだといつて居つた色々なものを如何にもおいしさうに何もないで食へて居る人が澤山あります。今その喜びの聲を一二述べますと

子供の聲

- 一、「幼稚園のおかず、まるでおいしいよ」
  - 二、「またあしたもこの通りにこしらへてね」
  - 三、「先生御飯まだ？」(朝のうちから催促)
  - 四、「先生、いゝ匂ひが運動場まで聞えて、来たよ早く頂戴」
  - 五、「何でも食へると大きくなるんだね、僕みんな残さないやうに食へて双葉山みたいに大きくなるんだ」(僕も)
- これは本縣衛生技師の手塚博士が、子供の偏食矯正上實際に成功された御經驗談、子供は大きくなつたといはれることを非常に喜ぶもの、其の心理を捕へて、
- 「何でも食へると大きくなるの、大きくなりましたかつたら何でもよく食へるのよ」。

これを伺つてから早速幼児に試みたところ全く其の何よりの方法に職員一同大喜びで御座います。

#### ◎給食施設の概要

一、當園母の會の事業として、職員(交代)、看護婦、常設の婦人一名、榮養士(暫くの間)、母の會々員(研究的に希望者交代毎日平均三人位)をもつて毎日事に當つて居ります。

一、實費 一食金八錢宛

一、指導者 縣衛生技師、並に縣衛生課勤務の榮養食指導者、園醫。

一、參考書 佐伯式食品成分計算表、縣發表獻立表、某の他榮養料理獻立等々。

(二)この非常時に際して「ものゝありがたさ」を一入感じ「ものを大切にする」といふ事を切實に學ぶ機會を與へられたことを深く感じて居ります。日常保育の上にも細心の注意を拂ひ幼兒と共に資源を愛護することに出来る丈努力いたして居ります。先づ從來あるものを無駄にしないやう、粗末にしない様、そのもの、生命を充分に延し充分に活用することに第一に注意いたして居ります。

殊に幼兒の情操陶冶の上にあまり響かぬ範圍にて廢物利用に、或は代用品使用に、と意を拂ひ國家非常の機に際したのを好機に不識の間に物の節約を悟らせる様に注意いたして居ります。然し本園として特に勝れた名案もなく、普通どこでも實施されて居るやうなものでございます。例へば

#### 一、廢物利用

空箱利用製作其の他

砂糖箱(ランドセル、トランク)

バット(コップ、下駄、草履)

マッチ箱(汽車、電車、荷車、針箱、タンス)

菓子箱(色紙を張り、又は模様をかき美しき箱を作る)

化粧品箱(ナシヨナルランプ、飯事道具)

木箱(飯事戸棚)

空瓶(飯事、道具)

帶筒(双眼鏡、電話機)

古葉書、包装紙、新聞紙(色紙畫用紙代用)

## 二、自然物應用

木の葉細工、貝殻細工、小石應用

木の葉繪具(木の葉を乾かして粉にしたもの)

花及實の汁、繪の具の代用(山午茅の實等特に美しき色なり、描

き及染料として使用)

## 三、代用品

○黒チヨークの代用(木炭畫用の木炭價のやすきもの)

黑板(黒彩色をなす時使用)

○繪の具の代用

馬糞紙(チヨーク及び木炭等にて描く時は、油繪又はパス

テル畫の如く然も非常に簡単に美しき繪をかくことが出来る。

神奈川縣大磯幼稚園 K

S

したいと思ふこと、しなければならぬと思ふことは山程ありながら、實際にして居りますことは、あまりに貧しくて、大きな聲でお答へする勇氣がございませぬ。左にそつとお答へ致して置きます。

## (一) 園外保育

幸にめぐまれてゐる山と海との近さを出来るかぎり利用致します。

五月、六月の好季節には、五十餘人の子供等を一週の各曜日に十人位づゝ分けまして、それんゝきめた曜日にお辨當持ちで致しまして、午後はその子供らだけを海岸や山や相當遠く迄連れ出します。山の上での半裸體の鬼ごつこは自然により日光浴になり、海岸での魚どりは時を忘れさせ、豊富な觀察の機會も與へてくれます。小人敷の子供ですので、本當に素直な保育の進展は、子供の精神的健康増進にも相當役に立つてゐること、思ひます、とまあうぬぼれて置きませう。とにかくこちらは毎日ですから一番先生の健康増進になつてゐるかも知れませんが、秋も冬も天氣のよい日は原つばや砂山や何處でも保育室にしてしまひます(しかしこの場合何時も問題になりますのは風邪を引いてゐること、病氣がなほつて出て来たばかりの子供です)。

水撒き  
こんなことゝお笑ひになるかも知れませんが、山だ海だといひ



ドロップスを希望の幼児に與へて居ります。

○

宮城縣女子師範學校附屬幼稚園 木村 豊 女

(一) 偏食矯正

好き嫌ひを矯正してあらゆる食物の中から十分な榮養をどれる様に考へ、毎週二回幼稚園に於て晝食の準備いたして共に楽しく頂きます。

其の方法は、入園の際に好き嫌ひの食品を豫め調査しておきまして、そのもの、形をかへ色をかへて調理いたすのでございますが、幼児たちは其の時間を楽しみに喜んでお代りまでして頂きます。斯くして家庭にまで及び次第に矯正されて居ります。お料理は本校の榮養主任の先生が責任を持つて下さいます。

(二) 資源愛護を主眼として凡ての事に心を配つて居りますが、具體的のこととしては、自然物使用でございます。

○

群馬縣 桐生幼稚園 吉岡 佐和子

(一)

1、朝ラヂオ體操を致します。

2、一ヶ月二回位の豫定にて近くの山へ登ります。

3、毎日のお辨當に、榮養副食物を分配してゐます。

一人 一日 金三錢(九月よりは金四錢の豫定)

一ヶ月 雇人料 金五錢(料理人手當代のこと)

ながらもやはりせまいながらも自分の家、幼稚園の庭で過す時は一番多いかも知れません。ほこりつばい庭ですからせつせと水撒きを致します。いつもしつとりとして、かけ廻る子供らをほこりが襲撃しない様に。

顔ふき

あまりに消極的な方面ばかりでお恥しいです。

暑中歸園の際、つめたい水で各自の手拭をしぼつて顔をふきます。汗まみれになつて遊び過した顔と手とをさつぱりとさせて歸し度く、あせもなんか出来てゐるひたいにはあせ知らずもつけてやりたくなります。この手拭は後で石鹸でよく洗濯して置きます。勿論少しでも眼の悪い子供などは完全に分けて取り扱ひます。

お辨當

子供らのお辨當を見ますと何時もお母さん方にもつと榮養のことを考へて頂き度くなります。身體の小さな貧弱な子供にかぎつてお辨當のおかずも間に合せ式のもので少し心寒くなつたり致します。と申しても色々な點から給食も致さず又出来ず、時々お辨當の獻立を印刷致しまして(他の用件などと一緒に)各家庭に配ります。大した意味もないと云へばそれ迄ですが、この爲に少しでも子供の榮養についてのお母様方の關心がお辨當に現れるのを見ますと止められせん。もつとよい方法でもつと完全な榮養を子供等に與へる方法が欲しいと思ひます。

(一) 肝油の給與

嚴正な醫學的批判はとにかくとして、小學校の方と一緒に肝油

4、夏季特別保育(希望者だけ百名以内)

期間 八月一日より八月十日まで

費用 十日間にて壹圓五拾錢也

午前九時始り

十時、牛乳五勺給與

中食、營養副食物を與ふ

プール

午睡

間食

午後三時閉會

大阪 秋立諏訪森幼稚園 村 井 こ ま

(一)健康法

1、幼児體位上、少々無理かとも思ひましたが、次の事を大正十三年來實行して居りますが別に障つたとも思ひません。なほいろくゝと方法をかへてやつて居ります。大方の先生方向辛御批判下さいませ。

四月以來足をならすため歩行約五分—十分位。

引續き十五分二十分位、團體に又は個人にて、洋舞臺本中の軽い部分を幼児に出来るやうに組替へて、毎朝ラヂオ體操の變りに體育體操として必ず行ふ。引續き今節なり九時五十分ラヂオの幼児の時間。これと反對に靜かにお座り、サアボンボサンにも聞して上げませうと申しますと、お行儀よくお背

中を真すぐに座し、四肢の激しい運動後靜かに氣分を休めて、みんな家外に、海に、野に遊びに行きます。

2、毎月乗物なしの遠足一回(御陵めぐり……近郊の)

3、七月初めより、海岸に特に度數多く出かけます。足首位まで海水につけなします。十日目頃よりお膝まで。十五日頃より(天候に依る)醫師の許されたる子供(許されぬ幼児は砂遊のみ)のみ午前十時よりチャブくを全身いたしました。一寸考へると恐い様にお思ひですが全部附添なしで自分自身を氣をつけて注意して居ります。決してお考へになるほど恐いものではありません。繁華な自動車、電車等の澤山な町よりキケンが御座いませぬ。(浮袋は絶対に不持參のこと)十時より三度に分けて水泳いたします。

一回五分、二回十分、三回目十五分と十一時半までに入れては出し出しては入れませぬ。十時半から十一時頃までにアメユ五勺位、十一時半全部水洗ひして各自に洋服に着かへ、晝食、濱(ヨシズ張)又は園に歸りおひるね約一時間、目ざめた順次に少しづつ全身摩擦致します、其内目がさめます。

おひるね中樂しいレコードが靜かに夢の國にて遊んで呉れませぬ。

海に入る前の注意、必ずワセリンを首、肩、脊と各露出の部分にぬり込んでおきます。カラムケ、水腫が出来ませぬ。同八月も十日程。合計天候により二十日か二十五日位、兩月にわたり海水にて健康を養ひます。

第二學期九月から靴下なし。(式以外は)

十一月より少し冷えて来ますが冬季ウスの仕度、1、で申

上ました基礎體操中極寒にても夏規定服(スフ一圓五十錢程の半袖上衣)着用のこと、あまり強くない風の日は年齢にもよりますが、約五十米位のゆつくりしたランニングを行ひ、四肢露出の部分に冷たい風を吹さらせ、身心鍛練を行ひ、第一に皮膚の抵抗を養ひます。以上三月修了まで濱風にうたれます。

4、區外より来ます電車通園もなるべく歩いて来る様にしてゐます。運動が激しいのとよく遊びますので大阪子供養餐飯二〇瓦のお辨當ではとても足りません。

#### 5、冬季幼児着用服裝

1、下着、ガーゼコンピは萬一不仕末の節、折角體温のあたたまつた下着を全部ぬがして又別な温さと取替へると、自然體温の變化を思ひ、私方はコンピネーションは遠慮してもらひ、シャツ、パンツ及ズロースを用ひます。

2、メリヤス下着シャツ一枚。(ズロース、パンツは二枚使用)

3、毛絲或はこれと同様のチヨッキ。

4、上衣(スフ紺サーツ袖口、衿、白サーツ一着本年六圓五十錢)上衣は腰より少し下まで位の短いのを……(以上、全部規定服に)

(極寒中は通園のみクツ下着用。園に入ると各自クツ下入に入れて裸足……霜やけの子供を見ません、まれです)

入學後生活が變つても別に疲勞もなき様、元氣に通學して成績長く勉強して居る事、小學校の先生から伺ひます。

#### (二)保育材料につき

1、摺紙(プロ及ピラを吋を揃へて裁ち使用)

自然物 山―野―海―をあまり、遊ぶ時集めておく。オヤツのグリコ箱、キャラメル箱、タバコのアキ箱、山のネバ土、お庭に砂場なし、海岸に出て砂を、等、其外畑に出て氣づきし物を集めておく。

○

#### 東京 池袋幼稚園 多田 和子

(一)別段のことはしてゐませんが、強いて申せば

イ、朝の會集後に全部庭に出て(雨天の節は屋内)ラヂオ體操。

ロ、身體検査は年二回行ひ、その結果を家庭に通知する他、幼児衛生の専任保母を一名置き、隨時配慮してゐます。

ハ、未だ給食とまでは行つてゐませんが特に偏食につき留意してゐます。

ニ、園の内外、保育室は固より、便所の掃除まで凡て保母が之に當つて居ります。これは幼児の世話は何れ保母がなすべきものと云ふ意味で、下のことも進んで保母が引受けると云ふ幼児に對する愛情を徹せしむる以外に、清潔と云ふ點に保母自ら凡て責任を持つことを意圖してのことであります。

ホ、毎月一回各組夫々近くの原へ徒歩で小遠足をしてゐます。

ヘ、高木兼寛博士創案の「海ゆかば」の國民體操を随時園主指導のもとで行はせてゐます。

○

(1)

1、通園區域内に上野の山、不忍の池がありますので四季を通じて出来る丈け多く連れ出して居ります。

2、毎月十日を身體検査日と定めまして、午前九時半から一定の時間に、身長、體重、胸圍を測定致し、各兒のカードに記入して家庭に通知致して居ります。

3、毎日一回ラヂオ體操を致します。校庭で出来ない時は遊戯室で致します。然しラヂオ體操以外で幼兒に向く保健體操の様なものゝ怒しいと存じ、下谷區保育會で、この程幼兒の保健體操として、「お散歩しませう」と題して纏め上げました。九月から實行致す豫定で御座います。

4、幼兒の榮養増進及偏食矯正の目的で、毎週火曜日幼稚園より指定のお菜を辨當に持たせる事にして居ります。

第一週 お野菜(サツマ芋、南瓜、大根、人参、ゴホー、ホーレン草キャベツ、その他)

第二週 豆類  
第三週 海藻類

第四週 干魚、小魚、ツクダ煮類  
第五週 ハンペン、竹輪、油揚類

右の表を家庭に通知しておき當日はお辨當調査を致し記録しておきます。

(二)今のところ格別の苦心も致して居りませんが、今まで平氣で捨て、居りましたものでも、出来る丈生かして面白く活用する様に心がけて居ります。

包紙、お菓子を包んだセロファン、空箱等、捨てないで各兒持ちよつて、それらに適した利用を考へて少しでも材料の節約につとめて居ります。

○

東京市豊島區池袋 榮和幼稚園 鈴木靖子

(一)毎朝午前十時に牛乳五勺づゝを與へて居ります。家庭に於て嫌がつて飲みません者も次第に馴れて、終には喜んで飲む様になりました。

(二)古葉書の利用

昨年の文部省講習に於てお教へ戴きましたものを致して居ります。馬等。(キリンの顔をかへて)

○

東京 十文字高女附屬幼稚園 留岡よし子

(一)

イ、食前の含嗽、手洗

ロ、食後の齒ブラシ使用

ハ、洗面(各自手拭使用、遊びの後に一夏期)

ニ、園醫の身體検査

ホ、齒科治療(指定齒科醫へ保姆がつれてゆく)

家庭からでは我儘のため治療させない子  
手不足の爲、痛まなければ治療出来難い子

ヘ、自強體操(大人の自強術を曲に合せて行ふ)

ト、光線治療器使用(保健、健康増進治療に効果を擧げてゐる)

チ、家庭での記入カード

就寝前の齒ブラシ使用(毎日)

睡眠時間、排便、排尿の記入(主に夏期)

(二)新聞紙、ビラ、ポスター、空箱、布等の古物及自然物の使用。

○  
東京市立 千櫻幼稚園 落合美禰子

- (一)
- 1、毎朝ラヂオ体操を行ひます。
  - 2、肝油を服用させて居ります。
  - 3、天候のよい日は出来るだけ日光に親しませる爲屋上に連行し、充分に日光浴をさせる。
  - 4、食後は必ず齒刷牙教練を行ひます。
  - 5、およそ自然に悪まれぬ爲、月に一回出来るなら一週に一回は、郊外に連れ出したいと思つて居りますが、なか／＼實行出来ません。

(二)  
時局柄、出来得る限り、備品を大切に取扱ひ、修理修繕し、廢物利用につとめて居ります。

○  
東京 聖心幼稚園 小川澄子

(一)私共の幼稚園はお陸橋で郊外にあるので園外保育に七八丁ある廣い野原へ参ります。

一週間に一度は大抵實行いたします。

(二)廢物利用

○  
(一)健康保全に、先づ當園に於ては偏食兒の無き様母に呼かけ、園醫及食事養生研究者を二ヶ月乃至三ヶ月に一回招き、母の會を開催す。

(二)時局對策上保育材料の節約といつたものは致して居ない。故に平常、保育材料が幼稚園外にころがつて居るかを心掛て、幼兒にも其の事を談話中に又お庭遊びの中に自然に話かけて居ります。

強いて實行方法として申しますならば  
當園は商人の子供が多く通園致して居りますから家庭に廢物として捨てられる空箱、及包紙等を母の會の折に申して置きますと子供に持たせて下さいませ。其れが家庭に、園兒の作品となつて歸ります時益々其の効果大であります。

其のすたれ行くものが子供の生活に活かされて行く事が、自然に母の心掛となり、子供が卒園しても今尙持たせて下さる母さへあります。

二問の始めに申しました「節約いたしました事はない」と云ひました物が物を大切に取扱ふ事が時局に對する節約ではないでせうかと思ふ。

# 人形 出征・戰場

## 第一場 千人針

背景—停車場の廣場

千人針はよく驛の廣場で見受けるので驛の背景を使つた。併し街の通りでも、四ツ角でもよい。こゝに立つて、少女が千人針をして貰つてゐる。この人物の前を、後ろを老幼男女大勢の人が通り過ぎてゐると尙更よい。

人物—少女(十三四歳位)—千人針をして貰つてゐる人。

女學生

奥様

老婆

其の他多くの人

道具—千人針の布、針、繻、洋傘など。

千人針のしかけたのを持つて、女兒立つてゐる。

——幕あく——

(千人針布を持ちあげて見まわしながら女兒獨白)

少女 今朝からこゝでして頂いたので大部出来たわ、お兄さんが出征なさるまであと三日しかない。さうかして皆

## 附屬幼稚園 菊池ふじの

さんにして頂いて、お兄さんのお立ちの時にはさうしたつて持つて行つていたゞくやうにしなければならぬ。

この千人針の中には、千人もの大勢の人の魂が籠つてゐるので、これをお腹にしつかり巻いておく敵の鐵砲丸が當らないのださうだから、お兄さんには是非差し上げなければならぬ。

向ふからまた女學生さんが來た。ひみつお願いして、していたゞきませう。

(來合はせた女學生に向かひ)

さうぞお願いいたします。

女學生 えゝ、あなたが御出征になるの？

少女 お家のお兄さん

女學生 そう、それは大變ね(し終へる)

少女 有り難うございます。

(洋傘を持つた奥様風の人通りかゝる)

少女 お願ひ致します

奥様 ハイ、さうぞさせて下さい。(と布を受取り、傘を少女

に持つてもらふ)があなたが御出征になりますの？

少女 お兄さん

奥様 そう、それはご苦勞様ですね、いつお立ちになるの？

少女 しあさつて

奥様 それはくお大變ですね、ハイ出来ましたよ(と渡す)

少女 有り難うございます(傘を奥様に渡し布を受取る)

老婆来る

少女 お願ひいたします

老婆 ハイくいくつでもさせよう。こんなごきでお役に

立てるんならいくつでもさせて貰ひますよ、ほうら出来

ました

少女 有り難うございます

さあくもう大部分出来上つたわ、あさもう少しだけ

さ、これはお隣りのおばさんにして頂くごきにして今日

はこれで歸りませう。

幕

## 第二場 出征

背景Ⅱ街の通り

人物Ⅱ出征する人

見送り人Ⅰ愛國婦人會員、國防婦人會の人、在郷軍人、

其他大人子供等多數

道具Ⅱ出征の纏(赤又は白)、日の丸小旗、祝出征の幟り、

國防婦人會纏、大太鼓、ピアノ、ハーモニカ等

幕あく

樂隊の「日本陸軍」の演奏(肉聲合唱にてもよろし)につれて、出征を見送る行列が靜々と舞臺面へ進んで来る。出征する人の前後に二三人の人がかたまつて居り、續いて在郷軍人、愛國、國防婦人會員、その他の多數の見送り人、之につゞく。この時樂隊の演奏が陽氣にならぬやう、壯重にひびくやうに注意すること、又人物の動きを餘りつけると、これまた陽氣な感じが出る故、人物の動きも上半身は動かさず、やはり壯嚴に見ゆるやう注意せねばならない。出征する人は白又は赤の纏に姓名を墨書してあるものを斜に肩にかけておく。見送りの人はそれ／＼手に手に日の丸小旗又は祝出征の幟を持ち又愛國、國防婦人會の纏を肩に斜にかける。制服を着用させれば尙ほ結構であらう。以上の様な順序、服裝、諸注意を持つて、舞臺面を二回位往復する。舞臺正面に出征する人が來た時、幼兒の方を向いて舉手の禮をする子ども等は一入感興が湧く。かくして

幕

## 第三場 驛出發の場

背景Ⅱ或る停車場のホーム

人物Ⅱ第二場の人物

道具Ⅱ第二場の人物がこゝに現れるので、見送り人の持つ

てゐる旗や着用の服裝等はそのままこゝへ現れる。

汽車

一行手に々々日の丸の旗及び幟りを持つてホームへ登つて来る。一同それ／＼の場所についた頃司會者が前に進んで舞臺正面にぐつと出、只今の式の次第を申し述べる。

司會者 唯今山名鐵雄君をお見送りする式を簡單に行ひます。先づ始めに宮城遙拜、次は在郷軍人支部會のご挨拶、次に山名君のご挨拶、萬歳、次は露營の歌、愛國行進曲の合唱、御出發、以上の順序であります。

司會者 一同氣を付け!! 宮城遙拜、最敬禮(終ると)

司會者 次は在郷軍人支部代表の御挨拶

一步前に進み出で、しつかりと

在郷軍人代表 町會及び在郷軍人支部を代表して一寸御挨拶申し上げます。この度、山名鐵雄君が豊橋の聯隊に召集になりましたことは、山名君御一家の御名譽は勿論のこと、本町會の最も名譽とするところであります。山名君は、皆様もご存じの通り、誠に男らしい方でありますから、御出征なされては、定めし大日本帝國軍人として、天皇陛下の御爲に、又御國の爲に立派なおはたらきをなさつて下さいますことゝ存じます。さうか私共に代り、遠くお出で下さつて、しつかりさやつて頂き度うございます。誠にご苦勞様でございますが、何分さもよろしく御願申し上げます。併し戦地は氣候も内地とは變つ

て居り、何かさ思ふやうにお出来になりませんことゝ多いことゝ存じますが、さうぞこの後は益々御身體を御大切になさつて下さいませ、それから又お留守宅のことには及ばずながら、私共みんな、お引受け致しましたから、御心配なくさうぞしつかりやつて来て頂き度うございます。今日の御出征に當りまして、一言山名君の御壯途を御祝ひ申し上げる次第であります。

(一步退く)

司會者 次は山名君の御挨拶

出征軍人の挨拶 今日はお忙しいところをこの様に大勢の皆様が御見送り下さいまして誠に有り難うございます。

又唯今は町會及び在郷軍人代表者の方からいろいろ勵ましのお言葉や、有り難いお言葉を頂戴いたしましたして、私はみんなに心の中で固い決心を致したか知れませんが、私は今度の事變が起りました時から、一日も早く出征して、お國の爲に働らき度いと思つて居たのでございまして、これからは一所懸命にお盡し致しまして、皆様の御期待に添ふ様に致す積りでございます。では皆さん行つてまいります。家の事はさうぞよろしく御願ひ致します。司會者 では皆さんで山名君の萬歳を三唱いたしませう。

皆さん御唱和下さい。

山名鐵雄君萬歳!!



(一同萬歳!!を三回唱和す、旗をふりながら)

司會者 今度は露營の歌を皆さんで合唱して壯途を御送り  
致しませう。

一同露營の歌を合唱、又その場面の様子により、君が代を先に、  
愛國行進曲などをつゞけて合唱するもよろしからん。旗などを  
打ちふり眞實の出征を見送る時のやうに。こゝへ汽車、ホームへ  
入り来る。出征軍人及び三四人これにつゞき汽車の中に入り  
から頭を出す。こゝへ出征軍人の親兄弟、見送り人等交る々々  
挨拶に來る。やがて發車の合圖。一同萬歳を連呼旗をふつて別  
れる。汽車が動き出す。

——幕——

#### 第四場 出動命令

背景 曠野

人物 大隊長

下土

兵卒多數

大隊長曠野に立つてゐるところ時々機關銃の音がきこえる

——幕あく——

(望遠鏡でしきりに向ふを見てゐる。やがて眼鏡を降し)

大隊長獨白 向ふの森の蔭の方に大部隊の敵が集結してゐるやうである。今の中にあの敵を殲滅しておかなければいけない。

(今の中に大隊を呼び集めて出動命令を下して置かう。堀井軍曹を呼ぼう)

堀井軍曹!! 堀井軍曹!!

堀井軍曹(擧手の禮をしながら)

ハイ、堀井軍曹であります。

(ゆつくりと禮を受けながら)

大隊長 堀井軍曹、我が大隊の諸君をこゝへ集めて貰ひ度  
い。出動命令を下したいと思ふから。

堀井 ハイ、分りました。

(舞臺より消える)

(全員は二班に分れ大隊長の前に整列する)

大隊長 一同に命令を降す、我が大隊は、向ふの森の後ろ  
に敵の大部隊が集結してゐるのをこれから迫撃殲滅せん  
とする。一同直ちに行動準備をせよ。終り。

(一同散つて舞臺より消える)

——幕——

#### 第五場 戰場

この場面は幕を開けず、すべて舞臺裏にて音や聲のみを  
發して現はす。機關銃、大砲、ピストル等の音を出して  
戰爭の感じを出す。激しく又時々遠のいたり云ふ様な  
要領で。

(かすかな併し力強い聲にて)

突貫!!!

ワァ! ワァ! ワァ!

大砲、機關銃、ピストルの音、煙り

突貫!!

ワァ! ワァ! ワァ!

(しばらくこれを繰り返し程よき頃)

一番乗り!!

占領!!

萬歳!! 萬歳!!

(レコードもこゝにて止む)

### 第六場 愛馬との憩ひの場

背景Ⅱ野原 又は無背景

人物Ⅱ兵卒

馬(石進號)

レコードの愛馬進軍歌を弱い音で奏でつゝ幕をあける。又は、ハ  
ンミンク(口をつぐんでうなるやうに歌ふこと)にて幕をあけ  
る。兵卒と馬が舞臺中央に現はれ會話が始まらうとする時は音  
樂をやめる。馬のたづなを取りつゝ舞臺正面に来る。そして馬に  
向かつて、頭を撫でながら

兵士 ころれ、栗毛よ、疲れたらう。國を出てから今日で幾  
日になるかなあ! お前は随分よく働いて呉れたね、お  
前の勇ましい働きで俺達が一番乗りをしたこゝもあつた

ね、それから敵を五六人も切りまくつたこゝもあつたな  
あ、あの時はお前はさてもよく、くるくゝ動き廻つたよ、  
お蔭で俺達のまはりに居た敵は、片つ端から切れたのさ、  
さころで、さつき軍曹殿がお前の家から來たのだから言つ  
て手紙を持つて來て下さつたよ。いつしよに讀まうね、  
いゝか

(ゆつくりと、言つてまかすやうに。以下は飼主よりの愛馬への  
手紙)

石進號よ、お前さ岩見澤の驛で別れてからは、毎日の様  
にお前の事を思つてゐるよ。お前が丈夫で一人前の軍馬  
さなるやうに祈つてゐますよ、私等、家内の者もみんな  
丈夫で、家の仕事を一所懸命にやつてゐますから安心な  
さい。お前さいつしよに二年以上も、毎日、雨の降る日も  
風の吹く日も暮して來たが、今年はお前も五歳になり力  
も強くなり澤山の田や畑をたがやして呉れたつたね、そ  
のおかげで、今年は今までにない位、作物がよくされた  
ので、みんな大悦びをしてゐますよ。たゞお前に新しく  
出來たお米を食はせないで別れたこゝが残念で残念で、  
毎日寫真を出しては眺めて残念がつてゐます。お前の足  
はあまり丈夫でなかつたので、心配してゐますがよくお  
つこめが出來てゐますか、さうか充分氣をつけて皆さん  
に可愛がられるやうにして下さい。北海道は雪が降つて

寒くなりました。何分にもお前の行つてゐる所は氣候の違ふ所ですから、身體に氣をつけて一生懸命おつこめして下さい。お前がこつちにある時村の共進會で取つた一等賞は家の寶として傳へます。それでは左様なら

石進號 殿

益本正雄

### 人形、道具の作り方

人形の作り方、と言ふ見出しを掲げては見ましたものゝ、暫く新しく人形作りをしないであつた私には、この度の人形芝居に用ゐた人形の作り方に就て何と書いていゝものかとまごつきました。人形の流用と言ふことは便利なやうでも、使用後その都度元通りに整理しておけば何の差支もないのでせうが、子供等に荒されるまゝに置かれたり、次々に起つて来る子供達への急がしい用事の爲に遂に、あたふたとしまつてしまふのが常ですので、今度使はふとする時はあれも無しこれも見えずと云つた始末で、大まごついて了ふのがならはしになつてしまつて居るのです。一つ一つのげ題に就て、人形も背景も道具もみんな一通り完全に揃へて置いて、いつでもそれを出せるやうにして置くのが申すまでもなく一番よいのですが、今日の始末、明日の準備と、考へれば果しなく忙しい幼稚園の明け暮れでは、この人形を今度のお芝居のあの人物に流用すれば寸度よいと云ふことがはつきり分つて居るのに、それを又作ることも、又それと同じ人形を又買求めること

も一寸六ヶ敷くなつてしまふのです。で、遂ひ流用と云ふことになり、その弊害には少なからず困つて居ながらも今だにその流用と云ふことから抜け切らないで居る私です。でこの脚本を作りましても新しく人形を作らないで、前々から幼稚園にあつたものを流用してしまつたのでした。

私共が今までしてゐた人形の作り方は大體四種ぐらゐるやうに思はれます。

一は、古い小箱を利用(厚紙でこしらへる)してごく粗朴な人形をこしらへること、二は布にて作ること、三は新聞紙とふのり(最近の幼稚園界では新聞粘土と稱してゐる)と交ぜ合はせて作ること、四は木に彫ること等でありますが、これ等は例へば、古箱利用のものは作り易い、印象的だなど、云ふ長所はあるが、破れ易いと云ふ短所を有し、木彫りのものは印象的ではいかも破れにく、よるしいが、仲々、材料も揃ひ難く技巧も要ると云ふわけになり、布製のものは破れにくいのが印象的でなく又作ることに仲々工夫がいるし、新聞粘土のものは、破れにくいし軽いと云ふ長所は持つてゐるが、形、色彩に技巧を要し又印象的でないと云ふやうの場合もあり、それゝ長短相半ばして、どの作り方にとも決め難い場合があります。

この度は思ひついたのでごく七日直前であり、時日もなく間に合はなかつたのでありましたが、前々からあつたものを流用したわけでした。次に各場に変更した人形や道具の作り方に就て簡単に觸れて見ませう。背景については申すこともないやうに思ひます。

## 第一場

人物(少女、女學生、奥様、老婆、その他の人) 第一場に出て来るぐらゐの人形はごちらの幼稚園にもあるのではないでせうか、若し無かつたら如何様にでもして(前の作り方を指す)、少女は少女らしく、女學生は女學生らしい扮装の人形を……とそれぞれの人物が作れると思ひますから、こゝはこれだけにして止めておきます。

道具 千人針の布や絲や針を凡そ實物大ぐらゐのものがよい。人形に釣り合ふやうな小さいのは印象的でないと思ひます。七匹の小山羊の際の鉄は實物大のをを用ゐてぐつと印象的なものにしたのでしたが、こゝの千人針布もあの時の心持と同じ心持で大きいのをと思ひます。

## 第二場

人物(出征軍人、見送り人) 出征軍人は前の爆彈三勇士(木彫り)の一人を流用。これに出征軍人が肩から斜めにかげられるあの襷をかけさせました。出征軍人の何某誰と墨書して。見送り人は多い程よろしいのですから、流用出来る丈けの人形は皆使ひ(人手がかげられるだけ)愛國婦人會員、國防婦人會員はその襷を肩に、在郷軍人は前に作つてあつた軍人の人形を流用、これだけでも寂しいものですから、あとは青年團員の隊伍を組んで行進してる繪や、小學生が、日の丸の小旗を振りながら行列してゐる丁度恰好の繪がありましたので、これ等を切り抜き更に厚紙で裏打ちをして板の棒に釘づけにして紙芝居式に舞臺に出して用ゐました。

道具 出征軍人の襷、國防婦人會、愛國婦人會の襷、日の丸の

旗、祝出征の幟り等は紙へ、布へそれごとくあたりまへに作りました。この場面で樂隊を出したので、大太鼓やピアノ、ハーモニカ等を用ゐましたが、肉聲で結構です。私共の場合は、次の驛出發の場や最後の愛馬の場に肉聲を用ゐましたので、それとのコントラストの上からこゝに樂隊を用ゐて見たわけです。奏して見て、樂隊は壯重でいゝと思ひました。尤もこゝの樂隊は派手に又は華やかなものにならぬやう、壯重であるやうに心掛けたのですが。

## 第三場

こゝの人物も道具も殆んど第二場そのまゝです。汽車は、厚紙に、釣合より大きい汽車を描き彩色して切り抜きました。一つの窓をあけて置いて、こゝから出征軍人の頸を出させましたところ、子供達はやんやと喜びました。

## 第四場

こゝの大隊長も下士も、前に拵らへた木彫りの軍人を流用いたしました。兵卒多数は、平板又は厚紙に、兵隊さんの繪を描いて切り抜いたものを板に立てたものを用ゐました。これに合せて、よく場末の玩具屋さんで賣つてゐるやうな菱形の組木を擴げると、一瞬にしてすらりと兵隊さんの並ぶやうなものも合はせ用ひました。澤山の兵隊さんの整列したのを見せることは子供のよろこぶことですから。

## 第五場

こゝの場面では目に見えるものはないわけです。蔭で扱ふ大砲の音には、大太鼓の張りをぐつと弛めてドンと底力ありげに打つ

た音を擬音として用ゐる、紙の袋に空気をに入れて破るのも大砲に似た音が出ますので時々用ゐるました。機關銃には竹で拵へた、これこそ十餘玩具の機關銃を用ゐるました、これは破れる心配もなしごく簡略に音が出せませす。併しほんどうの機關銃よりは少々明瞭過ぎる音が出ます。これと一緒には、やはり子供の玩具ですが、稍々高級な機關銃(引手を引いてゐる中タタタ……となるもの)も合せて用ゐるました)ピストル、これも下町や場末の玩具屋にあるピストルを求め、やはり玩具屋で賣つてゐる薬品を挟んで引金を引きますと、眞のピストルの様に煙も出れば、火も出る仕掛のピストルを用ゐるました。この他レコード使用。

## 第六場

兵卒は前述の通り。馬は厚紙に馬の繪を描いて切り抜きました。手綱をつけて、それを引くと頭が動くやうにする爲に、頸と胴の所は鋸で止めました。

## 反省と演出上の注意

この脚本は過ぐる七月七日、事變勃發第二週年目の記念日に本園の幼児に見せたものでございます。

この大形芝居は相當の人手を要しますが、本園では五人の保姆で演出いたしました。人手の不足などころでは無理かしらとも考へて見ましたが、又工夫のしやうでは出来ないことをでもないと思ひます。私共もそういふ所(第二場出征行列の場面など、又第三場驛出發の場面など)は紙芝居風に厚紙に繪を描いて又は適當な繪がある時には切り抜いて使つて見ました。何と言つても一つ一つの人形が動くのが、見てゐて一番面白いと思ひますが、中に繪の交

るのも悪くはありません。何うにか工夫されてかやうなお芝居も子供等に見せて欲しいと思ひます。子供達は大笑よるこんでくれました。そして一番おしまひに、私達がおもしろいお菓子を食べたあと「あ、おもしろかつた」と嘆聲を發しますが、あれに似た「あ、面白かつた!!」と云ふ嘆聲を洩らしてくれました。この嘆聲をきいた時に凡ては報ひられたと云ふ感じが致しました。こんなに喜んでくれたのかと、こちらも非常に嬉しく思ひました。

脚本構成上、第二場と第三場とは重複してゐるやうに思はれます。初めは第二場に相當するところは舞臺裏で扱ひ、「第二場驛出發」としたのでした。ところが、軍隊が壯重に響きますと、驛へ行く見送りの行列を舞臺裏で扱ふのが惜しくなり、舞臺へ現はして見ましたところが子供はこゝが大變に面白がつて呉れました。殊に出征軍人が舞臺正面へ来た時に幼児の方を向いて舉手の禮をするあたりは子供はやんやと悦んで呉れました。こゝで注意すべきは、樂隊も行列の際の人物の動きも、壯重にして浮はつて居らぬやう。それには大太鼓、ハーモニカ、ピアノ等のメロディーはごく弱い音に。人物は身體を動かさないで靜々と進む様にするに浮はつかず壯重に見えます。

第三場の汽車の窓から出征軍人が顔を出したところは、幼児の心情の機微に觸れたと見えて大喝采を拍したのでした。

第四場の出勤命令の場面は無くともいふと思ひます。私の都合でこれを加へたのでした。前に爆彈三勇士の時に兵隊さんの澤山整列する場面がありましたので、これ等の人形があつたのです。

# ハイ デイ

(第十七回)

津 田 芳 雄 譯

——お醫者様はこの突然の申し出に、びつくりして異議を申し立てようとしたが、ゼーゼマン氏は自分のこの考へが非常に氣に入つて、有無を云はせず腕をつかんでクララの部屋へ連れ込んでしまつた。クララはいつも面白いこゝを云つてくれるこの親切なお醫者様が大好きで、大喜びで迎へた。最も近頃はすうつとお醫者様は沈鬱な顔をつづけ、クララにはそのわけがわかつてゐるだけに、もこのやうな元氣なお醫者様にしてあげる爲めには、どんなこゝでもしたいと思つてゐた。お醫者様が近よつて来るミ、クララは手を差し出した。お醫者様はその枕もきに坐り、お父様も竝んでかけた。お父様はクララの手をさりながら、早速スミス行きのこと話を話し出した。お父様自身もずる分樂しみにしてゐただけれ、クララの今の

様子ではとても無理だ云ふ一番重なこゝろでは、クララの泣き出すこゝろを恐れて、出来るだけ大いそぎで通り過ぎ、矢繼ぎ早やに、お醫者様に代りに行つていたゞくさいふ新しい計劃をのべ、それはお醫者様からだにも、みんなにかよいこゝだらうさいふこゝろでは、わざとゆつくり力を入れて話した。

——クララは泣くまいこゝろ一生命がまんしたが、涙がみる／＼碧い眼にあふれて來た。長い病中すつこそればかり樂しみにして來た旅行を、思ひ止まらねばならないこゝろは、ほんたうにがつかりしてしまつた。けれどもお父様がいけないと仰しやるのは、よく／＼ためにならないからださいふこゝろを、クララはよく知つてゐたので、涙をのみ込んで、もう一つだけ残された希望の方へ心を向

けようとした。お医者様の手をさすりながら、クララは一生懸命にたのんだ。

「ねえ先生、ハイデイに逢ひにいらしつて下さいな。そして、お山の上はきんな風だか、ハイデイやおぢいさんや、それからペーテルや山羊が、いちんち何をしてゐるか、すつかり見ていらしつて、お話しして下さいな。あたしはその人たちみんなも、ごも仲よしなんですもの。それから、ハイデイとおばあさんに、お土産をあげて頂戴。すつせせんから、あたしが持つて行かうと思つて、上げるものを考へてありますのよ。ねえ先生、いらしつて頂戴。そしたらあたし、いくらでも肝油をのみますわ」

この肝油をのむお約束がお医者様に決心をつけさせたのかさうかはわからないが、さもなくお医者様はたうさう笑ひながら云つた。

「それぢやさうしても行かなくちやならなくなりましたね、お嬢さん。あなたはその間に、うんち肥えて丈夫になつて、お父様やわたしを喜ばせて下さるのですよ。それで、いつ發つここにしませうかね」

「あしたの朝——早い方がいい！」

「ああ、それがよろしい。お天氣はよし、空は青いし、一刻の猶豫もありません。かういふ日に山へ出かけないなんて、實際勿體ない話ですよ」

ゼーゼマン氏も口を挟んだ。お医者様はたうさう噴き出してしまつた。

「おやおや、これぢやうつかりしてるさ、今度はまだ向ふへ着いてゐないさいつて、お叱りを受けさうですな。さあ歸つて支度でもはじめませう」

けれどもクララは次から次へハイデイへのおこまつてを頼んだり、よく見て来て、歸つたら委しくお話ししてくれさせがんだりして、なかくお医者様を放さなかつた。お土産はロツテンマイアさんに詰めてもらはねばならないので、今はロツテンマイアさんが町へ出掛けてゐて留守だから、あそこでお医者様のところへ届けることにした。お医者様は、なにもかもクララの云ふ通りにするごころを約束した。

召使ひさいふものは、伝附けれないごころまでちやんち前から嗅ぎ付ける不思議な力を持つてゐるものらしい。セバスタンもテイネットも、多分にこの力を持ち合はせてゐるさ見へ、まだお医者様が階段を降り切つてしまはないうちに、テイ

ネッテはベルの音を聞いてクララの部屋に這入つて来た。

「あの箱に、コーヒーの時いたゞくお菓子をいっぱい入れて来て」

クララはずつと前から用意してあつた箱を指さして云つた。

ティネッテは馬鹿にしたやうにその箱を片手でぶら／＼振りまはしながら、部屋を出て行きさま、生意氣らしくつぶやいた。

「なんだ、こんな御用か」

セバスチャンはお医者様を送り出して、おじぎをする時云つた。

「さうかあの小つちやなお嬢さんに、わたくしからよろしくお仰しやつて下さいまし」

「よろしい。だが、それちやわしが旅行するこゝを、もうちやんと知つてゐるのだね」

セバスチャンはぎぎまぎして、不細工な咳拂ひをしながら、

「わたくしは、その——なに、何でもございません。ちよつと、その——食堂の前を通りました時に、あのお嬢さんの名前が耳に入りましたので、その、多分そんなこゝだらうと思ひ合はせまして

——つまり——」

「よしよし」

お医者様はほほゑんだ。

「思ひ合はせれば、する分いろんなこゝがわかるものだからね。まあ行つて来るよ。御機嫌よう。こゝづけは確かに引き受けたよ」

そして急いで歸らうとするこゝ、又一つ障物に出逢つた。ひどい風で、ロツテンマイアさんが散歩を切り上げて歸つて来て玄關を這入らうとしたのこゝ、お医者様が出ようとしたのこゝが、丁度一緒だつたのである。ロツテンマイアさんの白い肩掛けは、風を一ぱいに孕んで、帆かけ舟のやうだつた。お医者様は身を退いた。けれどもロツテンマイアさんは普段からこのお医者様には特別の尊敬の好意を寄せてゐたので、あなた様こそさうぞお先きに、ミ大げさな鄭重さで、これも身を退いた。かうして互ひにゆづり合ひながら立つてゐるこゝ、急に強い風がさつと吹いて来て、ロツテンマイアさんは帆かけ舟の姿のまゝで轉がり込んで来て、も少しでお医者様を鉢合せするこゝろだつた。ロツテンマイアさんはしばらく息を入れて氣を落ち付けてからでないこゝ、相當の禮儀をつくらうとて挨



拶するこゝが出来なかつた。そして、こんなはしたない格好で轉がり込んで來ねばならなかつたこゝを、ひきく氣にしてゐるが、お醫者様は人の氣のむしやくしやしたのまで上手になほす、こゝを心得てゐるので、ロツテンマイアさんもいつの間にか普段の落ち付きを取り戻して、今度の旅行の話に聞き入つてゐた。お醫者様は持ち前のおだやかな聲で、さうかハイディへのお土産を詰めてやつて下さい、あなたでなくては外の者には出來ないのですからミ頼んでおいて、別れを告げた。

クララはハイディにお土産をこまづけるこゝをロツテンマイアさんに承知させるには、一ミ悶着あるだらうと覺悟をきめてゐた。こゝろが今度に限つて、ロツテンマイアさんはいつになく上機嫌ですぐ承知した。大きなテーブルを片付けてハイディへのお土産をみんなその上にひろげ、クララの見てゐる前でそれを詰めた。品物はひみつぶさつ大きさが違ふので、それを手際よく詰めるのは並大抵な仕事ではなかつた。まづ、温い頭巾のついた外套があつた。これはハイディが冬の間おばあさんの所へ行くのに、おぢいさんが麻袋にくるんで連れて行つてくれるのを待つてゐなくて、

いつでも行きたい時に行けるやうにミ、クララが自分で工夫して拵へさせたものである。それから、おばあさんにあげる温い厚い肩掛けがあつた。これにくるまつてゐれば、もう恐ろしい風が家のまはり吹きすさんでも、おばあさんは寒がらなくともいゝだらう。その次ぎは、お菓子イシヤシのいつぱい這入つた大きな箱だつた。これもおばあさんにあげるもので、コーヒーココアに添へて食べてもらふつもりだつた。今度は大きな腸詰めである。これははじめ、ペーテルにやるつもりだつたけれど、さうするミペーテルがうれしまぎれに一度にみんな食べてしまつてお腹をこわすさいけないと思ひ直し、クララはお母さんのブリギッタに渡してもらふこゝにした。さうすれば、ブリギッタは自分も食べ、おばあさんにもあげて、ペーテルにも程よく分けてやつてくれるだらうから。タバコタバコの包みは、おぢいさんへのおみやげである。おぢいさんは夕方腰かけて煙管パイプをくゆらすのがとてもすきださうだから、おしまひに、何だか不思議な小さな袋や包みや箱が、たくさんあつた。ハイディがこれを一一つ開けて見る時、ぎんなにびつくりして喜ぶだらうと、クララが特別楽しみにして、集

めたものばかりだった。

さて、仕事はやつごおしまひになり、物々しい大きな包みが、もう送るばかりになつて床の上におかれた。ロツテンマイアさんは自分の手際よい詰め方をうつごりご満足げに見やつた。クララもこの大きな包みが小屋に届いた時のハイディのびつくりして喜んで跳び上るさまを想像して、うれしさうに眺めてゐた。

やがてセバスチャンが這入つて来て、この包みをかついで、すぐさまお醫者様のおうちへ持つて行つた。

#### 十六、お客さま

明け方の光りが山の上を真赤に染め、さわやかな風が樅の木を吹き抜けて、古い枝をさやめかせてゐた。ハイディはその音で目を覺ました。木の枝の風に鳴る音を聞くに、いつもハイディは心を深くかき立てられ、たまらなくその方へご惹きつけられるのだつた。今もハイディは寢床から跳び起きるに、手早く着物を着換へた。この頃はいつもきちんご身なりを整へておくやうに氣を付けるので、それはかなり手間取つた。

ハイディが梯子を降りて見るに、おぢいさんはもう小屋の中にはゐなかつた。外に立つて、毎朝する通り、今日のお天氣工合を調べる爲めに、空を見上げたり、景色をながめたりしてゐた。

空は茜あかねいろの雲を浮べて、刻一刻に青さを増して輝きわたり、高原や牧場は、今し山頂にあらはれた朝日の光りを受けて、金いろに變つて來た。

「まあ、なんてきれいなんでせう。おぢいさん、お早う！」

ハイディは駈け出して來て叫んだ。

「おや、もう起きたのかね」

ハイディは樅の木のまごころへ行つて、大好きな枝のさやめきに聞き入つて、風が枝を一さゆすりする毎に跳んだりはねたり叫んだりした。

その間におぢいさんは山羊のお乳をしぼりに行つた。それがすむに、山へ連れて行けるやうに、ブラシをかけて洗つてやつて、小舎から連れ出して來た。ハイディはその二匹のお友達を見付けるに、駈け寄つて抱いてやつた。するに山羊たちものを鳴らして、競争で甘つたれながら、頭をすり寄せたり、押しして來たりするので、ハイディは二匹に挟まれてつづれさうになるのだつた。けれ

「今日は一緒に行けるの？」  
 断はられたくない色をあり／＼見せて訊ねた。

「行けないと思ふのよ。だつて、フランクフルトから、いつ何時お客様がいらつしやるかわからな

いでせうだからおなきやならないのよ。」  
 「こないだから、おんなじ／＼ばかり云つて

ら」ペーテルは不服だつた。  
 「いらつしやるまでは、毎日云はなきやならないわ。お客さまがいらつした時にわたしがゐらない

んで、そんな／＼出来ると思つて？」  
 「をちさんがゐるぢやないか」  
 ペーテルは唸るやうな聲で云つた。

だがこの時、おぢいさんの高い聲が聞えて来た。  
 「軍隊は何故行進しないのぢや。落伍者は隊長か、兵隊か」

途端にペーテルはくろり向き直り、ヒューーツミ鞭を鳴らした。山羊たちはこの合圖を聞き分

けて、山の牧場へミ大急ぎで駆け出し、ペーテルはその後を追つて行つた。  
 ハイディはおぢいさんの／＼へ歸つて来てか

「いけないわ、『小熊』ちゃん、あんたはまるで『トルコ人』みたいぢやないの」

ミ叱つただけだつた。する／＼『小熊』はすぐに頭を引つ込めて、もう亂暴な眞似は止めてしまつた。「小さい白鳥の方は、頭をそば立て、『わたしは『トルコ人』みたいだなき／＼人の口の端にかゝるやうな／＼はしませんよ』／＼でも云つてゐるやうな顔付きをした。「小さな白鳥は『茶色の小熊』なきよりも、すつ／＼上品だつたから。」

ペーテルの口笛が聞えて、大勢の山羊たちが跳んだりねたりしながらのぼつて来た。ハイディはたちまち騒々しい山羊の群れにあちこちから押されながら、すつかり取り圍まれてしまつた。その中をやつ／＼の／＼で、来た／＼でも来られないでゐるおぢいさん「ゆき」の／＼まで行つてやつた。

突然ペーテルが／＼もなくなけたたましく口笛を吹いた。自分でハイディに話があるので、山羊たちを追ひ散らす爲めだつた。やつ／＼ハイディのそばへ行き、

らは、せんには思つても見なかつたこゝまで氣が  
付くやうになつた。この頃では、朝起きるこゝま  
づせつせ自分の寢床を片付け、階下に降りて行  
つて椅子をみんな元のこゝろに置きなほし、そこ  
いらに出しつばなしのものがあれば戸柵にしま  
ひ、雑布を持つて来て椅子に上つてテーブルを磨  
き、ピカピカ光らせるのだつた。おぢいさんは外  
から這入つて来るこゝ、よく上機嫌であたりを見ま  
はして、ひゞりこゝを云つた。

「毎日まるで日曜日みたいぢやのう。ハイディを  
あそこへやつたのも、まんざら身のためになら  
んでもなかつたわい」

ペーテルが行つてしまひ、ハイディもおぢいさ  
んが朝御飯をすませるこゝ、ハイディはいつものお  
掃除をはじめたが、今日はなかなか捗らなかつた。  
外はよいお天気で、いろんなこゝろが次ぎ次ぎ起  
つて来ては、ハイディのお仕事を途切らせるのだ  
つた。一ミすぢの金いろに輝くお日様が、元氣一  
ぱいに窓からさしのぞけば、「ハイディや出ておい  
で!」、ミ呼んでゐるやうな氣がして、ハイディ  
はもう内にちつこしてゐられなくなり、ついつり  
こまれて跳び出してしまふのだつた。お日様は小

屋のまはり一面に、山の上に、すつこ遠くの谷あ  
ひに、キラキラ光り輝いてゐた。草原の斜面は  
あたゝかさうに金いろに輝き、あんまり氣持よさ  
さうなので、さうしても一度その上にすわつて、  
あたりの景色を見まはして見ないではゐられな  
かつた。するこゝ急に、自分の腰掛けをお部屋のま  
中にほうりつ放しにして来たこゝろ、テーブルが  
まだよく光つてゐなかつたこゝろが思ひ出され、ハ  
イディは又家の中にさび込むのだつた。けれど  
ぢきに又、樅の木がなつかしいあの歌をうたひ出  
すこゝ、手足がむづ／＼して来て、さうしてもぢつ  
こしてゐられなくなり、跳び出して行つては、枝  
の鳴る音に合はせて踊り出すのだつた。仕事小屋  
で働いてゐるおぢいさんは、時々戸口まで出て來  
て、ハイディの跳ねまはつて遊んでゐるのを、に  
こにこ眺めてゐた。今も丁度さうやつて出て來  
たあこゝで、又仕事にさりがらうとした途端、ハ  
イディが叫び立てた。

「おぢいさん、おぢいさん、たいへんよ、いらつ  
しやーい!」

おぢいさんはハイディがさうかしたのかこゝ、慌  
てゝ飛び出して見るこゝ、ハイディは山道の下り坂

になつてゐる方へ、ぎんく駈け出して行くころだつた。

「お客さまがいらしたのよ、いらしたのよ、

お医者様が先頭よ！」

ハイディがお迎へに駈けつけるさ、お医者様は両手をさし出して挨拶した。ハイディはその手にぶら下りながら、うれしさうに叫んだ。

「先生、いらつしやいませ。それから、ほんまにありがたう」

「おやおや、何のお禮ですね」

「おぢいさんさ、又一緒にねられるやうに、うちへ歸して下さつたからですわ」

お医者様の顔は、急にさつさ日の光りが射したやうに輝いた。こんなに悦んで迎へられようとは思ひもかけてゐなかつた。さびしいもの思ひに沈むのあまり、あたりの景色にも目もくれず、のぼるにつれて展げて来る展望の美しさにも氣も付かずに登つて来た。ハイディは二度しか會つてゐないから、自分なごもうすつかり見忘れてしまつてゐるだらうし、しかも待ちに待つた當のお友達をもつれず、いはばがつかりさせる爲めにやつて来たやうなものであるから、歓迎されようなごも

は、さらさら思つてもゐなかつた。それなのに、今ハイディは、歡びに眼を輝かせ、なつかしさうにお禮をこめて、腕にまつはりついて來るのである。お医者様は父親のやうにやさしく、ハイディの手をぎつた。

「さあ、おぢいさんのさころへ案内して下さい。

それから、おうちも見せてくれますね」

けれどもハイディはなほも突つ立つたまゝ、不思議さうにちつさ下の道を見つめてゐた。

「クララやおばあさまはー」

「ああ、いよいよあんたをがつかりさせるごころ云はなくちやなくなつた——實はね、ハイディちゃん、わたしは一人で來たのですよ。クララは病氣がわるくて、さても旅行出來ないので、おばさまもお止しになつたのです。だけき、來年の春になつて、暖く日も長くなつたら、その時こそ、きつみやつて來ますよ」

ハイディには、長い間、あんなにも楽しみにしてゐたごころが、結局實現されずに終るなごさいふごころが、はじめはさうしても信じられなくて、一二分の間、この思ひがけぬ失望に、身動きもしないで立ちつくしてゐた。お医者様は、その上もう

何も云はなかつた。あたりはひつそりミしてゐた。樫の木の溜め息だけが、二人の立つてゐるところまで聞えて来た。するミハイディは、何の爲めに自分がここへ駆け出して来たのかミ云ふこゝミ、お醫者様がほんたうに目の前に來ていらつしやるのだミいふこゝミを思ひ出し、お醫者様を見上げるミ、こゝミも悲しさうな顔をして、ぢつミハイディを見下ろしてゐた。フランクフルトにゐた頃は、お醫者様は決してこんな悲しさうな顔はしてゐなかつた。その顔は、深くハイディの心の底までしみ込んだ。ひミが、殊にこの大好きなお醫者様が、こんな悲しさうな顔をしてゐるのは、ハイディには氣の毒で見えてゐられなかつた。きつミクララミおばあさまが來られないからだミ思ひ、ハイディは一生懸命にお醫者様をなぐさめてあげた。

「春なんか、ぢき來ますわ。そしたら、二人ミもきつミいらつしやるのですものね。ここちや日が經つのが、きつても早いのですよ。春になつたら、今よりかもつミ長くゐられるのですもの、クララだつて、うれしがるでせうね。さあ、おぢいさんを見付けませうよ」

お醫者様の手を引つ張りながら、ハイディはぎんぎん小屋の方へのぼつて行つた。ハイディはぎんかして、お醫者様を元のやうに元氣にして上げてたいミ思つて、なほも熱心に、山では冬はぢきにすんで夏になつてしまふこゝミな話してゐるうちに、自分で自分の言葉を信じ込んでしまひ、すっかり元氣な聲でおぢいさんに叫んだ。

「今日はね、クララたちはいらつしやらないのよ。だけぢ、もうぢきいらつしやるわ」

ハイディはこのお醫者様のこゝミは、何でもおぢいさんに話してあるので、おぢいさんは始めて會つた人のやうな氣がしないで、打ち解けた様子で、お客様に手を差し出して迎へた。二人は小屋の前に腰をおろし、お醫者様はハイディにもそばへ來て坐れミ手招いた。お醫者様は、ゼーゼマン氏の熱心なたのみで、代理として訪ねて來たこゝミ、自分も長い間からだがすつきりしないので、からだの爲めにもよからうミ思つてやつて來たこゝミをおぢいさんに話し、ハイディには、今にフランクフルトから、わたしなぞがやつて來たこゝミよりも、もつミもつミあんたの喜ぶいいものが届くからミ囁いた。ハイディは何かしらミ、はしやぎまはつた。

おぢいさんはお醫者様に、この美しい秋日和の間、幾日でも山に逗留するやう、この小屋は狭くてお泊めすることは出来ないが、ラガツ温泉まで歸らずに、麓のデルフリに一寸した宿があるからそこに泊つて、お天氣のよい日に登つて来るやうにさすめた。毎朝早く山に登ることは、お醫者様のからだの爲めにぎんなによいかわからないし、望みさあらばこの山ぢうさこへでも案内しよう云つた。お醫者様は大層よろこんで、おぢいさんのいふ通りにすることに決めた。

その間に日は高くのぼつて、お晝になつてゐた。風は風ぎ、樅の木も枝をおさめた。こんな高い山なのに、不思議に日の光りは暖く和やかに、ぽかぽかしたぬくもりには、かぐはしい新鮮さがまじつてゐるのだつた。

おぢいさんは立ち上つて、内からテーブルを持ち出して来て、三人の前に据ゑた。

「さあハイディ、食事の道具を持つておいで。先生、ごらんの通り、なんのお構ひも出来ませんが、まあこの立派な食堂に免じて、我慢していただくさしませうかい」

「ぢや、全くですや」

お醫者様は日に輝く谷間を眺め渡し乍云つた。「それに、御心づくしの程、厚く御禮申し上げます。ここでは何をいただいても、きつさおいしいでせう」

ハイディは蜜蜂のやうに忙がしく、印度も行つたり來たりしながら、戸棚ぢうのものを持ち出した。お醫者様をおもてなしするお手傳ひの出来るのが、うれしくつてたまらなかつた。おぢいさんはその間に食事の支度をして、しぼり立てのぽかぽか湯氣の立つお乳や、狐いろにこんがり焼いたチーズや、手製の燻し肉の薄切りなぎを、次ぎ次ぎさ出して來た。お醫者様はこの一年間さいふもの、こんなにおいしいと思つたことがない云つて喜んで、それを食べた。

「クララをさうしてもこへつれて來なくちゃいけませんな。きつさ生れ變つたやうになりますよ。今日みたいにおいしく、クララも食が進めば、見違へるほぎ肥えて來ますからね」

お醫者様がかう云つてゐる時、一人の男が大きな荷物をかついで登つて來た。小屋に著くさ、さしんさそれを地面に投げ出し、ふーつさ深く二息三息山の空氣を吸ひ込んだ。

# 日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三  
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

## 日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
  - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
  - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
  - 一、雜誌發行(毎月一回)
  - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
  - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
  - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 會長 一名 會務ヲ總理ス
  - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ジ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

### 價定

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁 二等面一頁
六ヶ月分	金貳圓拾錢	金貳拾圓 金拾圓
一年分	金四圓貳拾錢	一等面一頁 一頁以下
拾貳册送	金四圓貳拾錢	金拾五圓 御贖り
拾貳册送	金四圓貳拾錢	神田區駿河臺ノ三品田
拾貳册送	金四圓貳拾錢	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
 昭和十四年八月二十八日印刷納本  
 昭和十四年九月一日發行  
 幼兒の教育 第三十九卷 第八・九號

### 不許複製 禁止轉載

發行所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內  
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷者 柴山 則常  
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷所 倉橋 惣三  
 東京市小石川區大塚町三十五  
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

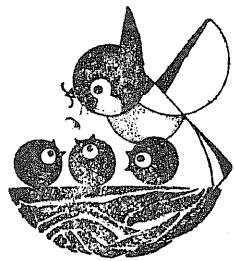
### 發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

### 注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は是様一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたします。其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。





東京女子高等師範學校教授  
同附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生監修

# 保育叢書

四六判 總布  
本綴 箱入  
各册 定價 金一圓  
送料 六錢

## 保育の實際指導書はこれ

本叢書は倉橋教授が具に監修したる、幼児保育界に於ける權威者の筆に  
なれる實際保育の指導書にして、其の述ぶる所悉く之を幼児に愛兒に施し  
て明瞭、保育上聊も缺くるなき「幼きものへの福音」であり、世の幼児保育  
者各位並に家庭のお母アさまに展開された擴大せる視野でもある、幼児の  
爲に奨む可き絶好の指針である。

第一編

東京女子高等師範幼稚園保母  
同 幼児のため  
人形芝居脚本

菊地ふじの先生共著  
徳久孝子先生著

第二編

東京女子高等師範幼稚園保母  
同 幼稚園の  
幼稚園の  
手技製作

及川ふみ先生著

第二編

眞規子先生著  
自然物おもちゃ

第四編

目白幼稚園保母養成所長 和田 實先生著  
實驗保育學

東京帝大教授 文學博士  
淡路 圓治 郎 著

幼兒性行評定尺度

金全  
圓册

文學博士 淡路 圓治 郎 著  
文學士 牛島 義友 共著  
文學士 吉田 虎彦 著

幼兒發達檢査

金全  
圓册

石井 漢著

子供の舞踊

金全  
二圓五十錢  
册

鈴木 重章著

シルエットの作り方

金全  
圓册

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可  
(毎月一回) 發行

昭和十四年八月二十八日印刷納本  
昭和十四年九月一日發行

臨時定價七拾錢

## 株式會社 丸の内

本社 東京 神田 二丁目 電話 三六六二番  
支店 大阪 東區 五丁目 電話 一八九八番